

．調査の内容について

本調査は以下の3種の調査からなり、それぞれの調査の概略は次のとおりである。

1．道民観光消費実態調査

北海道民全世帯が1年間に行う観光行動のうち札幌市に係る観光行動と消費を把握

(調査対象単位：世帯)

観光消費の範囲

観光消費の範囲は経済効果の全容を把握するために、単に交通機関や宿泊、みやげに支出した金額にとどまらず、観光行動が起こされることによって発生した消費すべてを網羅する。

モニター数

調査内容には緻密さが要求されることから、1,100世帯のモニターを募り、観光行動と消費の詳細な報告を依頼する。

消費額推計

モニター調査で得られた数値から統計的処理を経て、札幌市民世帯及びその他の道民世帯による札幌市内での行動と消費の推計を行う。

2．道外客観光消費実態調査

1年間に来道した道外観光客のうち札幌市を訪れる道外客が行う観光行動と消費を把握

(調査対象単位：道外観光客個人)

観光消費の範囲

道民に対する調査と同様に、観光行動にともなって発生した札幌市内での消費全体。

モニター数

道外観光客の主要な道内到着地点において1,000名のモニターを募り、北海道観光中の行動と消費の詳細な報告を依頼する。

消費額推計

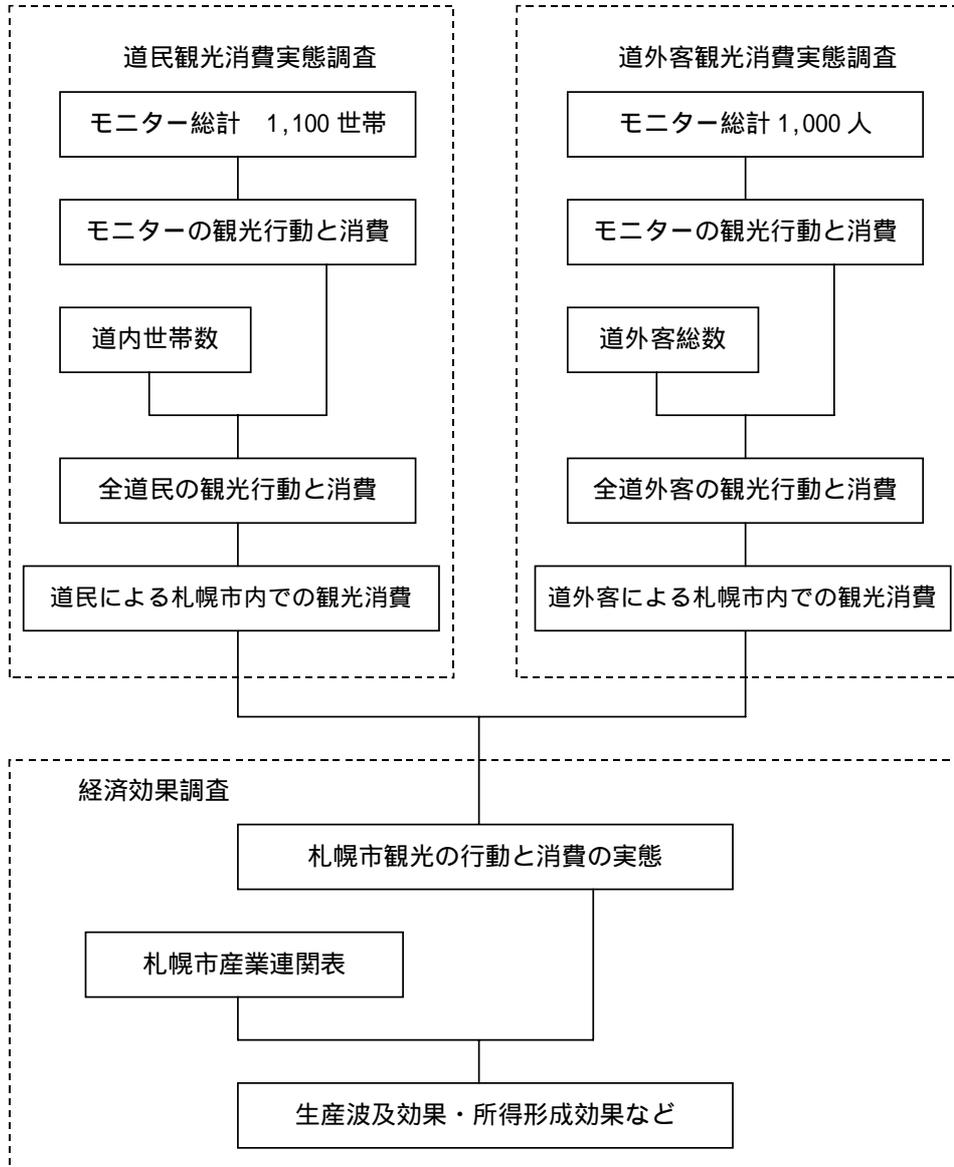
モニター調査で得られた数値から統計的処理を経て、道外観光客による札幌市内での行動と消費の推計を行う。

3．経済効果調査

上記の2調査の結果から、既存の統計データや調査結果からは漠然として捉えようのない札幌市における観光行動の内容と消費の実態を把握する。

これまでの調査と同様に、札幌市産業連関表を活用しながら、上記の結果をもとに生産波及効果、所得効果などの分析を行い観光関連産業の経済的な規模と位置を把握する。これらの結果、札幌市での観光ではどのような行動でどれほどの消費が行われ、その消費が札幌市の経済にどれほどの影響を与えているのかを明らかにする。

調査概念フロー図



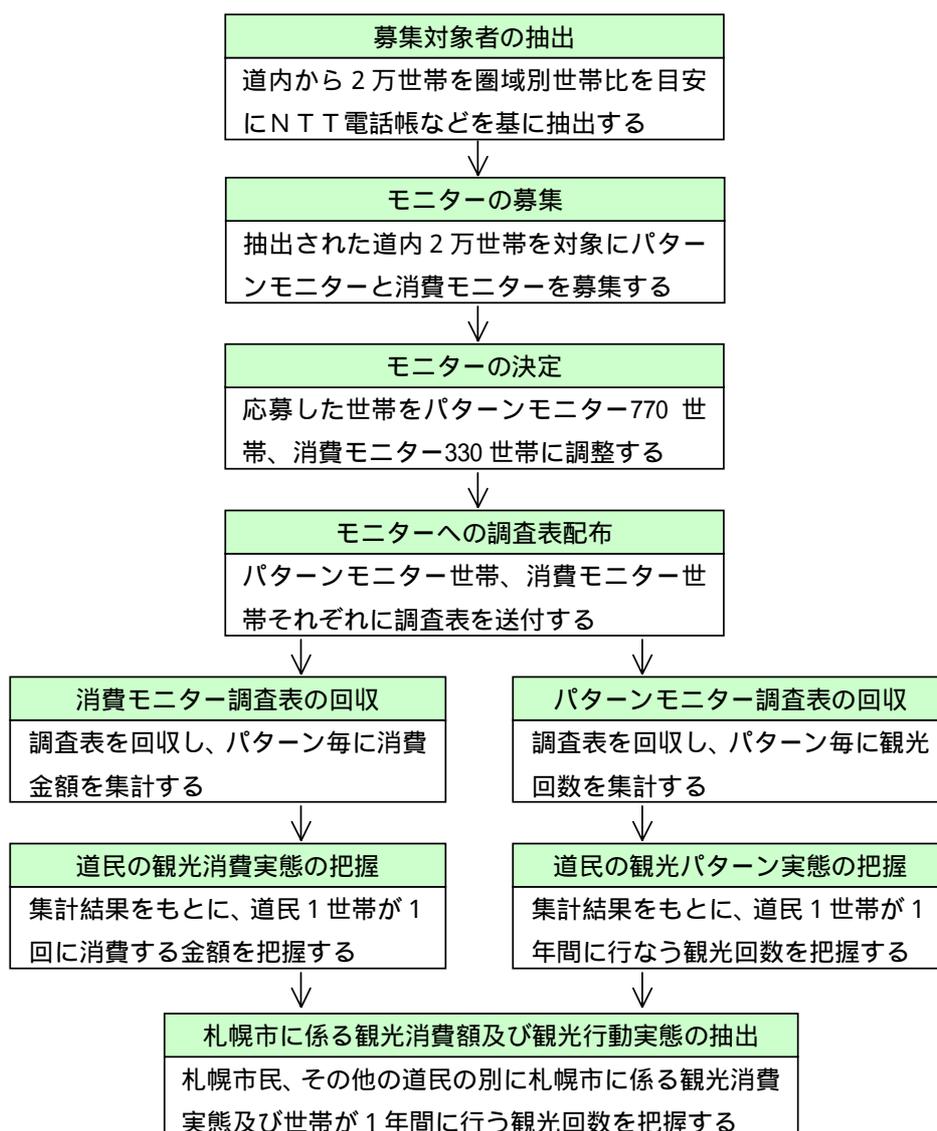
北海道観光消費実態調査の概要

1. 道民の観光消費実態調査

1.1 道民観光モニター調査の方法

(1) 調査の手順

道民観光モニター調査の手順



N T T 電話帳などを基に 2 万世帯の抽出を行う。

抽出した 2 万世帯を対象にパターンモニターと消費モニターを募集する。

道内各圏域の世帯数比及び世帯構成に配慮して、パターンモニター 770 世帯、消費モニター 330 世帯の合計 1,100 世帯を観光モニターとして決定する。

パターンモニターには 1 年間にわたり行った観光行動を 5 つの観光パターンごと（日帰りドライブ、日帰り行楽、一泊休養・リフレッシュ旅行、一泊行楽旅行、多数泊旅行）に報告してもらう。

消費モニターには上記の観光パターンに加え、その観光パターンごとの消費金額を詳細に報告してもらう。

パターンモニター及び消費モニターの調査結果から得られた道民全体の観光行動と消費金額のうち、札幌市に係るものを抽出し、札幌市民世帯及びその他の道民世帯の別に 1 年間に各世帯が札幌市で観光を行う回数とその際の消費金額を把握する。

なお、消費金額については、観光パターンや立ち寄った目的地の数などから札幌市内での消費分を推計する。

（ 2 ） 総観光消費額の推計

観光モニター調査から得られた札幌市民及びその他の道民のデータ（観光 1 回当たりの消費金額、観光回数）とそれぞれの世帯数をもって、道民全体による札幌市での 1 年間の観光消費を拡大推計し、総観光消費額を把握する。

札幌市民及びその他の道民の総世帯数については、平成 12 年国勢調査の数値を使用する。

道民観光消費実態の推計手順

観光1回当たりの 札幌市での消費額 (観光消費モニター)	1世帯が1年間に行う 札幌市に係る観光回数 (観光パターンモニター)		各観光形態別の札幌市内で 1年間に消費された金額の総額		
日帰り観光の 金 額	×	日帰り観光の 回 数	×	札 幌 市 世 帯 数	札幌市民による 日帰り観光総額
宿泊観光の 金 額	×	宿泊観光の 回 数	×	札 幌 市 世 帯 数	札幌市民による 宿泊観光総額
札幌市外観光の 金 額	×	札幌市外観光の 回 数	×	札 幌 市 世 帯 数	札幌市民による 市外観光総額
日帰り観光の 金 額	×	日帰り観光の 回 数	×	札幌市以外の 総世帯数	札幌市以外に居 住の道民による 日帰り観光総額
宿泊観光の 金 額	×	宿泊観光の 回 数	×	札幌市以外の 総世帯数	札幌市以外に居 住の道民による 宿泊観光総額
+)					観光で全道の世帯が 札幌市内において 1年間に消費した金額

世帯数は、平成12年国勢調査報告の数値を使用
 札幌市に係る観光は基本的に日帰り観光と宿泊観光の2つのパターンに分類
 ただし、札幌市民については札幌市外を訪れる観光であっても、札幌市内での消費が一部発生す
 るため、市外観光を含めた3つのパターンに分類

1.2 観光モニターの募集・決定

全道から抽出された2万世帯に対し、観光モニターの内容説明資料（消費モニターとパターンモニター）と応募用紙を兼ねた往復ハガキを送付し、観光モニターの募集を行う。募集に際し、モニターの種別は調整される旨を明示する。

消費モニターへの応募者を各圏域の世帯数比を目安に抽出し、330世帯を確定する。パターンモニターを希望した応募者と、消費モニターとパターンモニター両方を希望した応募者は全てパターンモニターとして採用する。

さらに、パターンモニターを770世帯確保するために、消費モニターを希望しながら抽出にもれた応募者からパターンモニターを抽出する。その際、道内各圏域の世帯数比及び世帯構成を配慮する。

確定した観光モニターの構成については、下表に示すとおり。

観光モニターの構成

区分	消費モニター	パターンモニター	合計		国勢調査(H12)	
				構成比		
圏域	道央	199	435	634	57.6%	61.0%
	道南	30	70	100	9.1%	8.9%
	道北	40	79	119	10.8%	12.0%
	オホーツク	19	58	77	7.0%	5.8%
	十勝	21	69	90	8.2%	6.0%
	釧路・根室	21	59	80	7.3%	6.2%
	合計	330	770	1,100	100.0%	100.0%
人口規模	大都市	106	261	367	33.4%	33.9%
	10万人以上都市	97	262	359	32.6%	30.0%
	10万人未満都市	52	92	144	13.1%	15.1%
	町村	75	155	230	20.9%	21.1%
	合計	330	770	1,100	100.0%	100.0%
世帯人員	1名	5	32	37	3.4%	30.0%
	2名	118	264	382	34.7%	30.0%
	3名	92	185	277	25.2%	18.4%
	4名	73	166	239	21.7%	14.5%
	5名	31	88	119	10.8%	4.9%
	6名以上	11	35	46	4.2%	2.3%
	合計	330	770	1,100	100.0%	100.0%

注) 四捨五入のため構成比の合計は必ずしも100.0にならない。

1.3 調査票の回収結果

観光消費モニター及び観光パターンモニターの回収結果は、下表に示すとおり。

観光モニターの回収結果

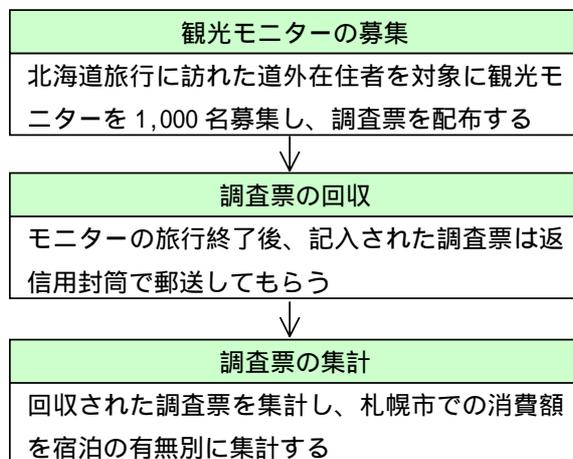
	消費モニター(330世帯)		パターンモニター(770世帯)	
	回収数	回収率	回収数	回収率
第1期(7~9月)	327	99.1%	737	95.7%
第2期(10~12月)	328	99.4%	731	94.9%
第3期(1~3月)	327	99.1%	728	94.5%
第4期(4~6月)	323	97.9%	716	93.0%

2. 道外客の観光消費実態調査

2.1 観光消費モニター調査の方法

(1) 調査の手順

観光消費モニターの手順



一年間を4期に分け、調査期間内に北海道を訪れた道外観光客に対して、観光消費モニターを依頼し、了承を得たモニターに調査票を配布する。

モニターには北海道旅行の目的や旅行中に北海道内で消費した金額などを詳細に調査票に記入してもらう。

モニターの旅行終了後、記入された調査票は返信用封筒で郵送してもらう。

回収した調査票を集計し、道外観光客が札幌市で消費する観光消費額を宿泊の有無別に求める。

観光消費モニターの募集に関しては、モニター確保の確実性の向上、効率化を図るため、対北海道便（下り便）の道内到着地にて、直接依頼形式でモニター募集を行った。調査地点は下記の5地点であり、各空港管理事務所、JR北海道及び東日本フェリーの協力を得て行った。

- ・新千歳空港（到着ロビー）
- ・旭川空港（到着ロビー）
- ・女満別空港（到着ロビー）
- ・北斗星車内（上野～札幌間）
- ・八戸フェリーターミナル（夏期のみ）

（２）総観光消費額の推計

観光消費モニター調査から得られた道外観光客の札幌市での観光消費額（宿泊の有無別）とそれぞれの道外観光客数をもって、道外観光客による1年間の観光消費を拡大推計し、総観光消費額を把握する。

札幌市に訪れた道外客数は、「札幌の観光」（札幌市観光文化局観光部観光企画課）で示される札幌市への道外客入込数を使用した。また札幌市での宿泊の有無の割合については、モニター調査結果を参考にした。

道外客観光消費実態の推計手順

道外客が1回の来道で札幌市内で消費する観光消費 （観光消費モニター）	1年間に来道した道外客数 （観光入込みに関する資料）	札幌市に訪れた道外客が1年間に札幌市内で消費した総額
札幌市立ち寄りの金額	×	札幌市立ち寄りの道外客数
		道外客による 立ち寄り観光総額
札幌市宿泊の金額	×	札幌市宿泊の道外客数
		道外客による 宿泊観光総額
		+)
		観光で全道外客が 札幌市内において 1年間に消費した金額

2.2 調査票の回収結果

観光消費モニターの回収結果は、下表に示すとおり。

観光消費モニターの回収結果

	配布数	回収数	回収率
新千歳空港	360	344	95.6%
旭川空港	170	159	93.5%
女満別空港	170	160	94.1%
JR	200	185	92.5%
フェリー	100	89	89.0%
合計	1000	937	93.7%

3. 経済効果調査

3.1 観光がもたらす経済効果の分析

道内外の人々の観光行動にともなう消費は、単に消費者に対する売上を計上している産業にとどまらず、その産業が消費者に商品や各種サービスを販売するに至るまでにかかわっている他の多くの産業へと波及している。

こうした産業間における物財的・貨幣的連関状況を表したものが産業連関表であり、本調査では産業連関表を用いることにより、観光客のさまざまな消費が、結果として北海道の産業・経済にどれだけの効果をもたらしたのかを分析する。

分析の詳細については、「資料編1. 産業連関表を用いた経済効果分析」を参照。

．札幌市観光消費実態調査の結果

1．札幌市民による札幌市内での観光消費実態

1．1 札幌市民の観光行動について

ここではパターンモニター調査から札幌市民が1年間に行う観光行動を世帯単位で捉えることとして、観光行動の形態を「日帰りドライブ」、「日帰り行楽」、「1泊休養・リフレッシュ旅行」、「1泊行楽旅行」、「多数泊旅行」の5つのパターンに分けて把握する。

それぞれの観光パターンの内容は下表のとおりである。また、仕事などに観光を兼ねた場合も、観光に該当する部分の行動は調査の範囲として捉えている。

観光パターンの内容

観光行動の形態	内 容
日帰りドライブ	日帰りのドライブを第一目的とする観光・レジャー。行動範囲は居住している市町村の外まで行くことを前提とし、居住市町村内でのドライブについては観光・レジャーに含めない。
日帰り行楽	居住している市町村の範囲内外を問わず一定の場所に行楽などを目的に日帰りで滞在することや、入園料、入館料、施設利用料などの一定料金の支払をともなう施設などを、日帰りで利用すること。ただし、パチンコ、競馬などのギャンブルは除く。
1泊休養・リフレッシュ旅行	休養、リフレッシュなどのために温泉などの宿に1泊することを主な目的とする旅行や、ドライブを目的とする1泊旅行。
1泊行楽旅行	日帰り行楽型と同様に行楽を目的とする1泊旅行。
多数泊旅行	休養、リフレッシュ、行楽を目的とした2泊以上の旅行。

(1) 観光への参加状況

どれだけの世帯がどのパターンの観光を行ったのかについて、参加率によりみていく。

ここで、参加率 = 観光を行ったモニター世帯 / モニター全世帯数

年間を通した札幌市民世帯の観光への参加状況を観光パターン別にみると、「日帰り行楽」が97.2%と参加する世帯の割合（参加率）が高い。

以下、「1泊行楽旅行」が74.1%、「日帰りドライブ」が68.9%、「1泊休養・リフレッシュ旅行」が61.8%、「多数泊旅行」が51.8%となっている。

観光パターン別の世帯参加率（年間）

	参加 世帯数	参加率
日帰りドライブ	173	68.9%
日帰り行楽	244	97.2%
1泊休養・リフレッシュ旅行	155	61.8%
1泊行楽旅行	186	74.1%
多数泊旅行	130	51.8%
総世帯数	251	-

各観光パターンの月別の参加状況

「日帰りドライブ」への参加率は8月が26.7%と最も高く、以下7月、10月の順となっている。全体的に7月から10月にかけての参加率が高く、12月から3月にかけての冬期間は参加率が低くなっている。

「日帰り行楽」は、年間通して参加率が高く、特に5月から10月にかけては70%以上の参加率となっている。これら以外の月もすべて60%以上の参加率を示しており、非常に参加率の高い観光となっている。

「1泊休養・リフレッシュ旅行」は、10月が16.3%と最も高く、以下12月、11月の順となっている。全体的に時期による変動は少ないが、2月及び4月から6月にかけての参加率がやや低くなっている。

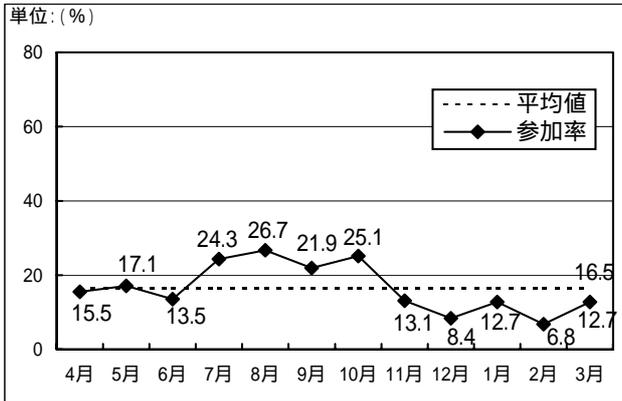
「1泊行楽旅行」は、8月が28.7%と最も高くなっているほか、7月、10月も20%を上回っている。全体的に7月から10月にかけての参加率が高く、11月から4月にかけては参加率が低くなっている。特に12月の参加率は5.2%と非常に低くなっている。

「多数泊旅行」は、夏休み等の長期休暇がある8月の参加率が19.1%と突出して高くなっている。全体的に5月から9月にかけての夏期間の参加率が高くなっているほか、春休みや冬休みのある3月や12月の参加率も高くなっている。

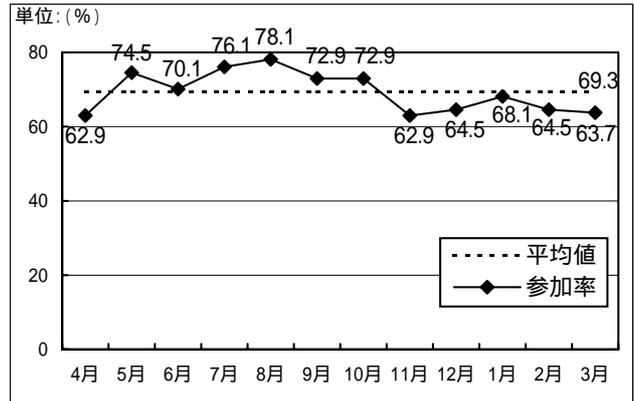
全体的には夏から秋にかけての時期に観光への参加が多くなり、秋から冬にかけての時期に参加が少なくなる傾向がある。また、いずれの観光パターンにおいても4月の参加率が低くなる傾向がある。

観光パターン別の月別参加率

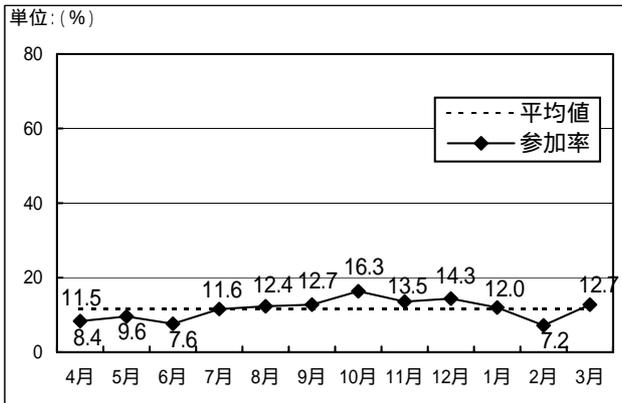
「日帰りドライブ」



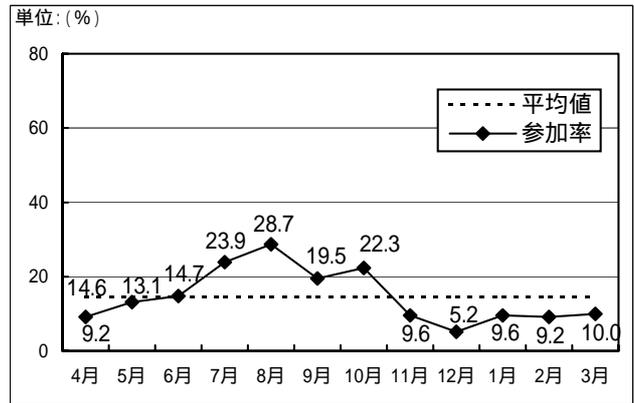
「日帰り行楽」



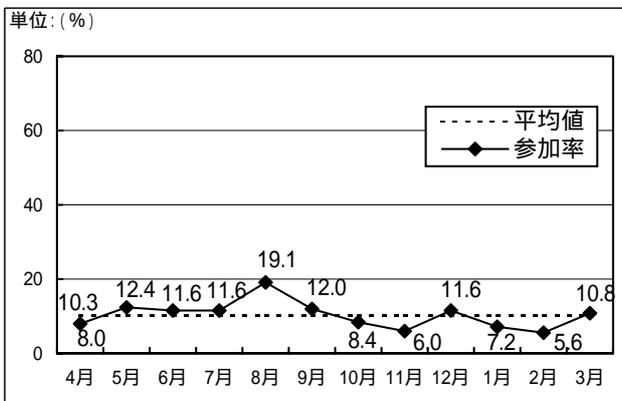
「1泊休養・リフレッシュ旅行」



「1泊行楽旅行」



「多数泊旅行」



過去の調査との比較

ア．月平均参加率の比較

過去の調査結果との比較では、「日帰り行楽」の参加率が増加しているのに対して、その他の観光パターンでは参加率が減少している。

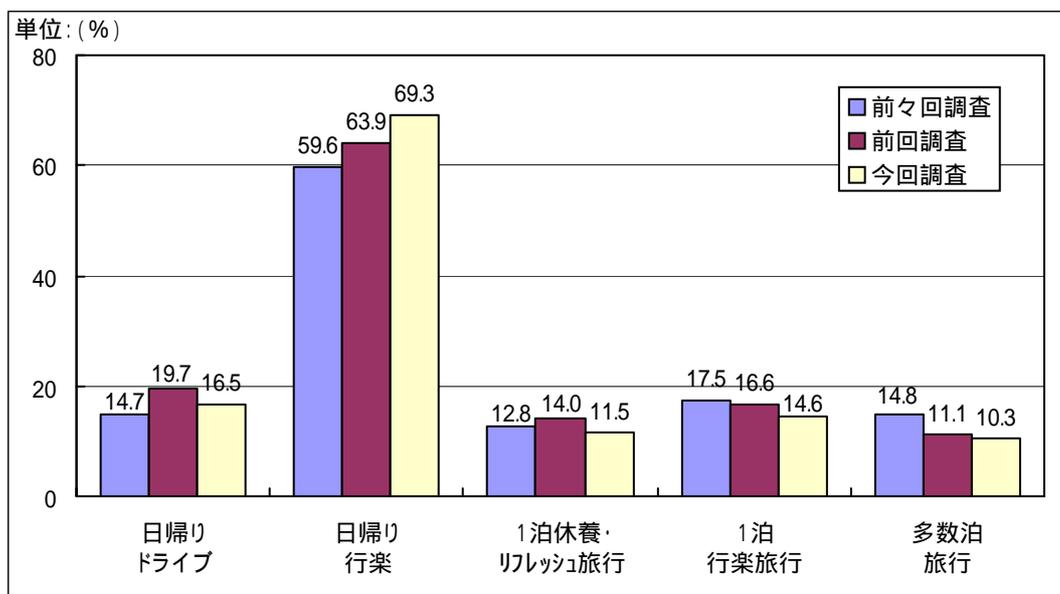
とりわけ「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」といった行楽的要素の大きい宿泊観光では調査の回を追うごとに参加率が減少しており、観光行動にける期間は短縮化が進んでいる。

本調査においては、過去2回にわたり同様の調査を行っており、それぞれの調査期間は以下のとおりである。

前々回調査：平成 5年 10月～平成 6年 9月

前回調査：平成 11年 1月～平成 11年 12月

月平均参加率の比較（観光パターン別）



イ．月別参加率の比較

各観光パターンにおける参加率の月別変動を前回調査と比較すると、「日帰りドライブ」は10月こそ参加率が増加したものの、全体的に減少傾向にあり、中でも4月から6月にかけての減少が目立っている。

「日帰り行楽」は全体的に増加傾向にあり、中でも7月から8月にかけての参加率が大きく増加しており、年間を通して参加率の高い時期となった。また前回調査まで参加率が極端に低かった3月も参加率が大きく増加している。

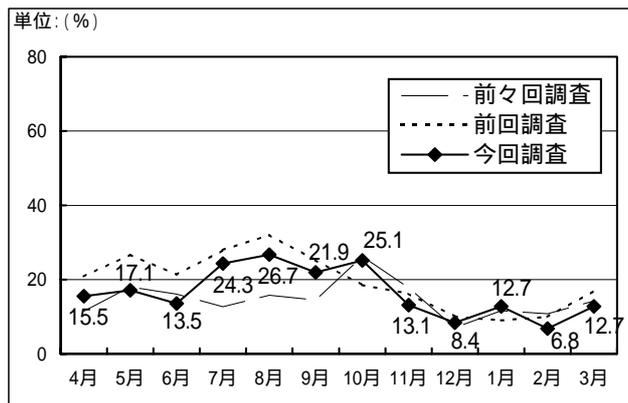
「1泊休養・リフレッシュ旅行」は全体的には前回調査とほぼ同様の傾向となっているが、2月の落ち込みが目立っている。

「1泊行楽旅行」は5月と12月の落ち込みが大きくなっている。全体的には夏から秋にかけて参加率が微増しているものの、冬から春にかけては参加率が減少傾向にある。

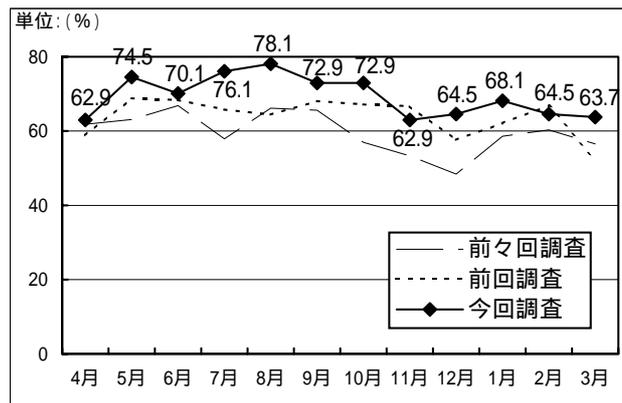
「多数泊旅行」は全体的には前回調査とほぼ同様の傾向となっているが、10月と1月の参加率が減少するとともに、9月と12月の参加率が増加している。

観光パターン別の月別参加率の比較

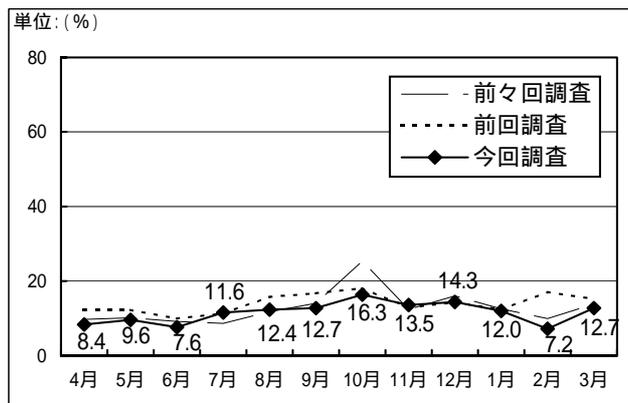
「日帰りドライブ」



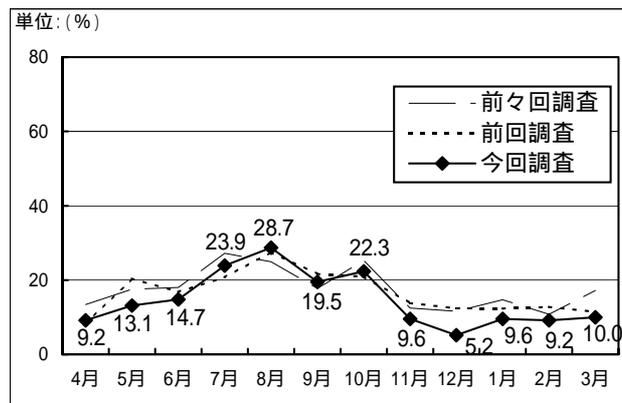
「日帰り行楽」



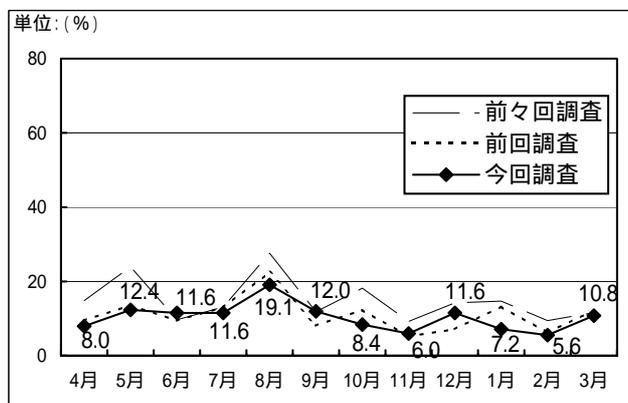
「1泊休養・リフレッシュ旅行」



「1泊行楽旅行」



「多数泊旅行」



(2) 1世帯当たりの年間観光回数

1年間における1世帯当たりの延べ観光回数を観光パターン別にみると、参加率の最も高い「日帰り行楽」が32.78回と最も多く、全体の79.9%を占めている。

以下、「日帰りドライブ」が3.13回(7.6%)、「1泊行楽旅行」が1.99回(4.8%)、「1泊休養・リフレッシュ旅行」が1.61回(3.9%)、「多数泊旅行」が1.50回(3.7%)となっている。

1世帯当たりの延べ観光回数(観光パターン別)

	観光回数	構成比
日帰りドライブ	3.13	7.6%
日帰り行楽	32.78	79.9%
1泊休養・リフレッシュ旅行	1.61	3.9%
1泊行楽旅行	1.99	4.8%
多数泊旅行	1.50	3.7%
合計	41.00	100.0%

四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも100とはならない。

観光パターン別の月別の観光回数

「日帰りドライブ」は7月から10月にかけて多く、その観光回数は0.3~0.4回となっている。

「日帰り行楽」は年間通して月2.0回以上の観光回数となっており、特に5月から9月にかけては3.0回を超える観光回数となっている。

「1泊休養・リフレッシュ旅行」は4月、6月、2月を除き観光回数が月0.1回以上となっており、中でも10月から12月にかけての観光回数が多くなっている。

「1泊行楽旅行」は7月から10月にかけての観光回数が多く、0.2回を超えている。中でも7月は0.33回と最も多くなっている。

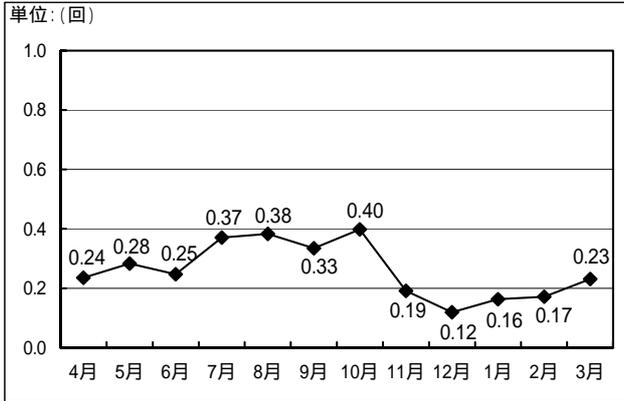
「多数泊旅行」は、ほとんどの月の観光回数が0.1回程度となっているが、8月の観光回数が0.23回と多くなっている。

全体的には5月から10月にかけての観光回数が多く、中でも7~8月については観光回数が4.0回を超えており、世帯単位でみた場合、1週間に1回程度は何らかの観光行動を行っているといえる。

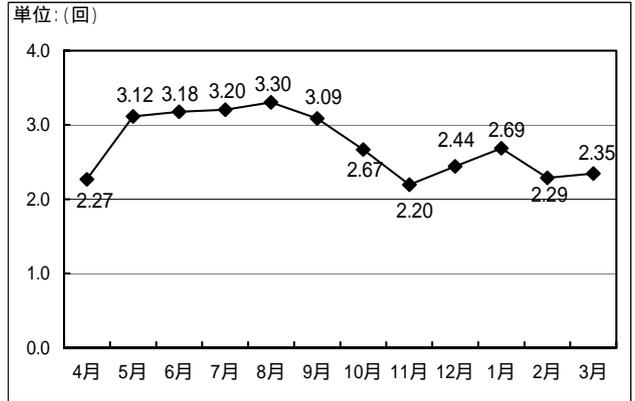
一方、観光回数が少ないのは11月から4月にかけてであり、中でも2月の観光回数が2.70回と最も少なくなっている。

観光パターン別の月別観光回数（1世帯当たり）

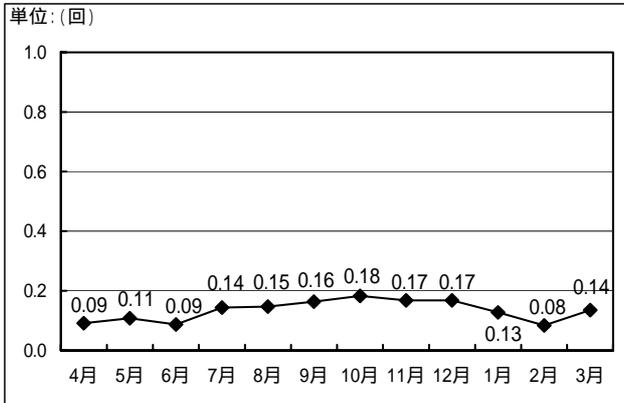
「日帰りドライブ」



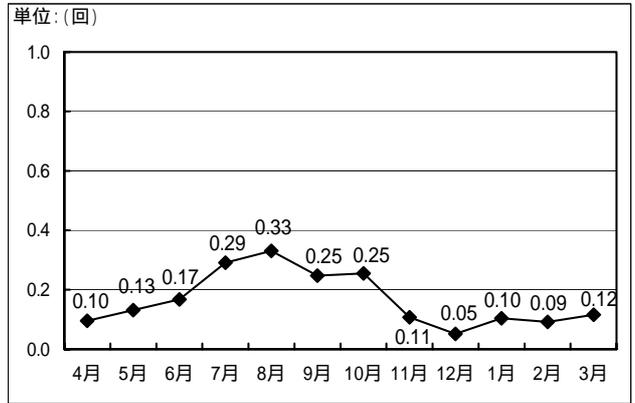
「日帰り行楽」



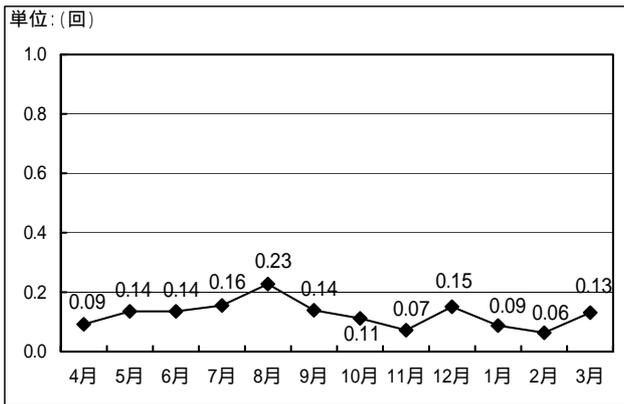
「1泊休養・リフレッシュ旅行」



「1泊行楽旅行」



「多数泊旅行」



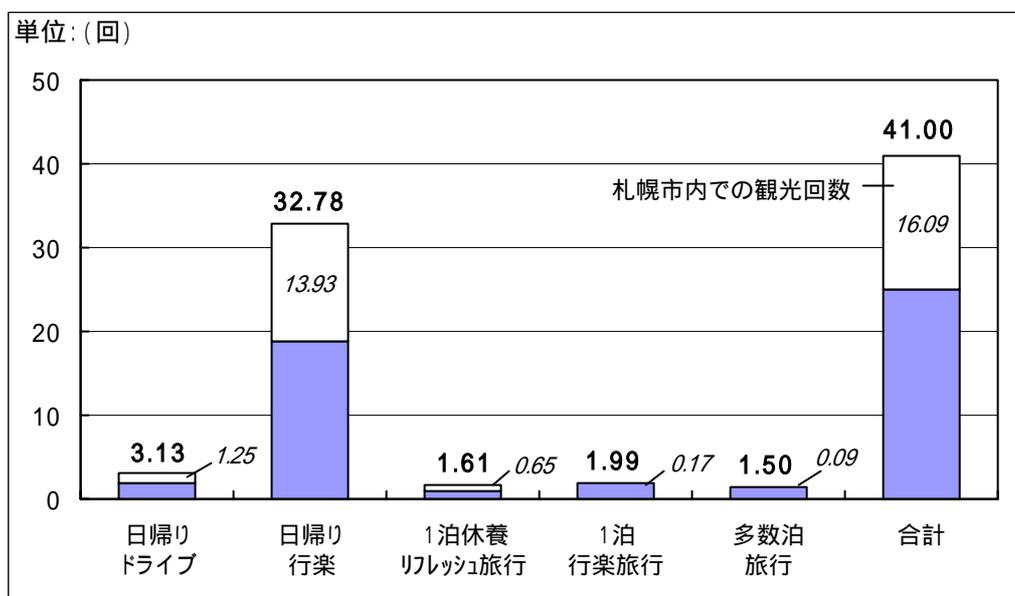
札幌市内での観光回数

札幌市民1世帯当たりの年間観光回数は全体で41.00回となっていたが、このうち札幌市内での観光回数は16.09回とおよそ4割を占めている。

観光パターン別にみると、「日帰り行楽」が13.93回と最も多く、札幌市内での観光回数全体の9割近くを占めている。そのほかの観光パターンについては、「日帰りドライブ」が1.25回、「1泊休養・リフレッシュ旅行」が0.65回、「1泊行楽旅行」が0.17回、「多数泊旅行」が0.09回となっている。

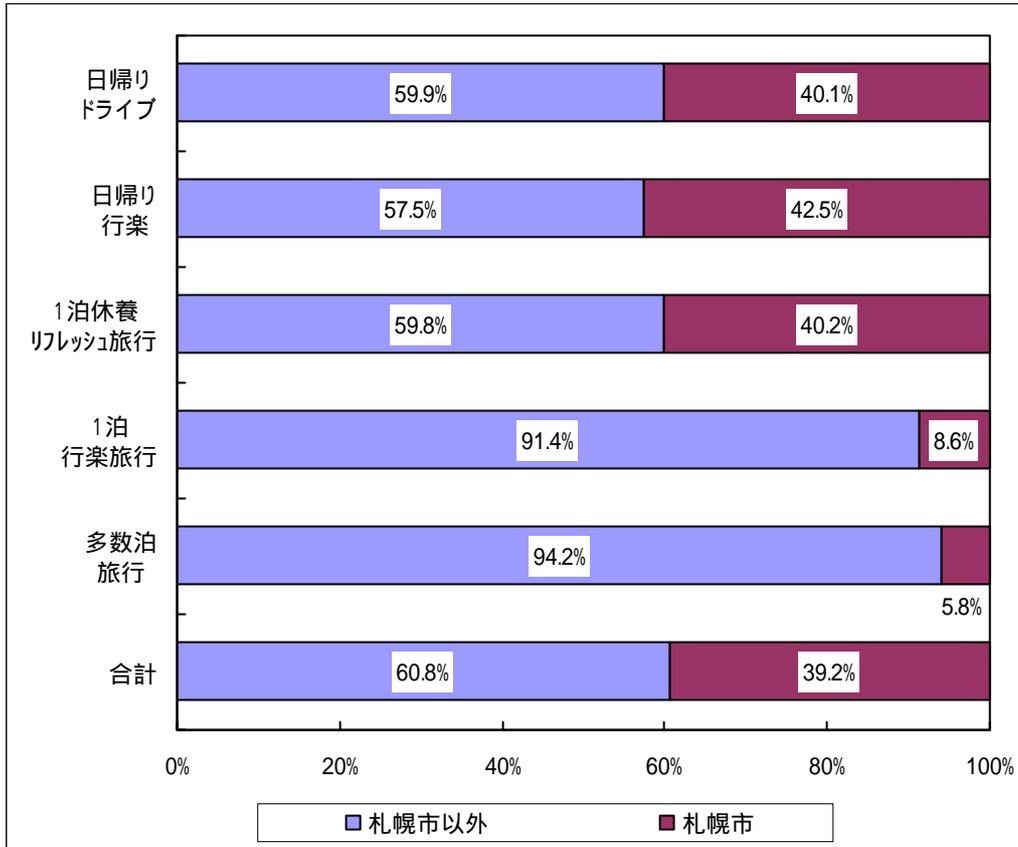
札幌市で観光を行う割合を観光パターン別にみると、「日帰りドライブ」「日帰り行楽」「1泊休養・リフレッシュ旅行」での割合が高く、いずれも40%を超えている。一方、「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」については10%を下回っている。

1世帯当たりの延べ道内観光回数に占める札幌市内観光回数の割合



図中の斜字で示した数値は札幌市内での観光回数を示す。

観光パターン別の札幌市での観光回数の割合



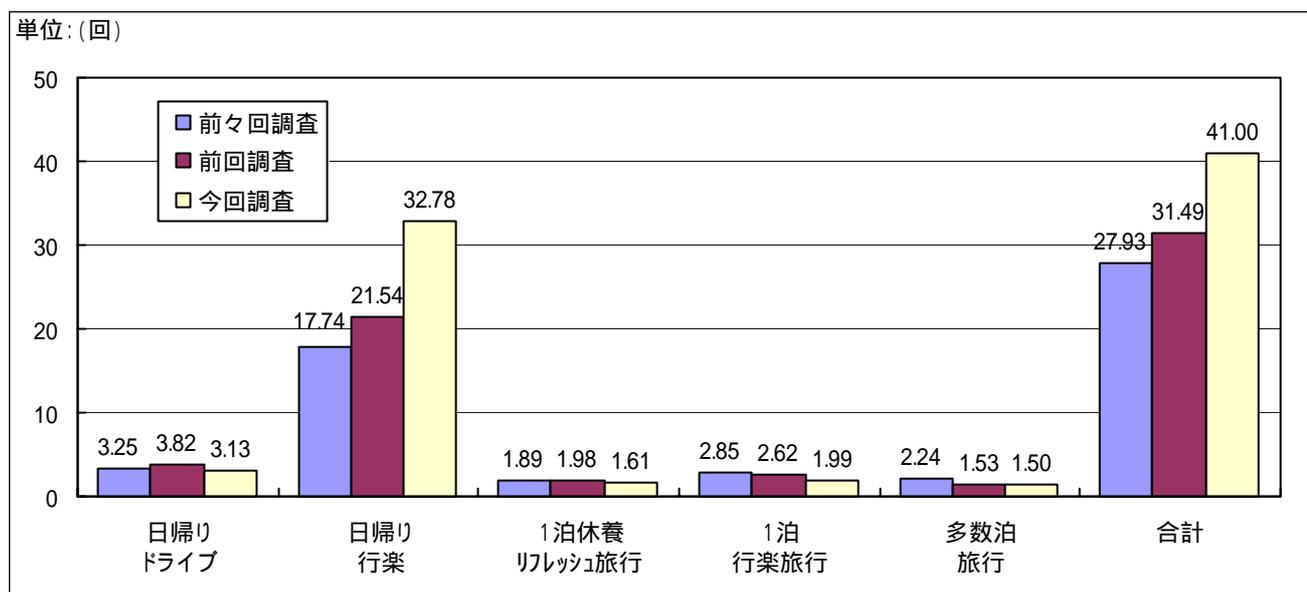
過去の調査との比較

ア．観光パターン別の年間観光回数の比較

過去の調査結果との比較では、「日帰り行楽」の観光回数が 11.24 回と大きく増加している。一方、その他の観光パターンでは観光回数が減少しており、最も減少幅が大きかったのは「日帰りドライブ」の 0.69 回となっている。

この結果、年間の総観光回数は 41.00 回となり、前回調査の 31.49 回からは 9.51 回の増加となっている。

1 世帯当たりの年間観光回数の比較（観光パターン別）



イ．月別観光回数の比較

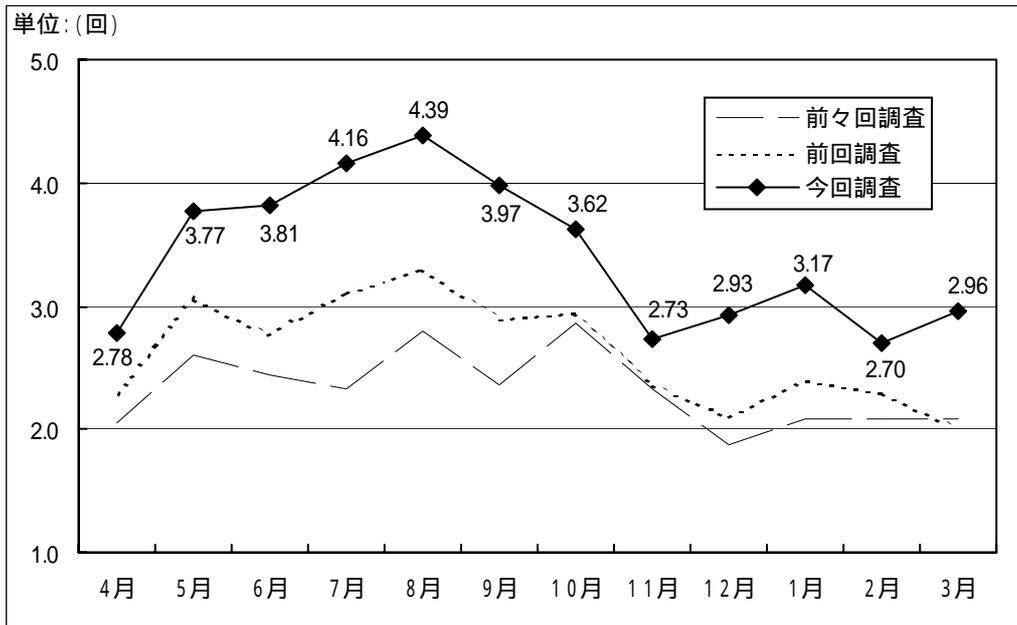
前回調査では5月から9月にかけての観光回数が大きく増加した結果、札幌市民世帯の観光は春から秋にかけて平均的に行われるようになっていた。

夏期の観光回数が増加するという傾向は今回調査でもみられ、特に6～9月の観光回数はすべて 1.0 回以上の増加となっている。

この結果、札幌市民世帯の観光行動は8月をピークに、5月から10月の長期間にわたり、幅広く行われるようになってきていることがうかがえる。

また、1年間の総観光回数が 9.51 回と大幅に増加したことに伴い、全体的に観光回数が底上げされている。11月と2月こそわずかな増加（11月：0.37回、2月：0.41回）にとどまったが、その他の月はすべて 0.5 回以上の増加となっている。

月別観光回数の比較

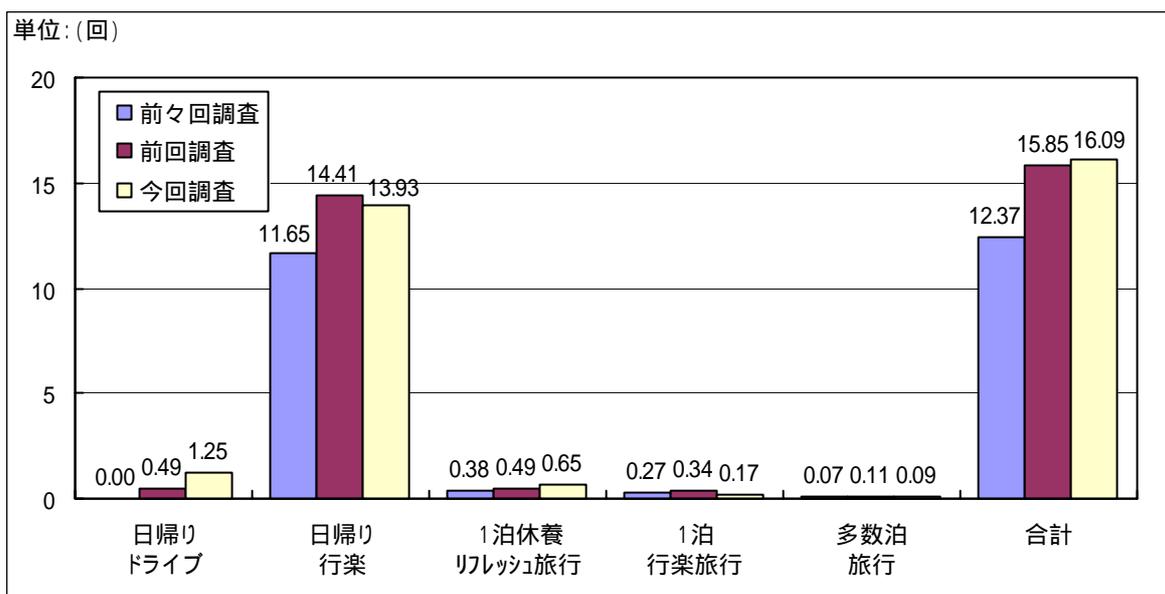


ウ．札幌市内での観光回数の比較

札幌市内での観光の中心となっている「日帰り行楽」のほか、「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」の観光回数が減少している。一方、「日帰りドライブ」「1泊休養・リフレッシュ旅行」では観光回数が増加している。

この結果、年間の札幌市内での観光回数は、前回調査の 15.85 回からは 0.24 回の増加となっている。

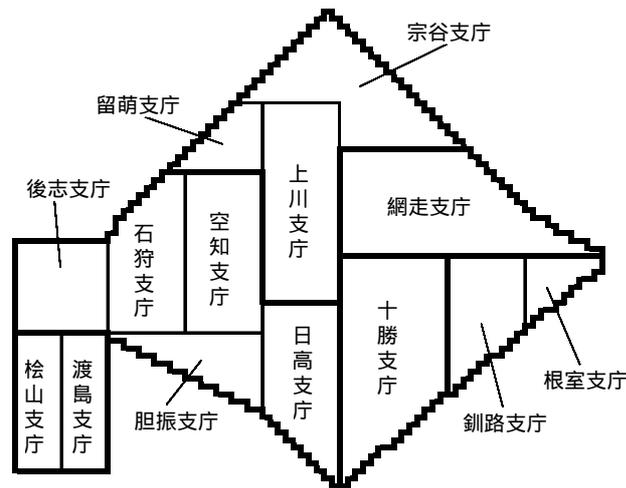
札幌市内での観光回数の比較（観光パターン別）



(3) 観光行動の範囲

札幌市民の観光行動の範囲について、訪問先を支庁単位で整理し、各支庁にどれくらいの割合で訪れているのかを観光パターン別にみることにした。

観光行動範囲図における支庁の位置



「日帰りドライブ」は石狩支庁が訪問先の中心となっているが、近隣の後志支庁、空知支庁への訪問も多く、道央圏に訪問先が集中している。

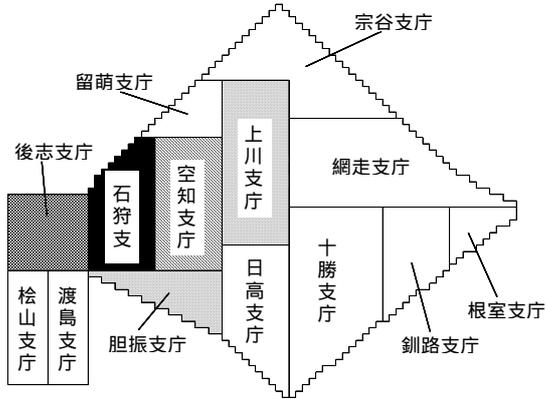
「日帰り行楽」は訪問先が石狩支庁に集中しており、同じ日帰り観光の「日帰りドライブ」よりも行動半径が狭くなっている。

宿泊をとまなう観光のうち「1泊休養・リフレッシュ旅行」及び「1泊行楽旅行」は石狩支庁の訪問割合が最も高くなっているほか、胆振支庁や後志支庁など近隣の圏域への訪問も多い。日帰り観光と比べて行動範囲が広がっており、渡島支庁、上川支庁、網走支庁、十勝支庁などを訪問するケースみられる。

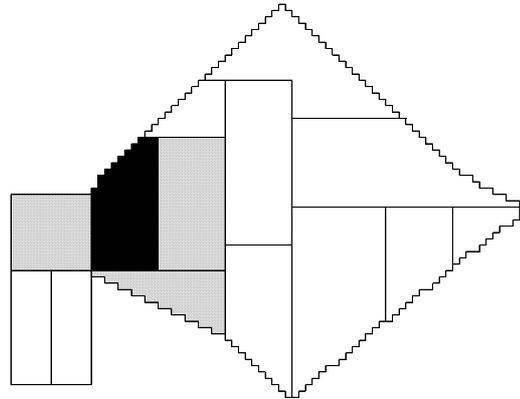
観光日数がより長くなる「多数泊旅行」は1泊旅行より更に行動範囲が広がっており、ほぼ全道が訪問対象の地域となっている。胆振支庁への訪問割合が最も高くなっているが、渡島支庁、上川支庁、網走支庁、十勝支庁の訪問割合がそれぞれ10～20%となっているように訪問地が分散している。

観光目的地の割合

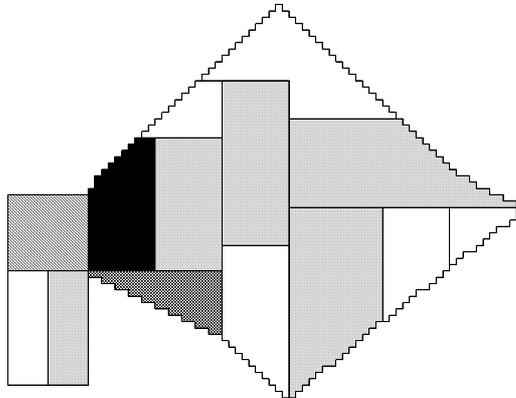
<日帰りドライブ>



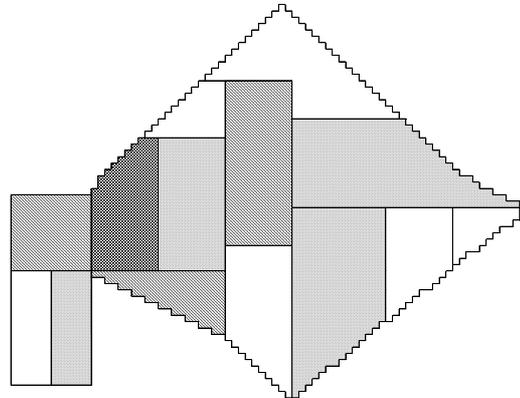
<日帰り行楽>



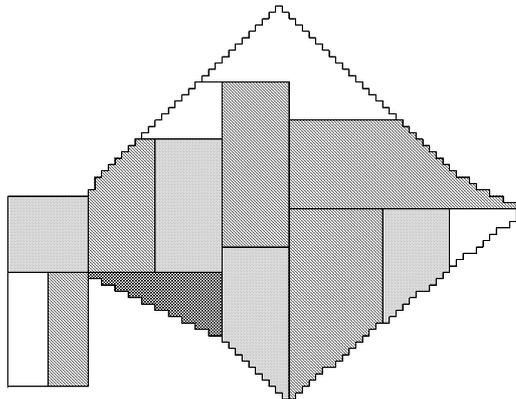
<1泊休養・リフレッシュ旅行>



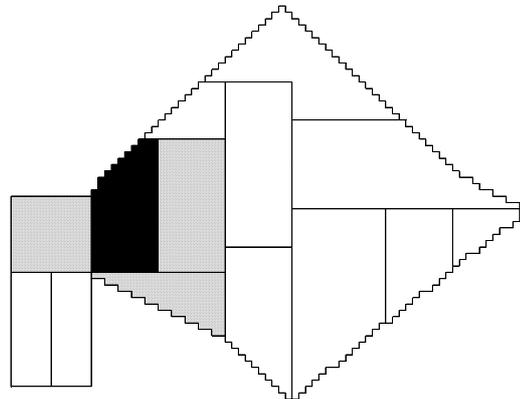
<1泊行楽旅行>



<多数泊旅行>



<全型合計>



凡	例
□ (White)	: 3%未満
■ (Light Gray)	: 3%以上10%未満
■ (Medium Gray)	: 10%以上20%未満
■ (Dark Gray)	: 20%以上30%未満
■ (Black)	: 30%以上

(4) 観光内容別の観光回数

観光パターン別にみた観光内容別の観光回数

札幌市民世帯が行った観光内容をみると、「ショッピング」が全体の15.3%と最も多くなっている。以下「温泉、湯治」が14.5%、「食べ歩き・グルメ」が12.5%、「映画館、演劇、コンサート」が8.5%、「お祭り、催し物参加・見物」が8.3%の順となっている。観光パターン別にみると、「日帰りドライブ」は「ドライブ」が全体の36.6%と最も多くなっている。以下「ショッピング」が16.3%、「食べ歩き・グルメ」が14.6%、「温泉、湯治」が11.7%の順となっており、ドライブを主目的とする観光であっても、行楽的要素を含んでいることがうかがえる。

「日帰り行楽」は「ショッピング」が全体の16.2%と最も多くなっている。以下「食べ歩き・グルメ」が12.5%、「映画館、演劇、コンサート」が10.2%の順となっている。そのほか「温泉、湯治」「お祭り、催し物参加・見物」「ゴルフ、テニス」等も差がなく続いており、多様な観光内容を示している。

「1泊休養・リフレッシュ旅行」は「温泉、湯治」が64.1%と突出して多くなっている。以下「宴会、慰安旅行」が14.7%、「ドライブ」が11.1%の順となっている。そのほか「食べ歩き・グルメ」「景勝地めぐり」「名所めぐり」等を挙げるケースもみられる。

「1泊行楽旅行」は「温泉、湯治」が全体の36.7%と最も多く、次いで「宴会、慰安旅行」が15.6%、「キャンプ・アウトドア」が14.0%の順となっている。そのほかは回答が割れており、「名所めぐり」「食べ歩き、グルメ」「ドライブ」「お祭り、催し物参加・見物」「景勝地めぐり」等が8～9%で並んでいる。

「多数泊旅行」は「温泉、湯治」が全体の52.2%と最も多くなっている。次いで「ショッピング」「食べ歩き・グルメ」「ドライブ」がそれぞれ16.5%で並んでいる。また「その他の観光・レジャー」を挙げるケースも多く、全体の13.7%を占めている。

月別にみた観光内容別の観光回数

春から秋にかけて多い観光内容としては「名所めぐり」「景勝地めぐり」「動物園、遊園地、テーマパーク」「スポーツ観戦」「ドライブ」「ハイキング、登山」「ゴルフ・テニス」「パークゴルフ」などが挙げられる。

秋から冬にかけて多い観光内容としては「温泉・湯治」「ショッピング」「食べ歩き・グルメ」「クアハウス・健康センター」「カラオケボックス」「映画館、演劇、コンサート」「宴会、慰安旅行」「スキー・スノーボード」などが挙げられる。

観光パターン別の観光内容

単位：%

	日帰り ドライブ	日帰り 行楽	1泊休養・ リフレッシュ旅行	1泊 行楽旅行	多数泊 旅行	全型計
1 名所めぐり	5.3	1.0	7.1	9.0	13.7	2.4
2 景勝地めぐり	6.7	1.2	8.1	8.0	14.0	2.7
3 花の名所めぐり	3.1	1.4	1.3	3.0	4.4	1.7
4 牧場めぐり	0.6	0.1	0.5	0.8	0.8	0.2
5 旧跡・産業遺産めぐり	1.0	0.4	0.8	1.2	2.7	0.5
6 社寺参詣・教会見学	2.6	1.3	2.3	3.0	2.5	1.6
7 お祭り、催し物参加・見物	5.3	8.7	5.1	8.2	9.6	8.3
8 温泉、湯治	11.7	9.4	64.1	36.7	52.2	14.5
9 ショッピング	16.3	16.2	5.6	5.0	16.5	15.3
10 食べ歩き・グルメ	14.6	12.5	8.6	8.8	16.5	12.5
11 クアハウス、健康センター	0.8	2.1	1.5	0.8	0.8	1.9
12 カラオケボックス	1.3	2.8	1.0	1.4	0.8	2.5
13 動物園、遊園地、テーマパーク	2.8	3.3	3.5	7.6	7.7	3.6
14 映画館、演劇、コンサート	3.2	10.2	0.5	1.4	0.8	8.5
15 博物館、美術館	2.1	3.0	1.5	2.2	3.6	2.9
16 宴会・慰安旅行	0.1	5.5	14.7	15.6	11.3	6.2
17 スポーツ観戦	0.6	4.2	-	0.8	1.4	3.5
18 海水浴	1.0	0.9	0.8	2.6	1.9	1.0
19 マリンスポーツ	0.1	0.6	-	0.4	0.5	0.5
20 キャンプ・アウトドア	0.1	0.5	0.3	14.0	4.9	1.3
21 フルーツ狩り	0.4	0.5	0.3	1.4	0.3	0.5
22 釣り	2.1	1.9	1.3	3.4	1.9	2.0
23 カヌー・ラフティング	-	0.0	-	1.0	0.3	0.1
24 農業・農産品加工体験	0.5	0.8	1.8	0.4	2.2	0.8
25 ドライブ	36.3	3.0	11.1	8.4	16.5	6.6
26 ツーリング・サイクリング	2.7	0.1	-	-	-	0.3
27 ハイキング、登山	0.6	1.8	0.5	4.4	1.1	1.8
28 スキー・スノーボード	0.9	2.5	3.0	4.0	2.2	2.5
29 ゴルフ・テニス	4.0	8.5	2.0	4.8	2.5	7.5
30 パークゴルフ	1.8	4.9	2.3	3.0	2.7	4.4
31 その他のスポーツ	1.0	6.2	-	4.2	3.6	5.4
32 その他の観光・レジャー	5.3	3.2	5.3	8.0	13.7	4.0
サンプル計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

数値欄を塗りつぶしてあるのは観光回数で上位5位までの観光内容。

「-」は該当する値がないことを、「0.0」は単位に満たないことを示す。

観光内容の月別構成（全型計）

単位：%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
1 名所めぐり	2.0	1.7	2.1	4.7	4.2	4.0	3.3	1.8	0.7	0.5	0.7	1.1	2.4
2 景勝地めぐり	2.2	3.6	2.5	4.0	3.9	4.6	5.3	1.6	0.5	0.5	0.3	0.5	2.7
3 花の名所めぐり	0.7	7.2	2.1	4.5	1.6	1.4	0.4	-	0.1	-	0.1	-	1.7
4 牧場めぐり	0.1	0.2	0.2	0.9	-	0.6	-	0.1	-	-	-	-	0.2
5 旧跡・産業遺跡めぐり	0.9	0.8	1.1	0.8	0.5	0.7	0.4	-	-	0.1	0.1	0.8	0.5
6 社寺参詣・教会見学	0.7	1.3	0.5	0.4	3.8	1.6	0.9	0.9	0.7	4.9	1.2	1.9	1.6
7 お祭り、催し物参加・見物	6.5	6.7	8.2	9.4	10.1	9.8	7.3	6.1	6.7	7.8	11.9	7.7	8.3
8 温泉・湯治	14.2	13.7	11.3	15.0	11.4	14.6	18.6	18.1	16.5	13.9	12.6	16.5	14.5
9 ショッピング	19.8	13.9	12.5	13.3	8.7	10.7	16.4	21.8	23.0	18.5	14.4	17.5	15.3
10 食べ歩き・グルメ	13.9	11.1	8.5	12.4	11.5	12.1	12.2	14.7	13.3	14.5	13.2	14.9	12.5
11 クアハウス・健康センター	2.6	2.2	1.6	1.1	1.3	0.7	1.0	2.2	2.9	2.0	3.0	3.4	1.9
12 カラオケボックス	2.2	2.1	2.0	1.9	1.4	1.4	1.0	4.4	4.8	3.2	2.5	4.3	2.5
13 動物園、遊園地、テーマパーク	2.9	5.0	3.2	5.8	6.5	6.1	3.3	2.0	1.1	1.5	0.7	1.9	3.6
14 映画館、演劇、コンサート	9.6	6.6	7.3	6.7	5.5	6.1	6.0	9.3	12.9	11.5	12.8	12.7	8.5
15 博物館、美術館	3.2	2.4	2.3	3.9	3.0	3.5	2.7	2.5	2.5	2.1	3.6	2.3	2.9
16 宴会、慰安旅行	9.1	2.9	4.7	3.9	2.9	4.0	5.2	6.7	12.9	9.2	7.7	9.5	6.2
17 スポーツ観戦	5.4	5.0	4.3	5.1	5.5	4.0	1.5	1.9	1.6	1.4	1.3	3.1	3.5
18 海水浴	-	-	0.2	4.9	4.5	0.1	-	-	-	-	-	0.1	1.0
19 マリンスポーツ	-	0.1	0.5	1.2	1.2	0.4	0.2	0.4	0.3	0.6	0.6	0.4	0.5
20 キャンプ・アウトドア	0.7	0.7	2.0	2.7	4.3	1.6	0.6	-	-	0.5	0.4	0.1	1.3
21 フルーツ狩り	-	0.2	0.9	2.3	0.1	0.8	0.7	-	-	-	-	-	0.5
22 釣り	1.4	1.7	3.5	2.2	2.0	2.1	3.8	3.2	0.8	0.6	0.9	0.4	2.0
23 カヌー・ラフティング	-	-	-	0.2	0.2	0.3	-	-	-	0.1	-	-	0.1
24 農業・農産品加工体験	0.4	1.0	2.4	1.3	1.1	1.2	0.4	0.7	0.3	0.1	0.1	-	0.8
25 ドライブ	7.7	6.2	5.9	10.5	9.2	9.0	9.5	6.0	2.5	2.6	3.0	3.1	6.6
26 ツーリング・サイクリング	-	0.3	-	0.6	0.2	0.4	1.0	0.6	-	-	-	-	0.3
27 ハイキング、登山	0.9	3.4	3.1	2.6	2.0	2.8	2.7	1.3	0.1	-	-	0.8	1.8
28 スキー・スノーボード	0.1	0.4	-	-	-	-	-	0.3	4.1	13.9	11.6	4.1	2.5
29 ゴルフ・テニス	5.6	10.0	10.5	8.5	10.6	11.2	10.2	6.7	2.6	1.5	3.3	3.8	7.5
30 パークゴルフ	1.4	6.8	8.8	5.4	6.1	8.7	5.9	3.2	0.3	0.4	0.3	0.1	4.4
31 その他のスポーツ	6.4	5.1	4.4	5.8	5.7	5.0	4.9	5.8	4.7	5.4	6.2	5.3	5.4
32 その他の観光・レジャー	4.6	3.4	4.5	3.1	5.3	4.6	4.8	3.6	2.3	2.6	4.0	4.7	4.0
サンプル計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

数値欄を塗りつぶしてあるのは構成比が年間平均を上回っている月。

「-」は該当する値がないことを、「0.0」は単位に満たないことを示す。

(5) 利用交通機関

札幌市民世帯の観光における交通手段は、全般的に自動車を中心となっているが、観光パターンによっては他の交通機関を利用するケースもみられる。

ここで日帰り観光についてみると、「日帰りドライブ」ではやはり「自動車」の利用割合が非常に高くなっている。「日帰り行楽」も同様に「自動車」の利用割合が最も高くなっているが、回答の水準自体は低く、「地下鉄・市電」「路線バス」等の利用割合が比較的高くなっている。

宿泊をともなう観光についても「自動車」の利用割合が最も高くなっているが、いずれの観光パターンにおいても「JR」の利用割合が比較的高くなっているほか、「1泊休養・リフレッシュ旅行」では「送迎バス」、「1泊行楽旅行」及び「多数泊旅行」では「貸切バス」の利用も一定程度みられる。

交通機関の利用回数

単位：%

	日帰り ドライブ	日帰り 行楽	1泊休養・ リフレッシュ旅行	1泊 行楽旅行	多数泊旅行	全型計
1 自動車(自家用車、社用車など)	85.3	61.6	71.7	70.5	68.2	64.5
2 レンタカー	1.2	0.0	1.0	0.4	0.5	0.2
3 オートバイ	4.9	0.0	-	-	-	0.4
4 自転車	0.5	3.5	0.3	0.2	0.3	2.9
5 路線バス	1.3	12.6	5.6	4.2	9.0	10.9
6 定期観光バス	0.1	0.3	1.3	1.8	1.6	0.5
7 送迎バス	-	1.1	12.5	7.2	6.3	2.0
8 貸切バス	1.0	2.0	4.1	10.8	5.2	2.5
9 JR	5.1	6.3	8.2	10.4	26.4	7.2
10 地下鉄・市電	4.4	18.7	2.6	2.6	2.2	15.6
11 航空機	-	0.1	0.5	0.8	3.5	0.2
12 フェリー	-	0.0	-	0.2	1.1	0.1
13 タクシー	0.4	3.2	3.3	1.8	2.2	2.9
14 徒歩	0.9	6.5	0.8	1.4	0.8	5.4
サンプル計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

数値欄を塗りつぶしてあるのは回答割合が10%以上の交通機関。

「-」は該当する値がないことを、「0.0」は単位に満たないことを示す。

1.2 札幌市民の観光に関する消費実態

(1) 1回当たりの平均消費金額（世帯単位）

札幌市民世帯が行った観光における札幌市内での消費相当分について、観光1回当たりの平均消費金額でみると、「札幌日帰り立ち寄り観光」が総額で6,309円、「札幌宿泊観光」が16,579円、「札幌市外観光」が1,848円となっている。

全体平均では、平均消費金額の最も少ない「札幌市外観光」が全体の観光回数に高い割合を占めていることから、3,825円と4,000円を下回る結果となっている。

各観光形態の観光回数でウエイト換算したもの

観光形態について

これまで札幌市民の観光行動について、「日帰りドライブ」「日帰り行楽」「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」という5つの観光パターンでみてきたが、観光消費額の算出に当たっては、札幌市内での観光の有無を考慮した3つの観光形態ごとに整理した。3つの観光形態の内容は以下に示すとおり。

- ・「札幌日帰り立ち寄り観光」:「日帰りドライブ」「日帰り行楽」のうち札幌市が目的地として含まれるもの。
- ・「札幌宿泊観光」:「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」のうち札幌市内での宿泊をとまう観光。例えば、定山溪に宿泊する場合など。
- ・「札幌市外観光」:上記以外のすべての観光。

消費項目別の平均消費金額

「札幌日帰り立ち寄り観光」では雑費などの消費金額が2,069円と最も多くなっている。以下、交通費が1,652円、外食費が1,493円、買物関係が1,080円の順となっている。

「札幌宿泊観光」では宿泊費が11,815円と最も多く、次いで、交通費が1,508円、買物関係が1,395円、外食費が804円、雑費などが617円などとなっている。

「札幌市外観光」では移動に要する交通費が消費の中心であり、交通費の消費金額が1,691円と全体の9割以上を占めている。

札幌市民世帯における観光1回当たりの平均消費金額

単位：円

消費項目	札幌日帰り立ち寄り観光	札幌宿泊観光	札幌市外観光	平均
交通費	1,652	1,508	1,691	1,672
旅行会社マージン	15	439	20	28
宿泊費	-	11,815	-	261
外食費	1,493	804	38	594
買物関係	1,080	1,395	61	468
雑費など	2,069	617	37	802
総計	6,309	16,579	1,848	3,825

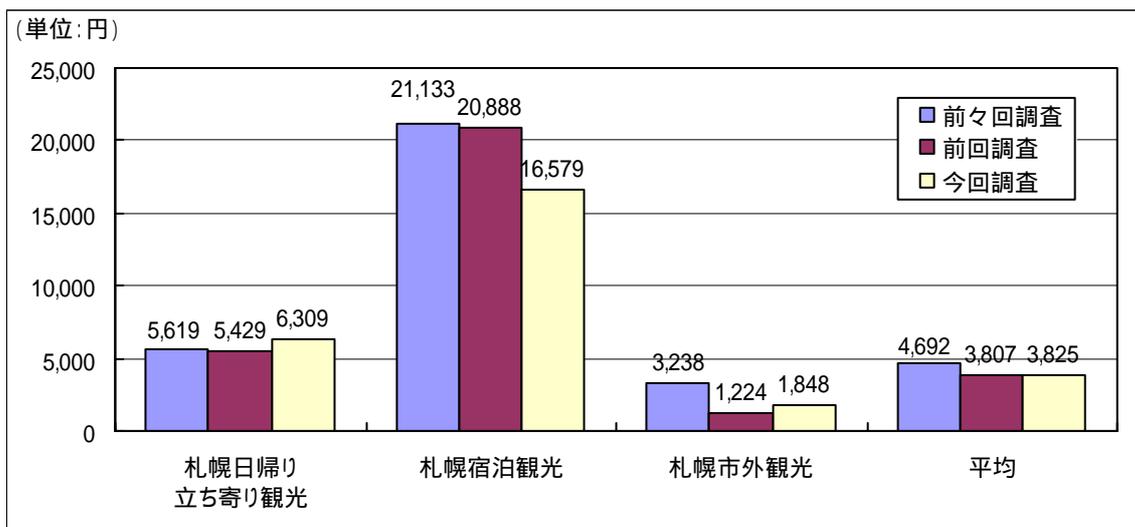
宿泊費の平均については、宿泊費が発生しない「札幌日帰り立ち寄り旅行」「札幌市外観光」も考慮した上での平均。

過去の調査との比較

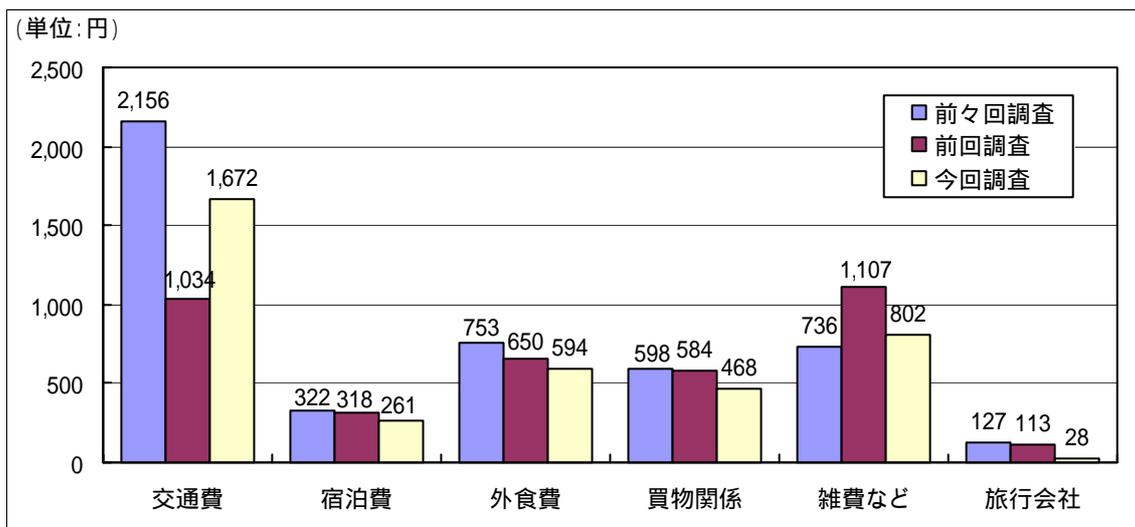
観光形態別に前回調査と比較すると、「札幌宿泊観光」で平均消費金額が4,000円以上減少したものの、「札幌日帰り立ち寄り観光」「札幌市外観光」とも平均消費金額が増加しており、全体平均では18円の増加となっている。

消費項目別にみると、前回調査と比べて交通費が600円以上増加しているが、雑費などが300円ほど減少したほか、それ以外の消費項目も軒並み50～100円程度減少している。

観光1回当たりの平均消費金額（観光形態別）



観光1回当たりの平均消費金額（消費項目別）



宿泊費については、宿泊費が発生しない「札幌日帰り立ち寄り旅行」「札幌市外観光」も考慮した上での平均。

(2) 年間の観光消費額

観光1回当たりの平均消費額に年間観光回数を乗じて求めた1世帯当たり年間消費額を札幌市民78万世帯(平成12年国勢調査報告の数値)に拡大した年間観光消費額は1,226億円と推計された。

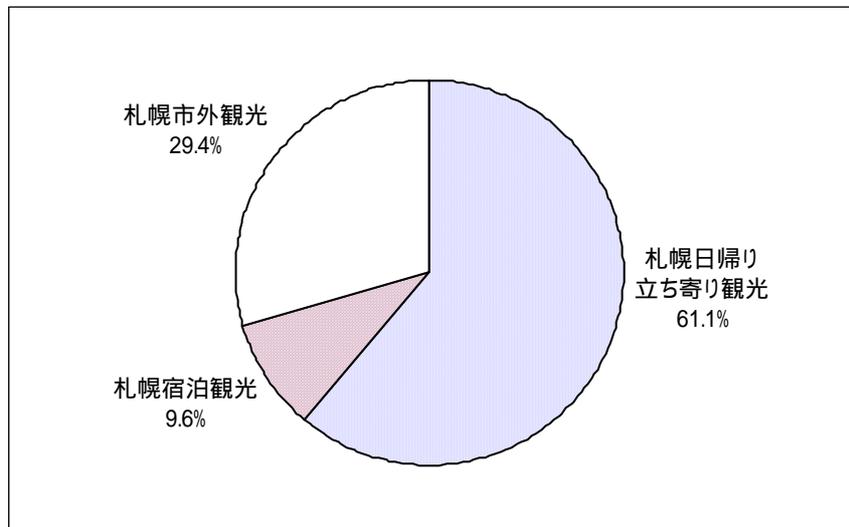
これを観光形態別にみると、「札幌日帰り立ち寄り観光」が全体の61.1%(749億円)を占めている。次いで、「札幌市外観光」が29.4%(360億円)、「札幌宿泊観光」が9.6%(117億円)と続いている。

札幌市民世帯による札幌市内での年間観光消費額

単位：百万円

消費項目	札幌日帰り立ち寄り観光	札幌宿泊観光	札幌市外観光	合計
交通費	19,612	1,067	32,941	53,620
旅行会社マージン	173	311	399	882
宿泊費	-	8,355	-	8,355
外食費	17,730	569	744	19,044
買物関係	12,825	987	1,193	15,005
雑費など	24,564	437	723	25,723
総計	74,904	11,724	36,000	122,628

観光形態別の年間観光消費額の構成

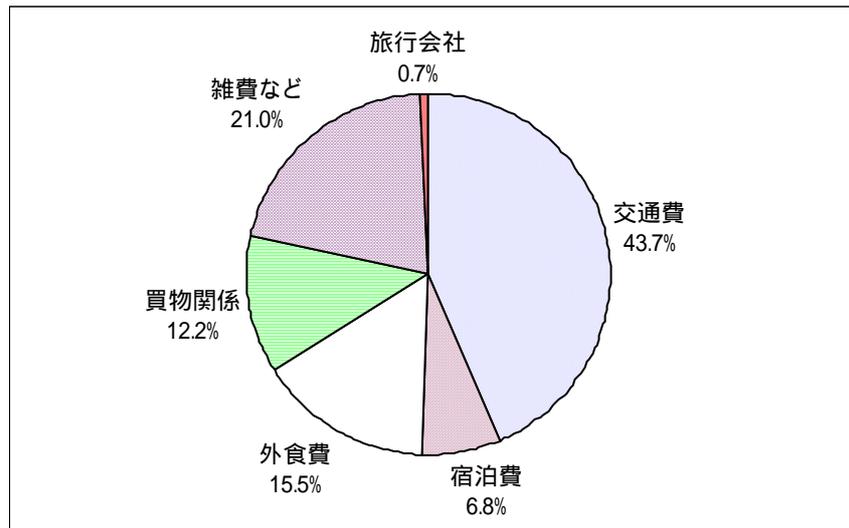


四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも100とはならない。

消費項目別の観光消費額

消費項目別では、交通費が最も多く全体の 43.7% (536 億円) を占めている。次いで、雑費などが 21.0% (257 億円)、外食費が 15.5% (190 億円)、買物関係が 12.2% (150 億円)、宿泊費が 6.8% (84 億円) となっている。

消費項目別の年間観光消費額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

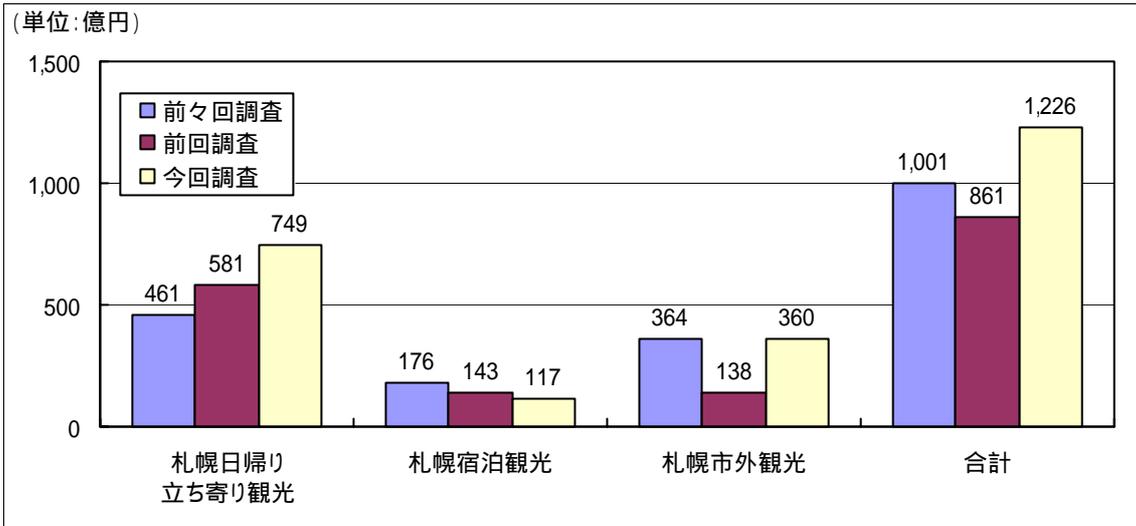
過去の調査との比較

今回調査における札幌市民による札幌市内での年間観光消費額は 1,226 億円であり、観光 1 回当たりの平均消費金額は微増にとどまったものの、観光回数が大きく増加したことから、前回調査の 861 億円から 365 億円の増加となっている。

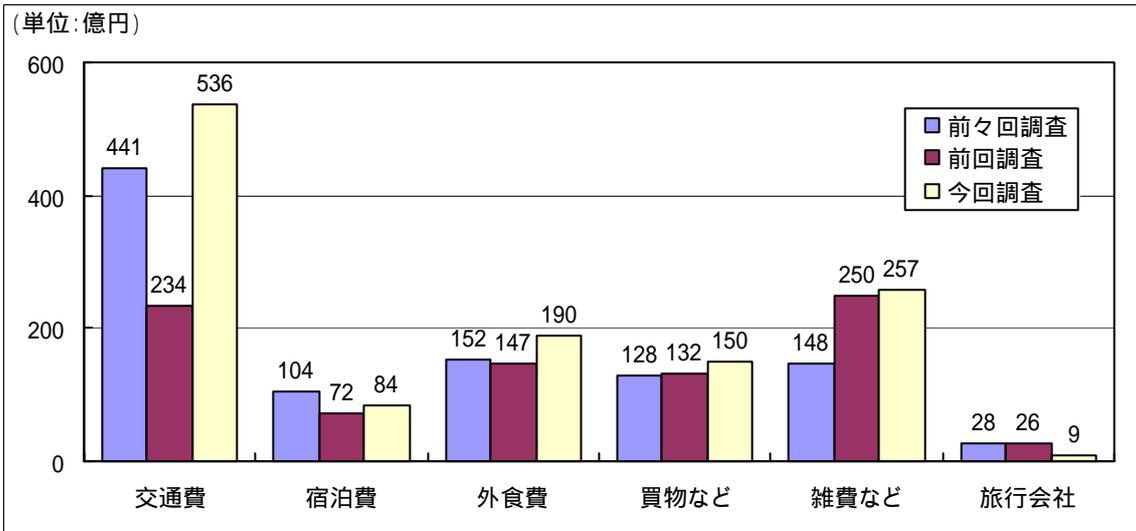
観光形態別に前回調査と比較すると、「札幌宿泊観光」において年間消費額が 26 億円減少したものの、「札幌日帰り立ち寄り観光」及び「札幌市外観光」において年間消費額が増加しており、それぞれ 168 億円、222 億円の増加となっている。

消費項目別にみると、旅行会社マージンこそ年間消費額が減少したものの、それ以外のすべての項目において年間消費額が増加している。最も増加額が多かったのは交通費の 302 億円であり、以下、外食費の 43 億円、買物関係の 18 億円などとなっている。

札幌市民による札幌市内での観光消費額（観光形態別）



札幌市民による札幌市内での観光消費額（消費項目別）



2. 札幌市以外に居住する道民による札幌市内での観光消費実態

2.1 札幌市以外に居住する道民の観光行動について

(1) 観光への参加状況

月平均参加率

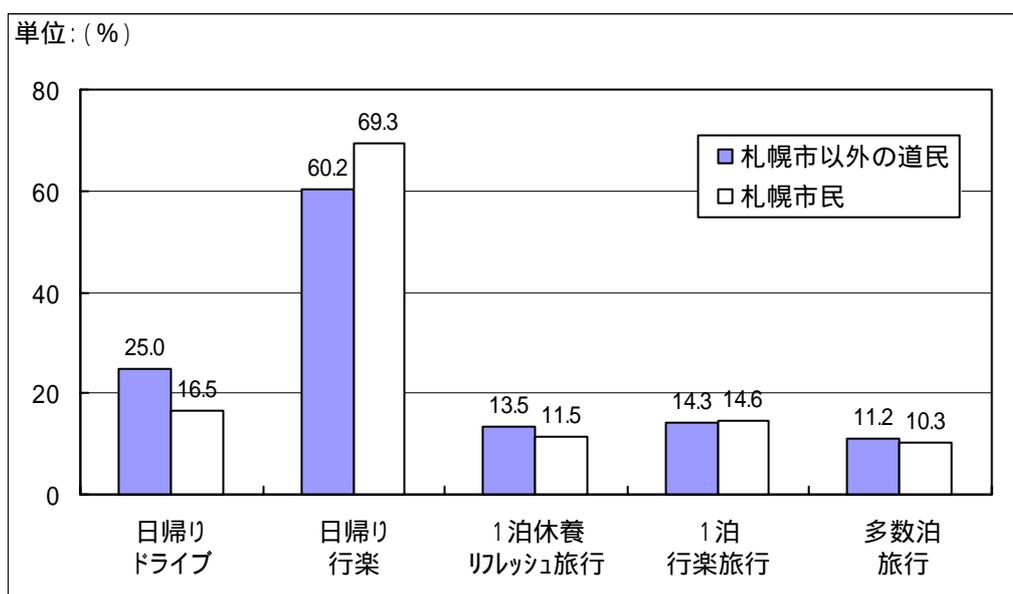
どれだけの世帯がどのパターンの観光を行ったのかについて、月平均参加率によりみていく。なお、参加率 = 観光を行ったモニター世帯 / モニター全世帯数

月平均参加率を観光パターン別にみると、「日帰り行楽」が60.2%と参加する世帯の割合（参加率）が高い。

以下、「日帰りドライブ」が25.0%、「1泊行楽旅行」が14.3%、「1泊休養・リフレッシュ旅行」が13.5%、「多数泊旅行」が11.2%となっている。

札幌市民世帯と比較すると、「日帰り行楽」の参加率が低くなっている一方で、「日帰りドライブ」の参加率が高くなっている。宿泊観光においては、日帰り観光ほどはっきりとした差は現れていないが、「1泊休養・リフレッシュ旅行」「多数泊旅行」で札幌市民世帯の参加率を上回っている。

月平均参加率の比較（観光パターン別）



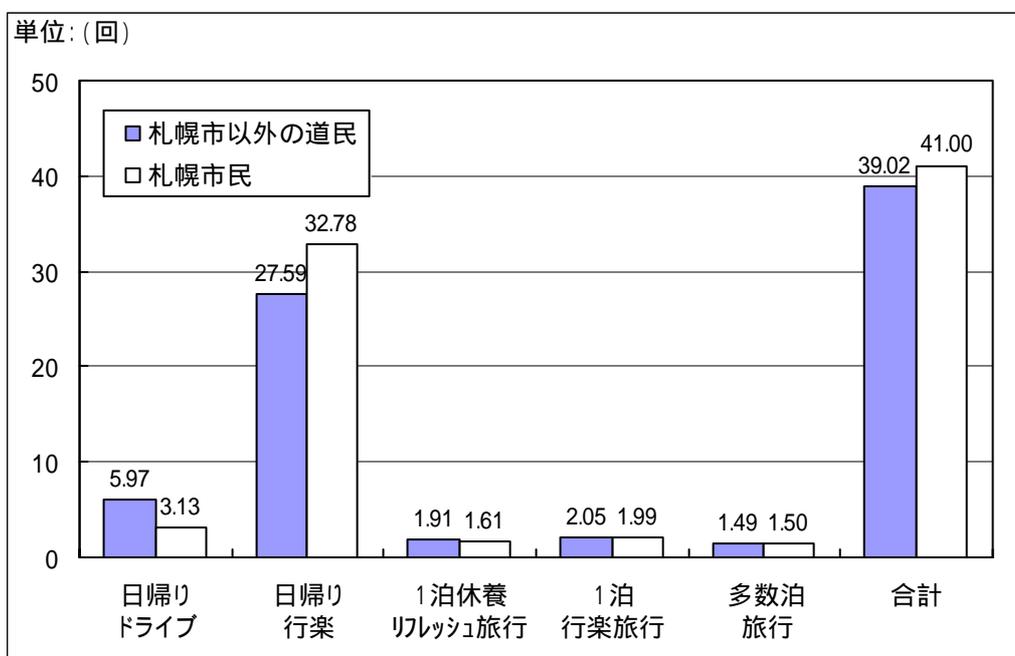
1世帯当たりの年間観光回数

1年間における1世帯当たりの延べ観光回数は39.02回であり、札幌市民世帯の41.00回をやや下回っている。

観光パターン別にみると、「日帰り行楽」が27.59回と最も多く、以下「日帰りドライブ」が5.97回、「1泊行楽旅行」が2.05回、「1泊休養・リフレッシュ旅行」が1.91回、「多数泊旅行」が1.49回となっている。

札幌市民世帯と比較すると、「日帰りドライブ」の回数が3回近く上回っているものの、「日帰り行楽」が5回ほど下回っており、日帰り観光の回数が若干少なくなっている。宿泊観光においては、日帰り観光ほどははっきりとした差は現れていないが、「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」で札幌市民世帯を上回っている。

居住地別の1世帯当たり年間平均道内観光回数



(2) 札幌市での観光回数

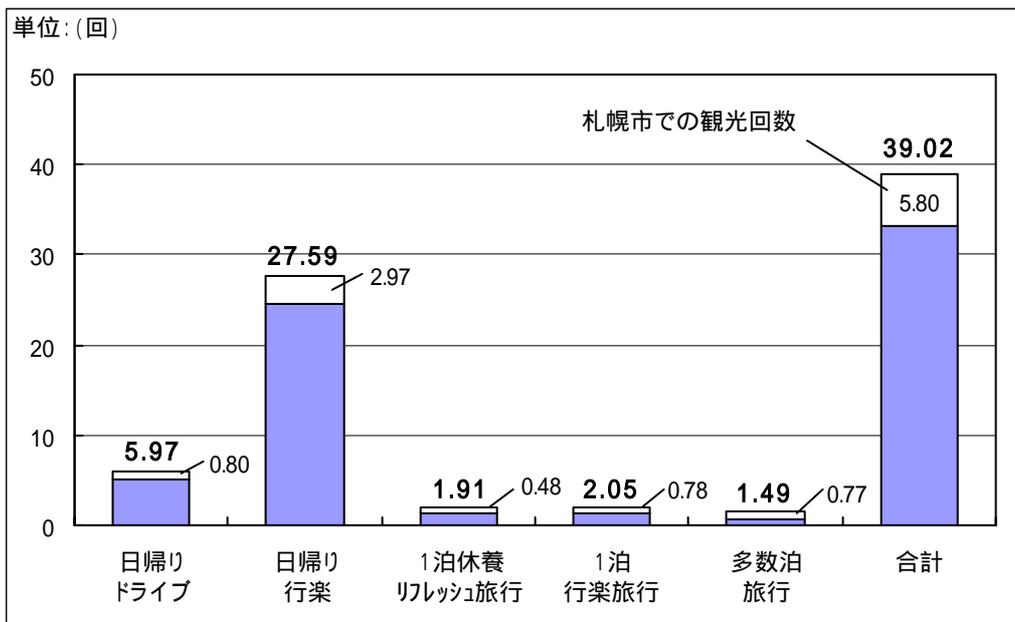
各観光パターンでの1世帯当たり観光回数の内訳

札幌市以外に居住する道民世帯の年間観光回数 39.02 回のうち、札幌市での観光をともなった観光回数は 5.80 回であり、全体の 14.9%を占めている。

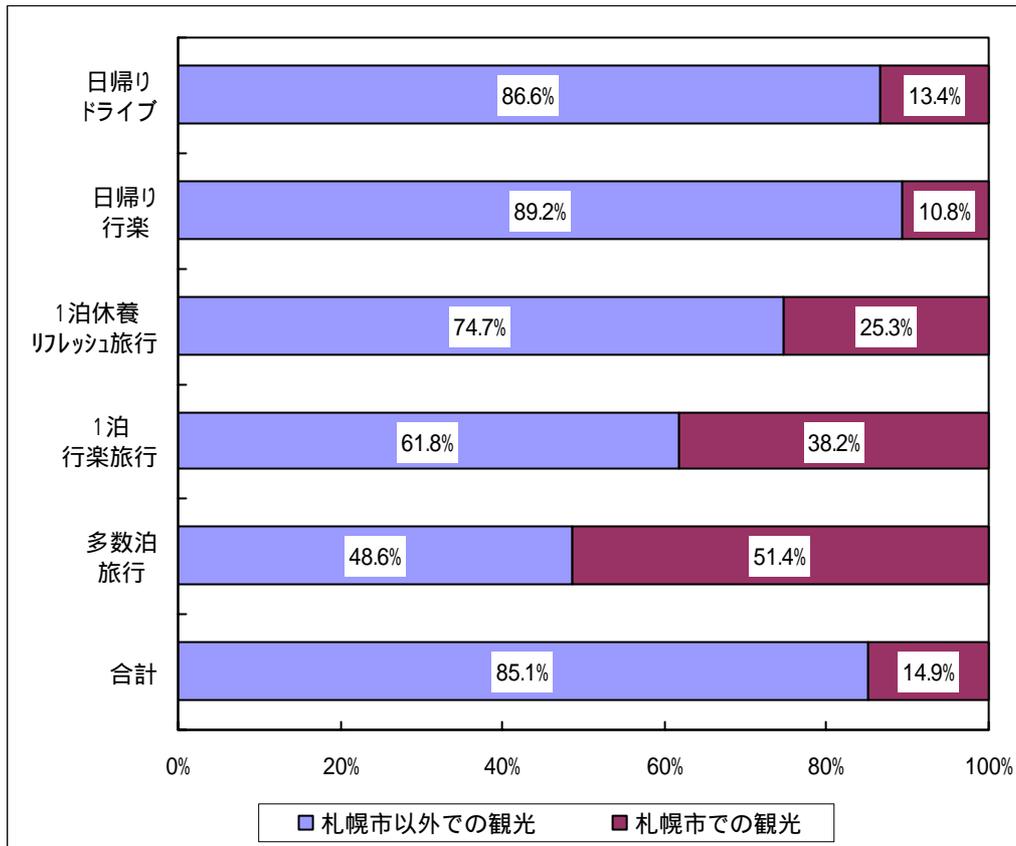
観光パターン別にみると、「日帰り行楽」が 2.97 回と最も多く、以下「日帰りドライブ」が 0.80 回、「1泊行楽旅行」が 0.78 回、「多数泊旅行」が 0.77 回、「1泊休養・リフレッシュ旅行」が 0.48 回の順となっている。

札幌市で観光を行う割合を観光パターン別にみると、観光期間の長い観光パターンほどその割合が高くなっている。「日帰り行楽」では札幌市で観光を行う割合が 13.4%に過ぎなかったが、「多数泊旅行」では 51.4%と半数を超えている。

観光パターン別の1世帯当たり道内観光回数の内訳



観光パターン別の札幌市での観光回数の割合



前回調査との比較

過去の調査結果 との比較では、「日帰り行楽」の観光回数が 9.94 回と大きく増加している。一方、その他の観光パターンでは軒並み観光回数が減少しており、中でも「日帰りドライブ」及び「1泊行楽旅行」は減少幅が 0.85 回程度と大きくなっている。この結果、年間の総観光回数は 39.02 回となり、前回調査の 31.24 回からは 7.78 回の増加となっている。

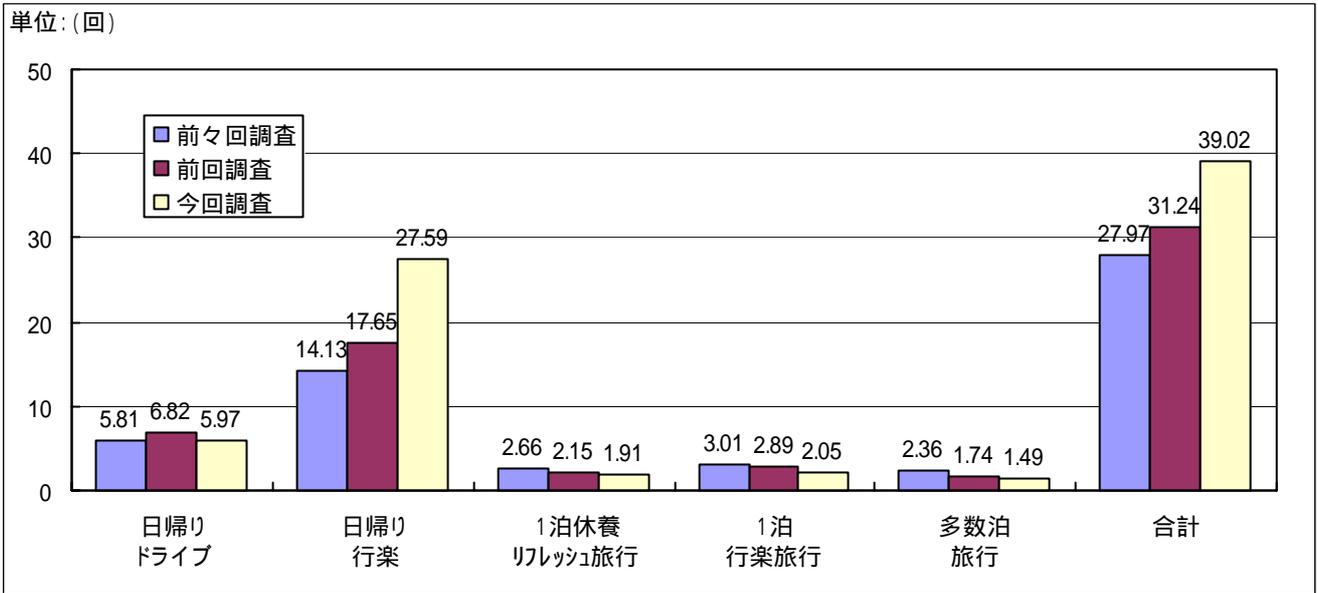
また、1年間に行う観光のうち、札幌市での観光回数についてみると、「日帰りドライブ」の観光回数が減少したものの、それ以外の観光パターンはすべて観光回数が増加している。特に「日帰り行楽」の増加は 1.25 回と大きく、合計の観光回数では 1.5 回の増加となっている。

本調査においては、過去 2 回にわたり同様の調査を行っており、それぞれの調査期間は以下のとおりである。

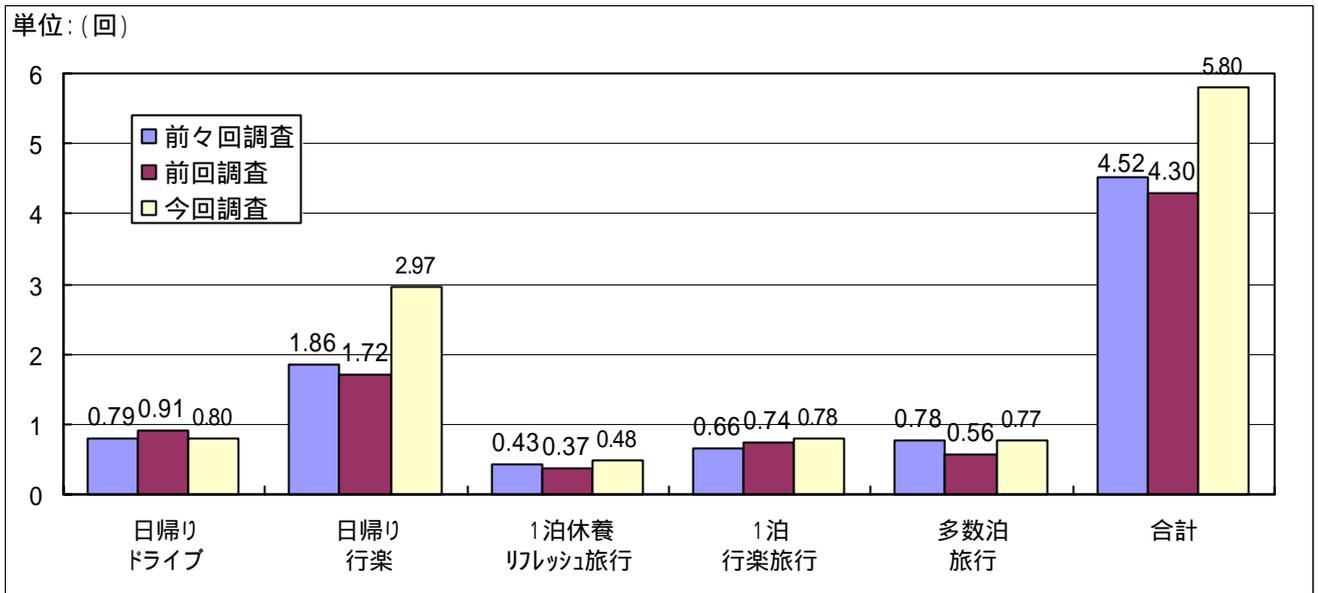
前々回調査：平成 5 年 10 月～平成 6 年 9 月

前回調査：平成 11 年 1 月～平成 11 年 12 月

年間観光回数の比較



札幌市での年間観光回数の比較

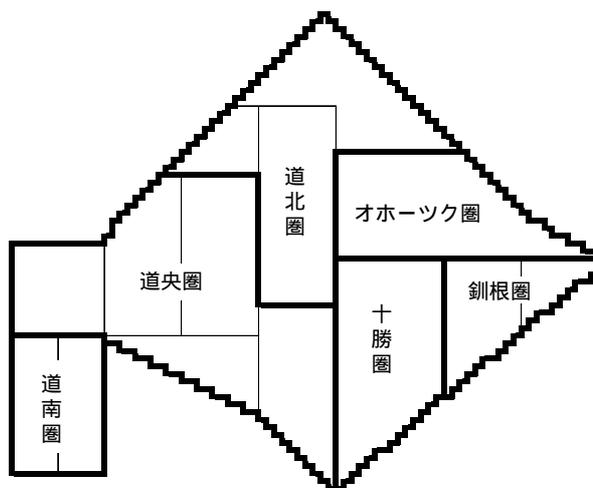


(3) 観光行動の範囲

北海道を道央圏、道南圏、道北圏、オホーツク圏、十勝圏、釧根圏の6圏域に分類し、各圏域に居住する道民（札幌市民世帯を除く）の観光行動の範囲を「日帰りドライブ」「日帰り行楽」「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」「多数博旅行」の5つの観光パターンについてみることにした。

なお観光行動の範囲については、訪問先を支庁単位で整理し、各支庁にどれくらいの割合で訪れているのかをみた。

図表 道民の観光行動範囲図における6圏域の位置



圏 域	支 庁
道 南 圏	渡島、桧山
道 央 圏	石狩、後志、空知、胆振、日高
道 北 圏	上川、留萌、宗谷
オホーツク圏	網走
十 勝 圏	十勝
釧路・根室圏	釧路、根室

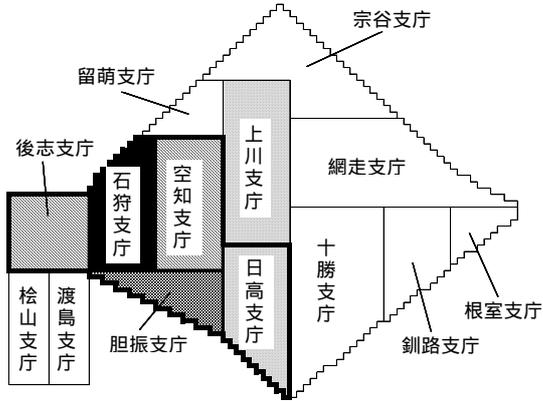
「日帰りドライブ」及び「日帰り行楽」は居住している圏域内での観光が中心となっている。また圏域内においては、道央圏の石狩支庁、道南圏の渡島支庁、道北圏の上川支庁などのように圏域内でも人口が多い支庁に訪問先が集中している。

「1泊休養・リフレッシュ旅行」及び「1泊行楽旅行」は居住圏域内の訪問割合が高くなっているが、道央圏や隣接する支庁を訪問するケースも多くみられる。特に「1泊行楽旅行」では、石狩支庁を訪問する割合が高く、道央圏を除いたすべての圏域において30%以上の訪問割合を示している。

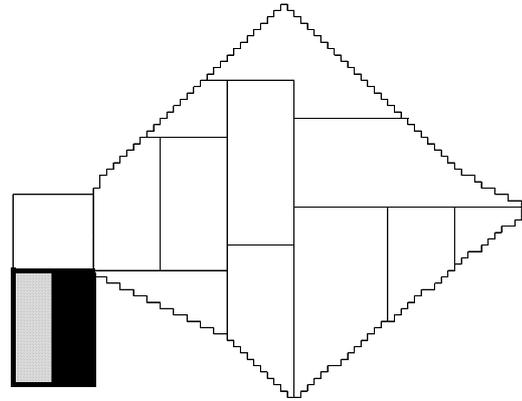
「多数泊旅行」は1泊旅行より更に行動範囲が広がっており、ほぼ全道が訪問対象の地域となっている。道央圏以外の圏域では、石狩支庁に訪れる割合が高く、いずれの圏域においても訪問割合が30%を超えている。一方、道央圏については、7支庁の訪問割合が10~20%となっており、訪問地が分散している。

図表 観光目的地の割合（日帰りドライブ）

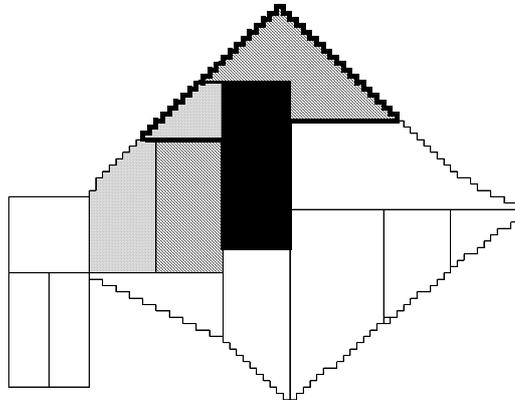
< 道央圏に居住している世帯の場合 >



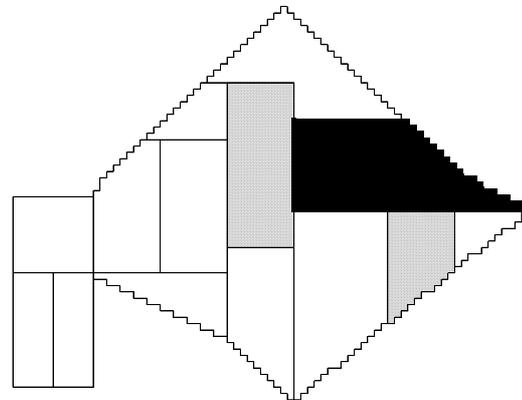
< 道南圏に居住している世帯の場合 >



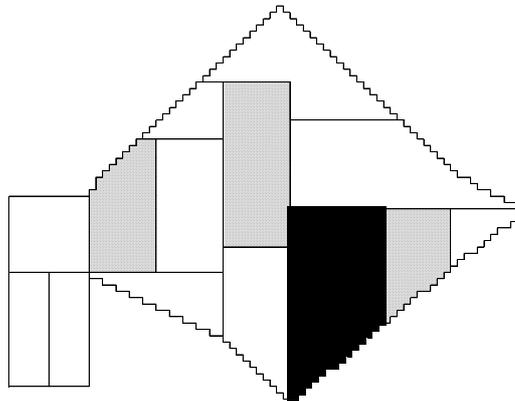
< 道北圏に居住している世帯の場合 >



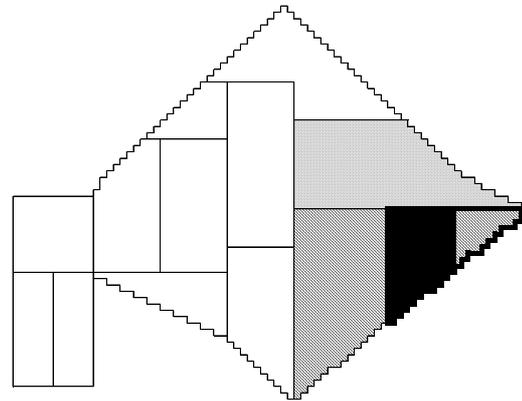
< オホーツク圏に居住している世帯の場合 >



< 十勝圏に居住している世帯の場合 >



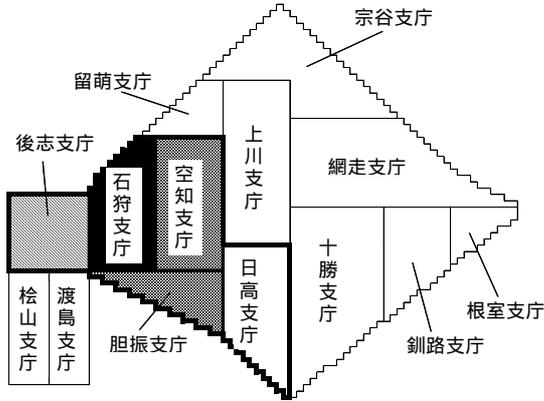
< 釧路・根室圏に居住している世帯の場合 >



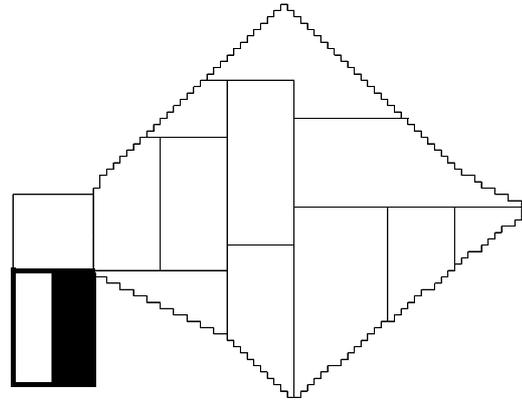
凡	例
	: 3% 未満
	: 3% 以上10% 未満
	: 10% 以上20% 未満
	: 20% 以上30% 未満
	: 30% 以上

図表 観光目的地の割合（日帰り行楽）

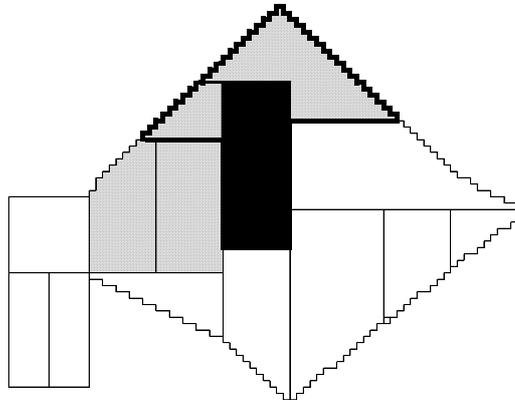
<道央圏に居住している世帯の場合>



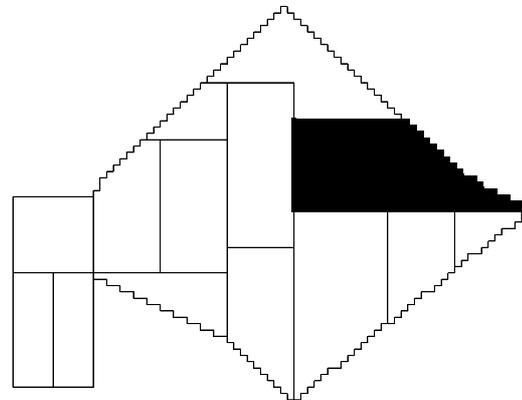
<道南圏に居住している世帯の場合>



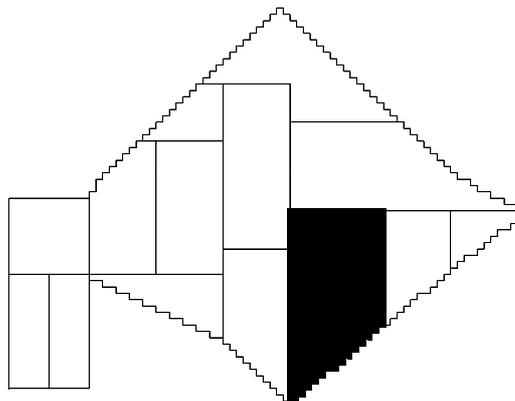
<道北圏に居住している世帯の場合>



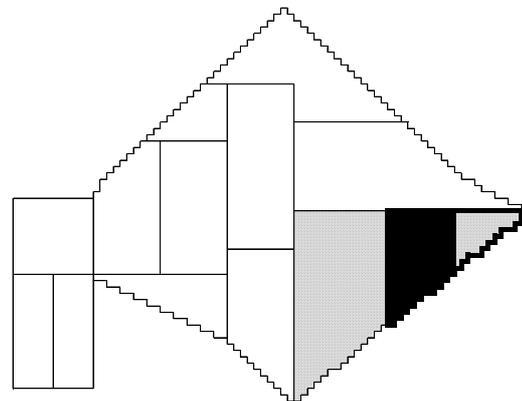
<オホーツク圏に居住している世帯の場合>



<十勝圏に居住している世帯の場合>



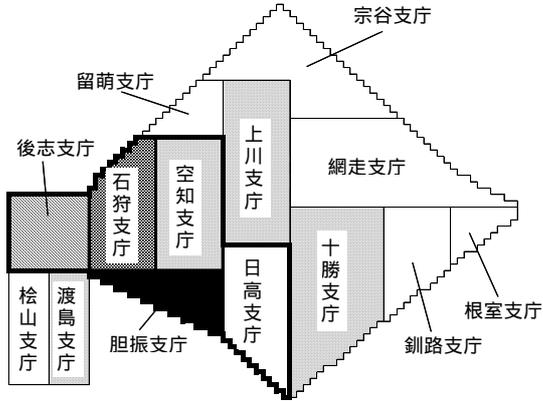
<釧路・根室圏に居住している世帯の場合>



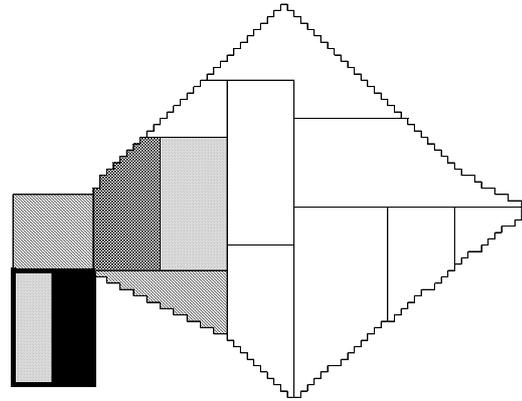
凡	例
	: 3%未満
	: 3%以上10%未満
	: 10%以上20%未満
	: 20%以上30%未満
	: 30%以上

図表 観光目的地の割合（1泊休養・リフレッシュ旅行）

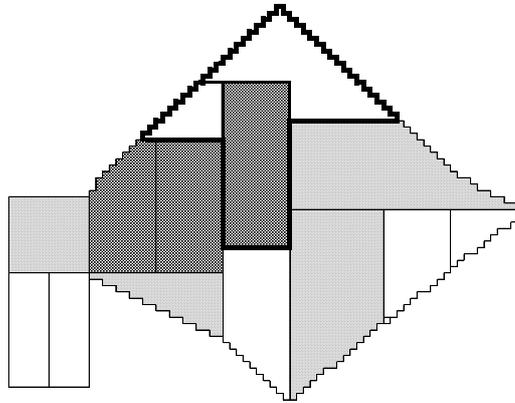
<道央圏に居住している世帯の場合>



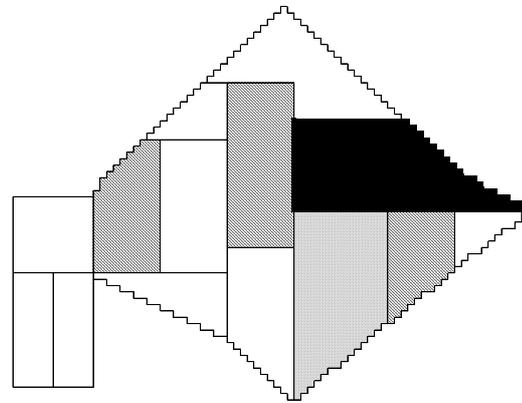
<道南圏に居住している世帯の場合>



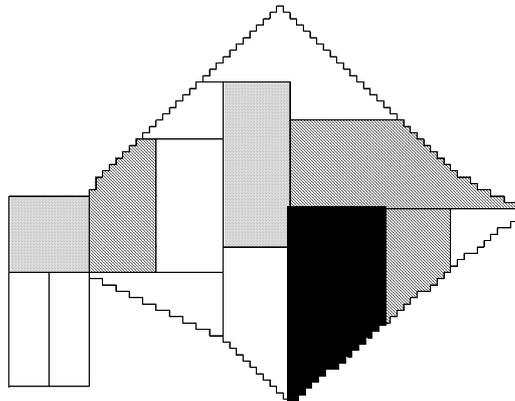
<道北圏に居住している世帯の場合>



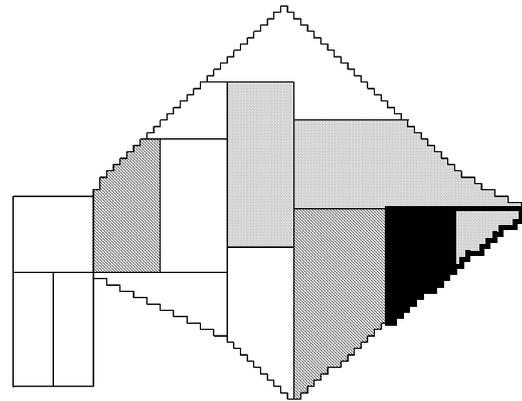
<オホーツク圏に居住している世帯の場合>



<十勝圏に居住している世帯の場合>



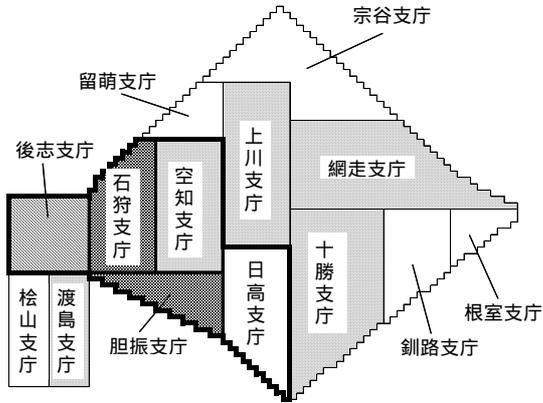
<釧路・根室圏に居住している世帯の場合>



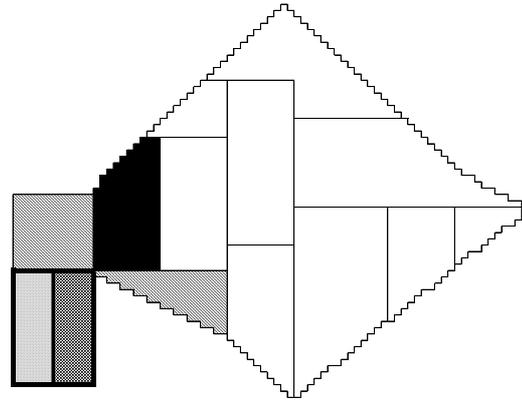
凡	例
	: 3%未満
	: 3%以上10%未満
	: 10%以上20%未満
	: 20%以上30%未満
	: 30%以上

観光目的地の割合（1泊行楽旅行）

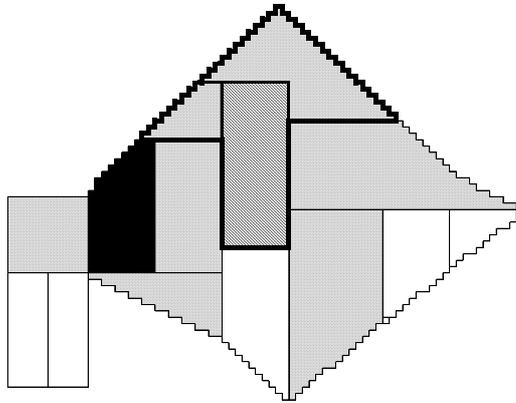
<道央圏に居住している世帯の場合>



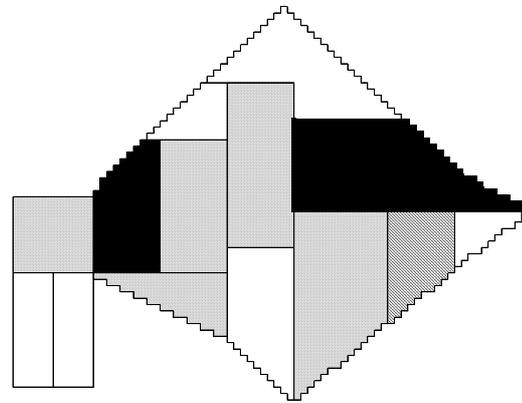
<道南圏に居住している世帯の場合>



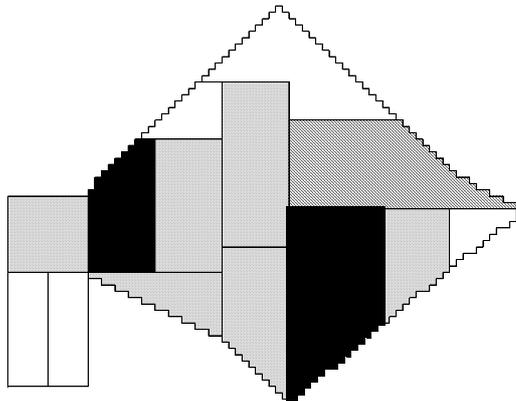
<道北圏に居住している世帯の場合>



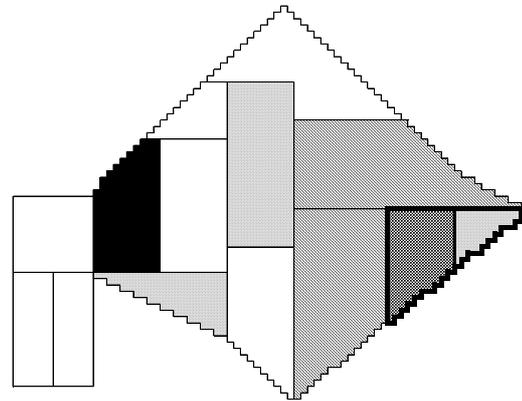
<オホーツク圏に居住している世帯の場合>



<十勝圏に居住している世帯の場合>



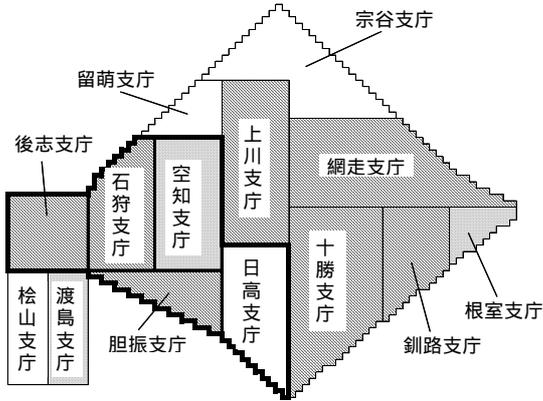
<釧路・根室圏に居住している世帯の場合>



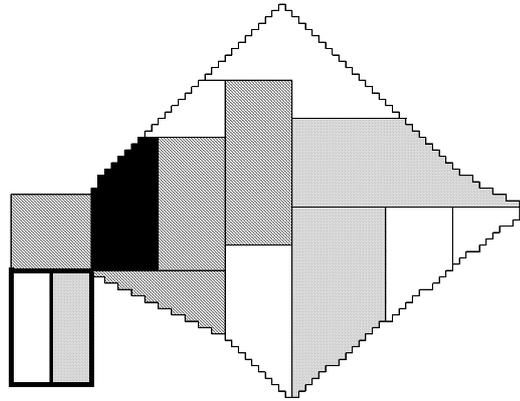
凡	例
	: 3%未満
	: 3%以上10%未満
	: 10%以上20%未満
	: 20%以上30%未満
	: 30%以上

観光目的地の割合（多数泊旅行）

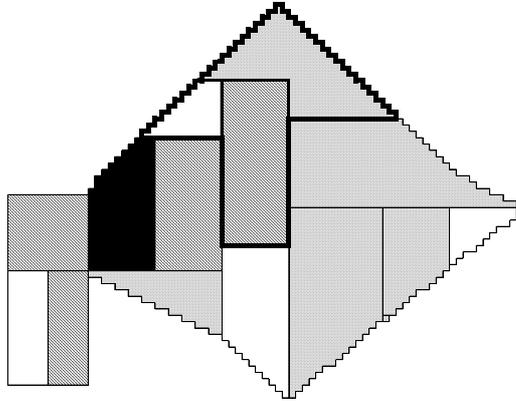
<道央圏に居住している世帯の場合>



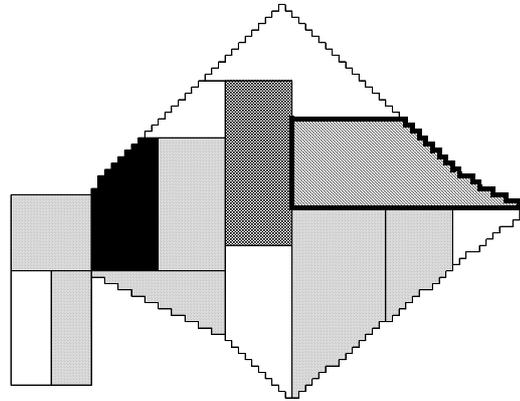
<道南圏に居住している世帯の場合>



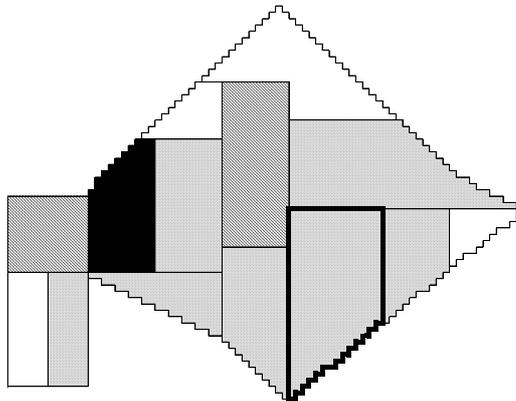
<道北圏に居住している世帯の場合>



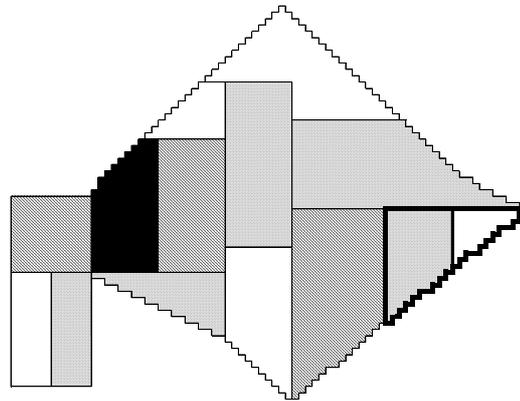
<オホーツク圏に居住している世帯の場合>



<十勝圏に居住している世帯の場合>



<釧路・根室圏に居住している世帯の場合>



凡	例
	: 3%未満
	: 3%以上10%未満
	: 10%以上20%未満
	: 20%以上30%未満
	: 30%以上

2.2 札幌市以外に居住する道民による札幌市内での観光に関する消費実態

(1) 1回当たりの平均消費金額（世帯単位）

札幌市民世帯が行った観光における札幌市内での消費相当分について、観光1回当たりの平均消費金額でみると、「札幌日帰り立ち寄り観光」が総額で10,529円、「札幌宿泊観光」が36,761円となっており、全体平均では18,793円となっている。

各観光形態の観光回数でウェイト換算したもの

観光形態について

これまで札幌市以外に居住する道民の観光行動について、「日帰りドライブ」「日帰り行楽」「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」という5つの観光パターンでみてきたが、札幌市内での観光消費額の算出に当たっては、札幌市内での宿泊の有無から2つの観光形態に整理した。2つの観光形態の内容は以下に示すとおり。

- ・「札幌日帰り立ち寄り観光」:「日帰りドライブ」「日帰り行楽」のうち札幌市が目的地として含まれる観光。及び「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」のうち札幌市内での宿泊をとまなわない観光。
- ・「札幌宿泊観光」:「1泊休養・リフレッシュ旅行」「1泊行楽旅行」「多数泊旅行」のうち札幌市内での宿泊をとまなう観光。

消費項目別の平均消費金額

「札幌日帰り立ち寄り観光」では買物関係の消費金額が5,525円と最も多くなっている。次いで、外食費が1,831円、交通費が1,649円、買物関係が1,525円などとなっている。

「札幌宿泊観光」も買物関係が10,286円と最も多くなっている。以下は、宿泊費が8,629円、外食費が8,134円、交通費が7,377円、雑費などが2,335円の順となっている。

「札幌宿泊観光」の消費内容を札幌市民と比較すると、札幌市民以外の道民世帯では買物関係への支出が大きく、札幌市訪問の目的としてショッピングが重要な位置付けにあることがうかがえる。

道民世帯における観光1回当たりの平均消費金額

単位：円

消費項目	札幌日帰り立ち寄り観光	札幌宿泊観光	平均
交通費	1,649	7,377	3,453
旅行会社マージン	-	-	-
宿泊費	-	8,629	2,718
外食費	1,831	8,134	3,816
買物関係	5,525	10,286	7,025
雑費など	1,525	2,335	1,780
総計	10,529	36,761	18,793

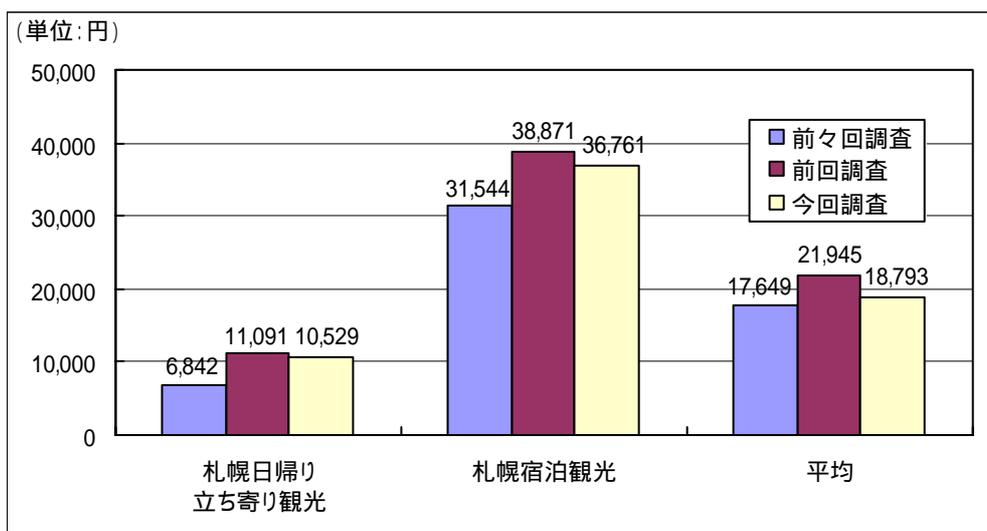
宿泊費の平均については、宿泊費が発生しない「札幌日帰り立ち寄り旅行」も考慮した上での平均。

過去の調査との比較

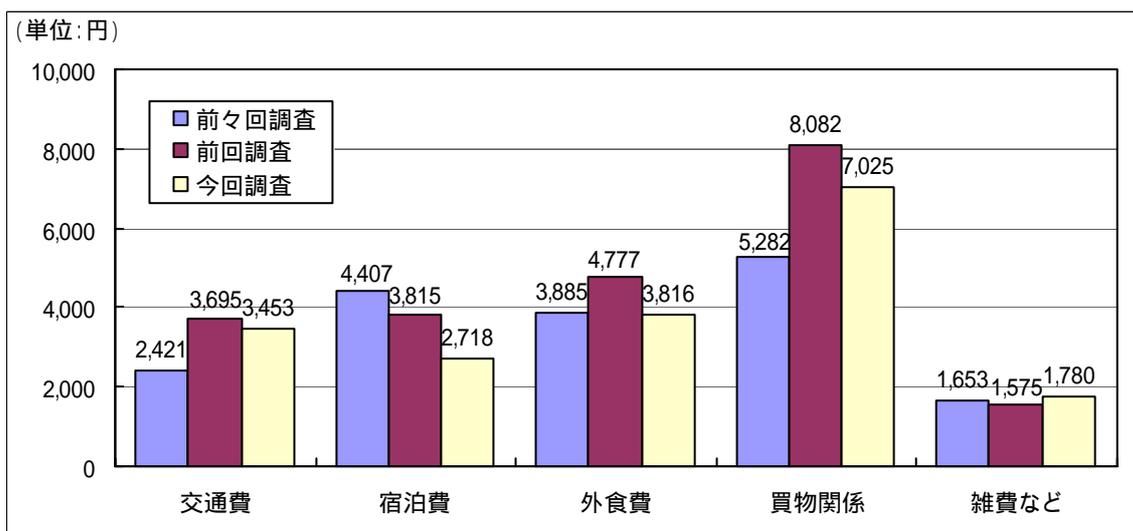
観光形態別に前回調査と比較すると、「札幌宿泊観光」で平均消費金額が2,000円以上減少したほか、「札幌日帰り立ち寄り観光」の平均消費金額も560円ほど減少しており、全体平均では3,152円の減少となっている。

消費項目別にみると、前回調査と比べて雑費などが200円ほど増加しているが、それ以外の消費項目はすべて減少している。宿泊費及び買物関係、外食費がそれぞれ1,000円前後の減少となったほか、交通費が240円ほどの減少となっている。

観光1回当たりの平均消費金額（観光形態別）



観光1回当たりの平均消費金額（消費項目別）



宿泊費については、宿泊費が発生しない「札幌日帰り立ち寄り旅行」も考慮した上での平均。

(2) 年間の観光消費額

観光1回当たりの平均消費額に年間観光回数を乗じて求めた1世帯当たり年間消費額を札幌市民世帯を除く道民世帯152万世帯(平成12年国勢調査報告の数値)に拡大した年間観光消費額は1,663億円と推計された。

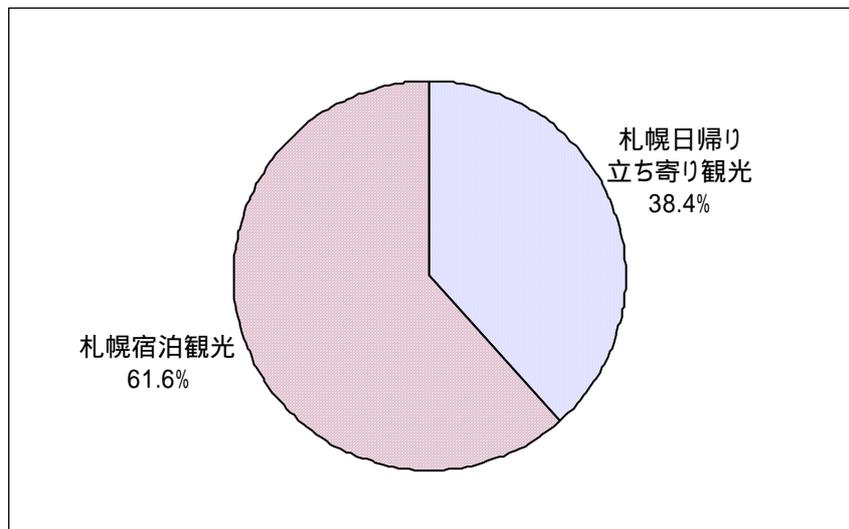
これを観光形態別にみると、「札幌日帰り立ち寄り観光」が全体の38.4%(638億円)、「札幌宿泊観光」が61.6%(1,025億円)となっている。

道民世帯による札幌市内での年間観光消費額

単位：百万円

消費項目	札幌日帰り 立ち寄り観光	札幌宿泊 観光	合計
交通費	9,992	20,563	30,555
旅行会社マージン	-	-	-
宿泊費	-	24,053	24,053
外食費	11,094	22,674	33,768
買物関係	33,484	28,673	62,157
雑費など	9,243	6,509	15,752
総計	63,812	102,472	166,285

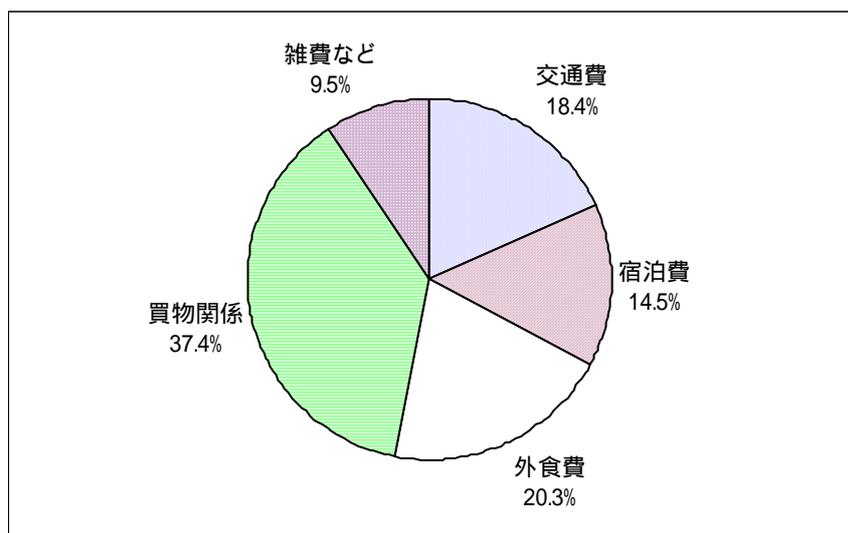
観光形態別の年間観光消費額の構成



消費項目別の観光消費額

消費項目別では、買物関係が最も多く全体の 37.4% (622 億円) を占めている。次いで、外食費が 20.3% (338 億円)、交通費が 18.4% (306 億円)、宿泊費が 14.5% (241 億円)、雑費などが 9.5% (158 億円) となっている。

消費項目別の年間観光消費額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

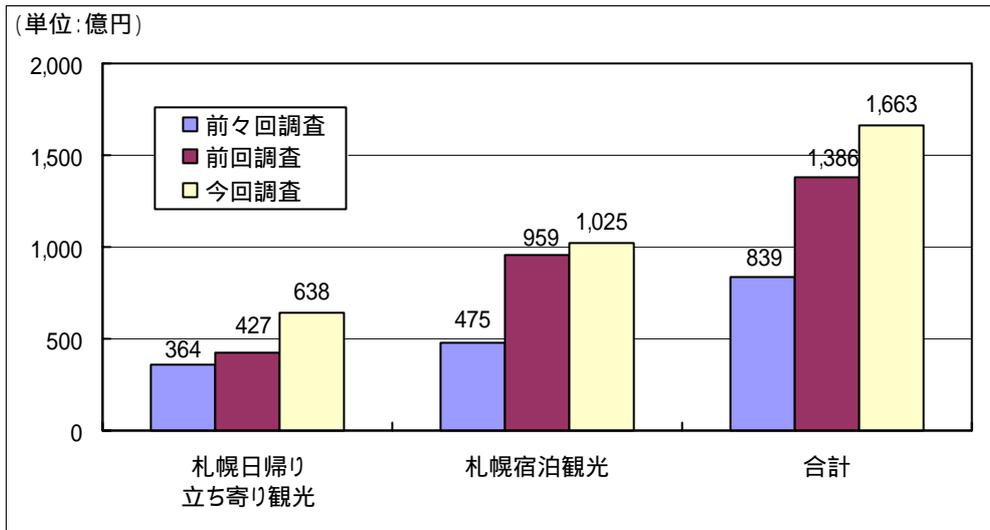
過去の調査との比較

今回調査における札幌市以外に居住する道民による札幌市内での年間観光消費額は 1,663 億円であり、観光 1 回当たりの平均消費金額は減少したものの、観光回数が増加したことから、前回調査の 1,386 億円から 277 億円の増加となっている。

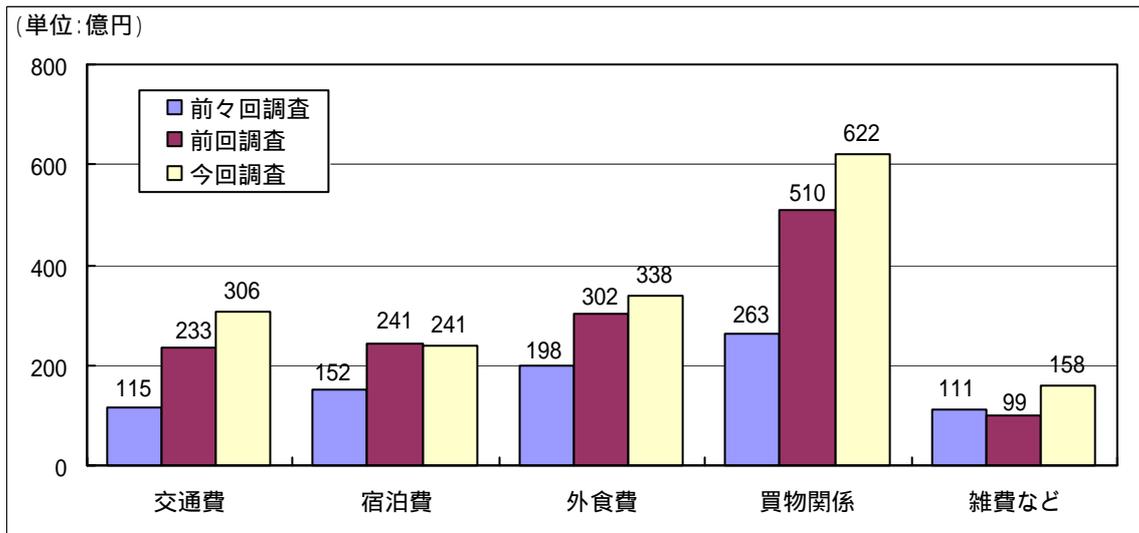
観光形態別に前回調査と比較すると、「札幌日帰り立ち寄り観光」「札幌宿泊観光」とも年間消費額が増加しており、それぞれ 211 億円、66 億円の増加となっている。

消費項目別にみると、宿泊費こそ年間消費額が横ばいであったものの、それ以外のすべての項目において年間消費額が増加している。最も増加額が多かったのは買物関係の 112 億円であり、以下、交通費の 73 億円、雑費などの 59 億円、外食費の 36 億円となっている。

札幌市以外に居住する道民による札幌市内での観光消費額（観光形態別）



札幌市以外に居住する道民による札幌市内での観光消費額（消費項目別）



3. 道外客の観光消費実態調査

3.1 道外客の札幌市への入り込み状況

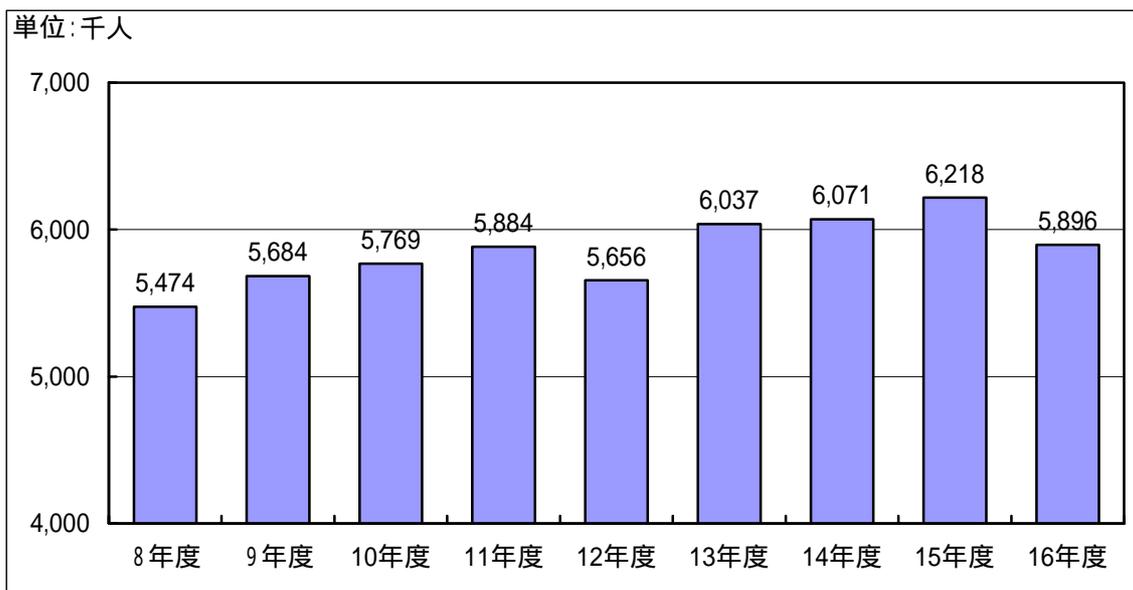
平成7年度以降、道外から訪れる観光客の札幌市への入り込みは、有珠山噴火のあった平成12年度こそ落ち込みがみられたものの、全体としては順調な増加傾向にあり、平成15年度にはピークとなる622万人に達した。

しかしながら、平成16年度は国内旅行全体の落ち込み等の影響で観光客が大幅に減少したことから、札幌市を訪れる道外客も前年度から30万人以上減少の590万人となっている。

道外客の札幌市への入り込み状況を月別にみると、夏から秋にかけての6～10月に多くなっている。中でも7～8月は入り込み数が75万人を超えるなど、特に入り込みの多い月となっている。

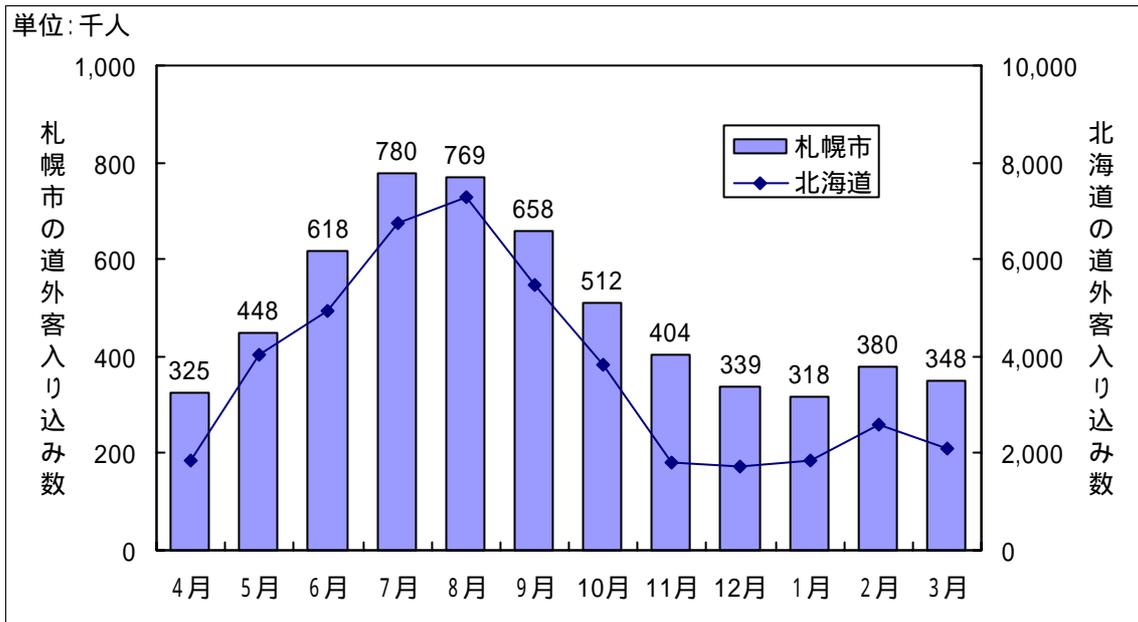
一方、冬期の入り込みは全体的に少なく、夏期のピーク時と比べると5割程度の入り込みとなっている。

道外客の札幌市への観光入り込みの推移



資料：札幌の観光（札幌市観光文化局観光部観光企画課）

道外客の札幌市への月別入り込み状況



資料：札幌市観光文化局観光部観光企画課資料

ここで、道外客の道内での訪問先をみると、「札幌」「小樽」「旭川」「富良野」「網走」等が上位に並んでいるが、特に「札幌」を訪れる道外客が突出して多く、全体の 58.7% を占めている。

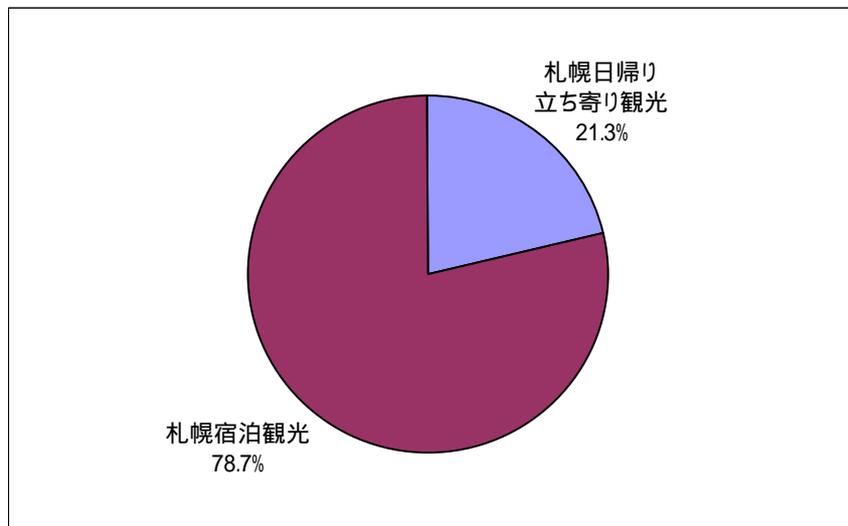
札幌市を訪れた道外客のうち、8割以上が宿泊をとまなう観光となっており、道外客にとって札幌市は観光地としてのみならず、宿泊の拠点あるいは観光地間の移動の拠点として重要な位置付けにあることがうかがえる。

道外客の訪問地

訪問地	回答者数	回答比率 (%)	訪問地	回答者数	回答比率 (%)
函館	95	10.5	美瑛	172	19.0
大沼公園	38	4.2	トマム	15	1.7
松前	2	0.2	層雲峡	133	14.7
江差	6	0.7	留萌	23	2.5
奥尻	3	0.3	天売・焼尻	6	0.7
札幌	532	58.7	稚内	34	3.8
定山溪	55	6.1	利尻・礼文	20	2.2
支笏湖	115	12.7	網走	204	22.5
中山峠	21	2.3	北見	69	7.6
小樽	235	25.9	美幌峠	72	7.9
積丹	16	1.8	温根湯	40	4.4
ニセコ	31	3.4	サロマ湖	41	4.5
ルスツ	23	2.5	小清水原生花園	70	7.7
夕張	49	5.4	知床	142	15.7
登別	80	8.8	紋別	25	2.8
室蘭	34	3.8	帯広	51	5.6
苫小牧	110	12.1	十勝川温泉	35	3.9
白老	25	2.8	サホロ	5	0.6
洞爺	82	9.1	釧路	100	11.0
昭和新山	62	6.8	摩周湖・川湯	163	18.0
えりも	12	1.3	阿寒	123	13.6
旭川	246	27.2	根室	12	1.3
富良野	208	23.0	野付半島	18	2.0

「A」は40%以上、「B」は20%以上40%未満、「C」は10%以上20%未満、無印は10%未満の来訪者比率
該当するものすべての複数回答

札幌市を訪れた道外客の札幌市内での宿泊比率



3.2 道外客による札幌市内での消費実態

(1) 1人当たりの平均消費金額（観光1回当たり）

道外客が行った観光における札幌市内での消費相当分について、観光1回当たりの平均消費金額でみると、「札幌日帰り立ち寄り観光」が総額で15,994円、「札幌宿泊観光」が36,321円となっており、全体平均では32,000円となっている。

各観光形態の道外客モニター数でウエイト換算したもの

消費項目別の平均消費金額

「札幌日帰り立ち寄り観光」では買物関係の消費金額が6,795円と最も多く、これに差がなく交通費が6,490円で続いている。以下、雑費などが1,369円、外食費が1,339円の順となっている。

「札幌宿泊観光」では交通費が14,793円と最も多くなっている。以下、宿泊費が9,152円、買物関係が6,434円、外食費が4,557円、雑費などが1,385円となっている。

道外客における観光1回当たりの平均消費金額

単位：円

消費項目	札幌日帰り立ち寄り観光	札幌宿泊観光	平均
交通費	6,490	14,793	13,028
宿泊費	-	9,152	7,207
外食費	1,339	4,557	3,873
買物関係	6,795	6,434	6,510
雑費など	1,369	1,385	1,382
総計	15,994	36,321	32,000

宿泊費の平均については、宿泊費が発生しない「札幌日帰り立ち寄り旅行」も考慮した上での平均。

ツアー料金の取り扱いについて

パックツアー利用客のツアー料金には、移動のための交通費や宿泊費等が含まれることになるが、消費項目別の詳細な支払い状況までは把握できないため、一定の割合で各消費項目への配分を行った。

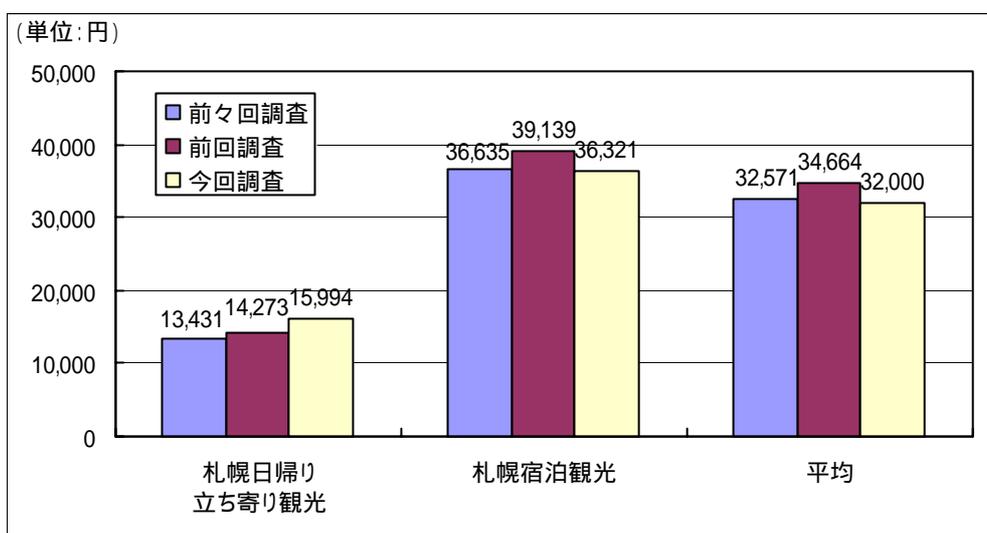
なお、北海道内までの交通費については、北海道内での消費に相当する分のみを配分した。具体的には、航空機利用者の場合はその全額が道外での消費に相当すると捉え、消費金額からは除いた。また、JR利用者の場合はJR北海道での売上に相当する分のみを配分した。フェリー利用者の場合は北海道を発地とする場合の料金のみを配分した。

過去の調査との比較

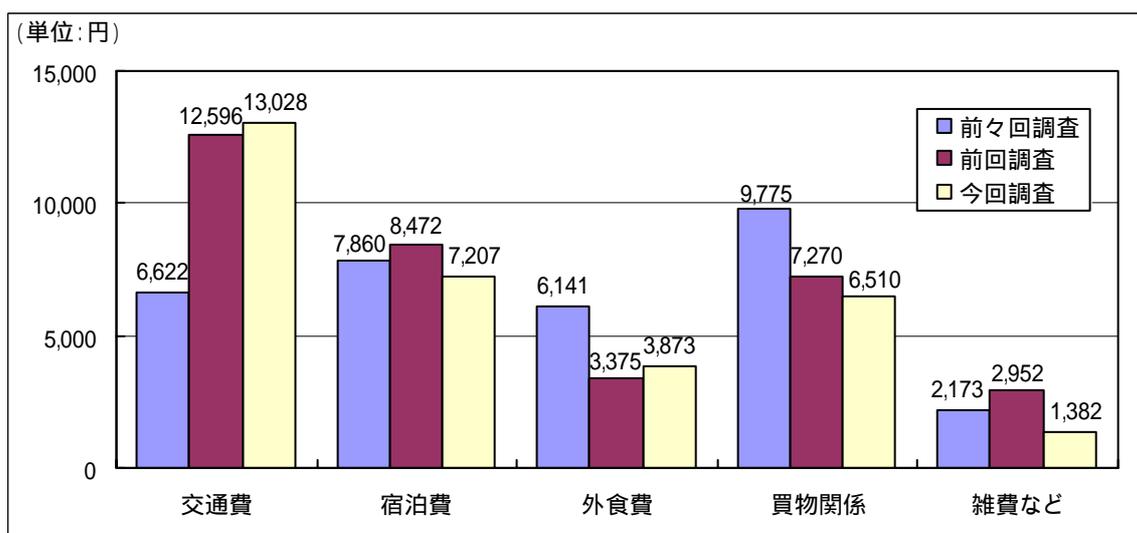
観光形態別に前回調査と比較すると、「札幌日帰り立ち寄り観光」で平均消費金額が1,700円ほど増加したものの、「札幌宿泊観光」で平均消費金額が2,800円ほど減少しており、全体平均では2,664円の減少となっている。

消費項目別にみると、前回調査と比べて外食費及び交通費が増加しており、それぞれ500円程度の増加となっている。そのほかの消費項目はいずれも減少しており、宿泊費、雑費などが1,000円を超える減少となったほか、買物関係も700円を超える減少となった。

観光1回当たりの平均消費金額（観光形態別）



観光1回当たりの平均消費金額（消費項目別）



宿泊費については、宿泊費が発生しない「札幌日帰り立ち寄り旅行」も考慮した上での平均。

(2) 年間の観光消費額

観光形態別の1人当たり平均消費金額に平成16年度における札幌市への道外客入り込み数を乗じて求めた道外客の年間観光消費額は1,887億円と推計された。

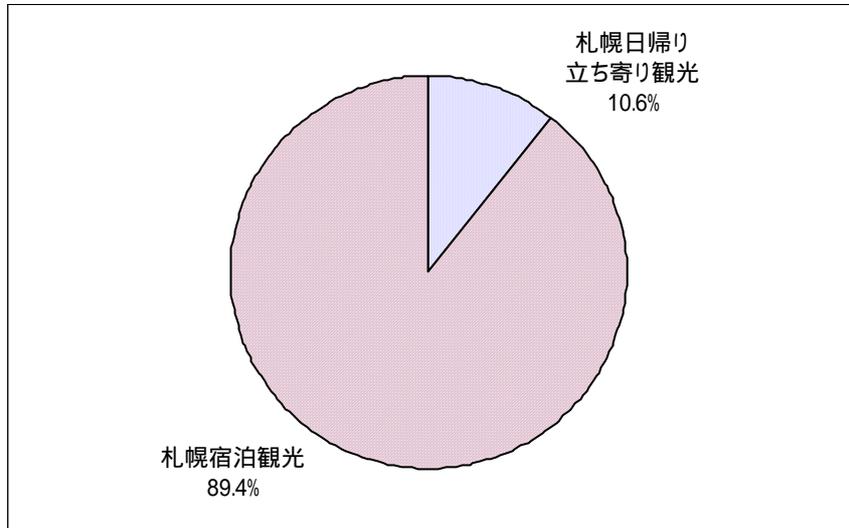
これを観光形態別にみると、「札幌日帰り立ち寄り観光」が全体の10.6%(200億円)、「札幌宿泊観光」が89.4%(1,686億円)となっている。

札幌市民世帯による札幌市内での年間観光消費額

単位：百万円

消費項目	札幌日帰り立ち寄り観光	札幌宿泊観光	合計
交通費	8,134	68,685	76,819
宿泊費	-	42,496	42,496
外食費	1,678	21,158	22,837
買物関係	8,517	29,872	38,389
雑費など	1,716	6,431	8,147
総計	20,046	168,642	188,688

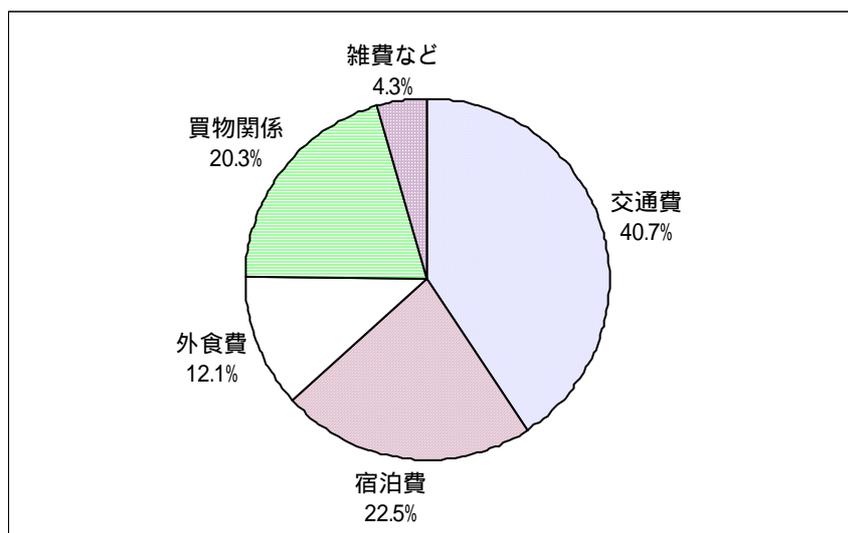
観光形態別の年間観光消費額の構成



消費項目別の観光消費額

消費項目別では、交通費が最も多く全体の40.7%(768億円)を占めている。次いで、宿泊費が22.5%(425億円)、買物関係が20.3%(384億円)、外食費が12.1%(228億円)、雑費などが4.3%(81億円)となっている。

消費項目別の年間観光消費額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも100とはならない。

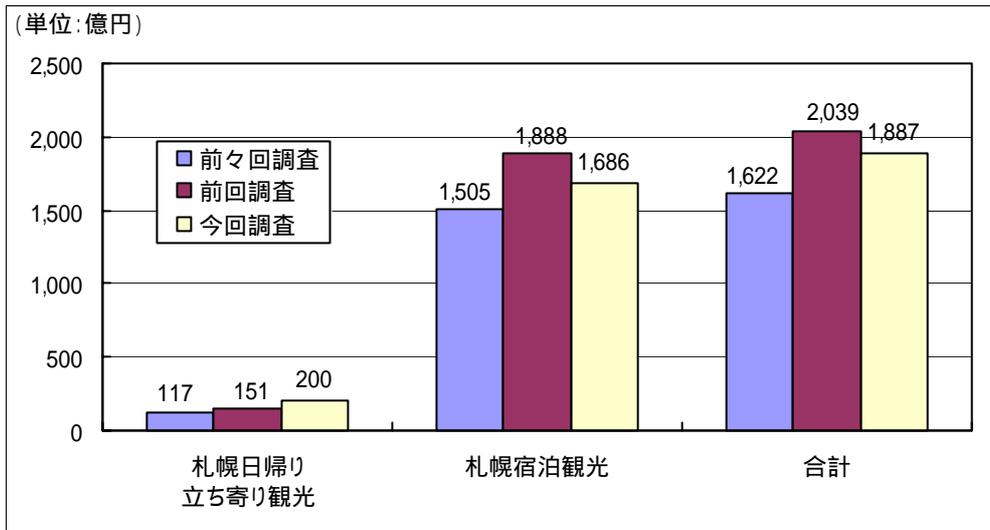
過去の調査との比較

今回調査における道外客による札幌市内での年間観光消費額は1,887億円であり、観光客1人当たりの平均消費金額が減少したことから、前回調査の2,039億円から152億円の減少となっている。

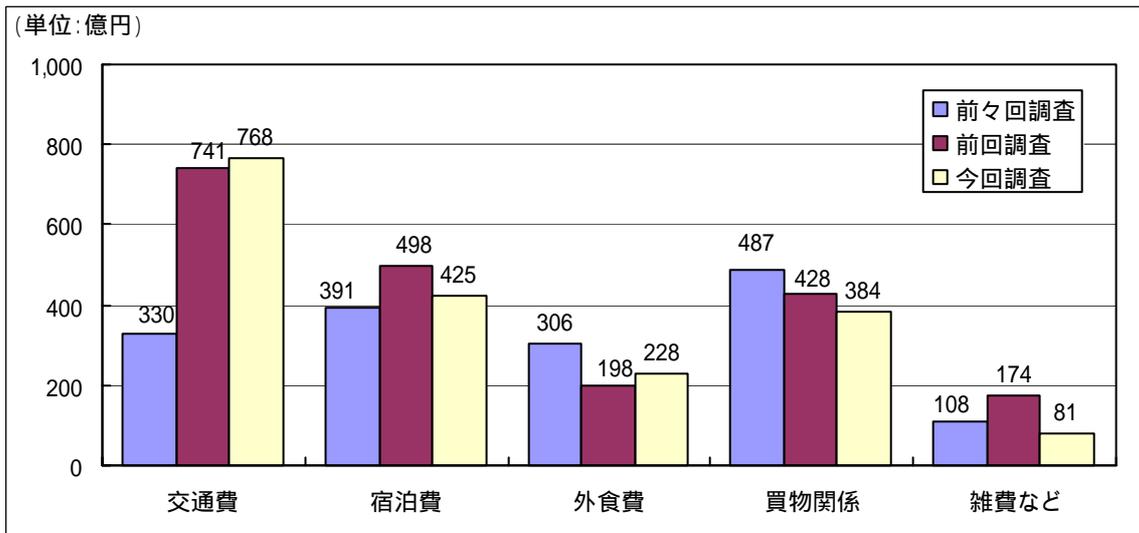
観光形態別に前回調査と比較すると、「札幌日帰り立ち寄り観光」において年間消費額が49億円増加したものの、「札幌宿泊観光」において年間消費額が202億円減少している。

消費項目別にみると、外食費及び交通費が増加しており、それぞれ30億円、27億円の増加となっている。そのほかの消費項目はいずれも減少しており、最も減少額が多かったのは雑費などの93億円であり、以下、宿泊費の73億円、買物関係の44億円となっている。

道外客による札幌市内での観光消費額（観光形態別）



道外客による札幌市内での観光消費額（消費項目別）



4．道民及び道外客による札幌市内での総観光消費額

4．1 札幌市内での総観光消費額

世帯の観光消費から捉えた札幌市民及び札幌市以外に居住する道民による年間観光消費額と道外客による年間観光消費額を合わせた総観光消費額は4,776億円となっている。このうち、札幌市民による観光消費額が1,226億円で全体の25.7%、札幌市以外に居住する道民による観光消費額が1,663億円で全体の34.8%、道外客による観光消費額が1,887億円で39.5%となっている。

(1) 消費項目別の総観光消費額

消費項目についてみると、交通費の消費額が1,610億円で最も多く、総観光消費額の33.7%を占めている。次いで、買物関係が1,156億円(24.2%)、外食費が756億円(15.8%)、宿泊費が749億円(15.7%)、雑費などが496億円(10.4%)などとなっている。

ここで買物関係の消費細目についてみると、「菓子、めん類、弁当、パン等」が200億円と最も多く、次いで、「織物、衣服、ハンカチ等の布製品」が160億円、「その他の品物」が141億円、「電気製品、電池、カメラ・時計等」が106億円、「水産加工品」が76億円の順となっている。また、「おみやげ品」としては292億円が消費されており、買物関係全体の25.3%を占めている。

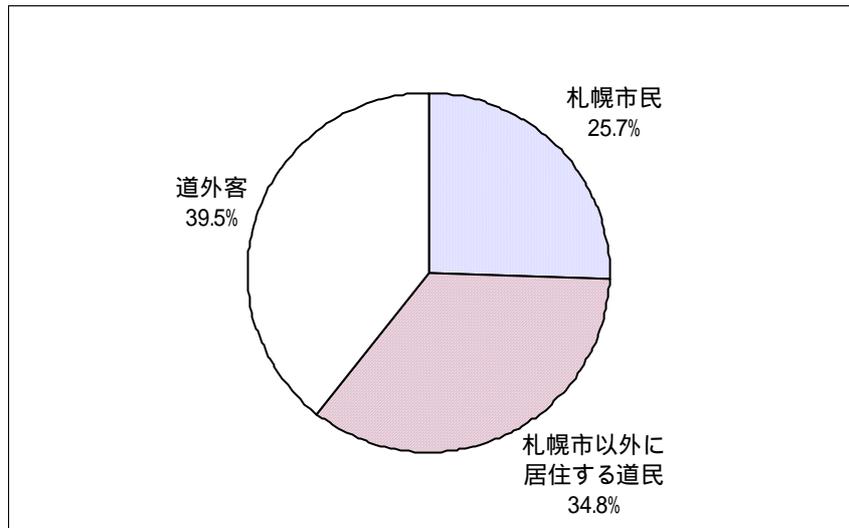
札幌市内での年間観光消費額

単位：百万円

消費項目	道民観光消費額	札幌市内		道外客観光消費額	総観光消費額
		札幌市民	札幌市以外に居住		
交通費	84,175	53,620	30,555	76,819	160,994
旅行会社マージン	882	882	-	-	882
宿泊費	32,408	8,355	24,053	42,496	74,904
外食費	52,812	19,044	33,768	22,837	75,649
買物関係	77,161	15,005	62,157	38,389	115,550
雑費など	41,475	25,723	15,752	8,147	49,622
総計	288,913	122,628	166,285	188,688	477,601

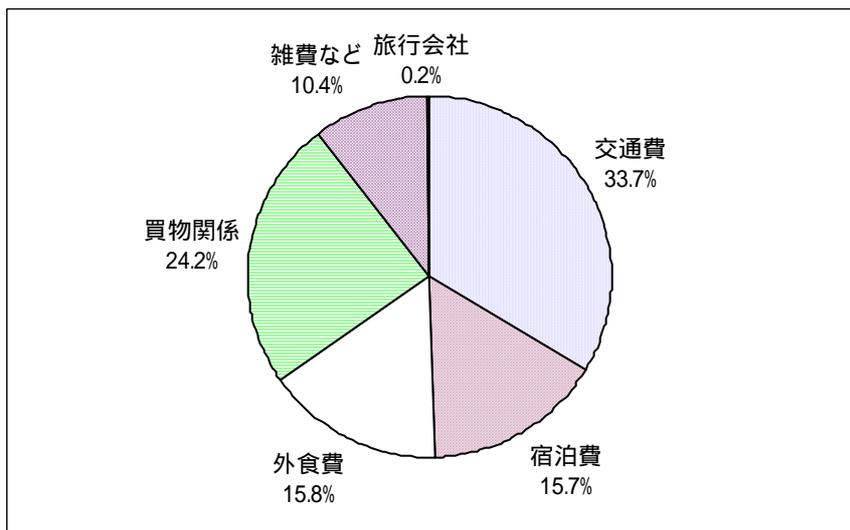
四捨五入の関係上、消費項目の内訳の合計は必ずしも総計とは一致しない。

居住地別の総観光消費額の割合



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

消費項目別の総観光消費額の割合



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

買物関係の観光消費額における消費細目（上位10細目）

単位：百万円

	総観光消費額	道民 観光消費額		道外客 観光消費額	
		札幌市民	札幌市以外 に居住		
買物・おみやげ代	115,550	77,161	15,005	62,157	38,389
菓子、めん類、弁当、パン等	19,992	12,679	3,250	9,429	7,313
織物、衣服、ハンカチ等の布製品	16,037	14,565	2,806	11,759	1,472
その他の品物	14,149	7,424	898	6,526	6,725
電気製品、電池、カメラ・時計等	10,589	10,361	1,102	9,259	227
水産加工品	7,628	2,192	397	1,796	5,435
生鮮魚介類	6,567	2,499	232	2,267	4,068
清涼飲料水（コーラ、ジュースなど）購入費	6,243	4,815	1,629	3,186	1,428
ビール、ウイスキー等の酒類購入費	5,766	4,094	1,400	2,694	1,672
玩具、ぬいぐるみ、小物等の雑貨	5,281	4,074	888	3,186	1,208
野菜、果物などの農産品	4,203	2,305	392	1,913	1,898
（内おみやげ品代）	29,241	14,900	2,387	12,513	14,341

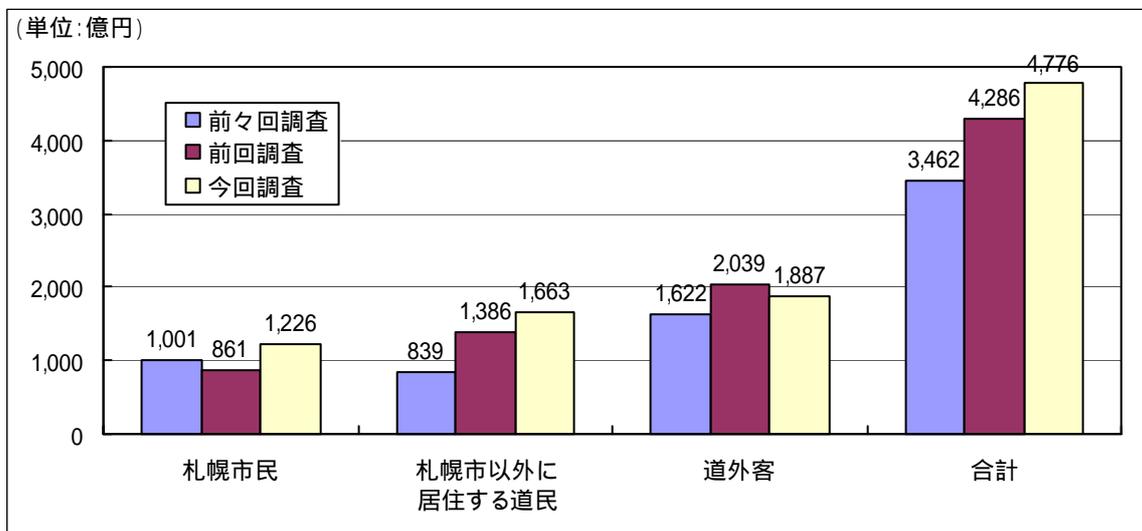
(2) 過去の調査との比較

道外客による観光消費額は減少したものの、札幌市民及び札幌市以外に居住する道民による観光消費額が増加した結果、総観光消費額は前回調査から 490 億円の増加となっている。

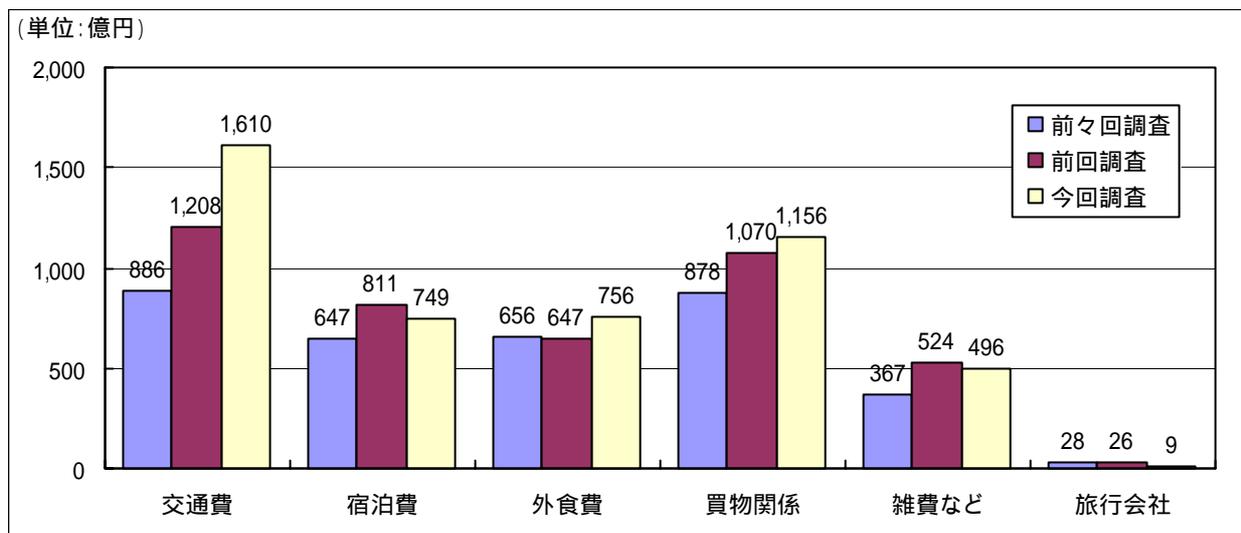
消費項目別にみると、宿泊費、雑費など、旅行会社マージンの消費額が減少したものの、交通費、外食費、買物関係の消費額が増加している。

なお、増加額が最も大きかった消費項目は交通費の 402 億円であり、減少額が最も大きかった消費項目は宿泊費の 62 億円となっている。

居住地別の総観光消費額の推移



消費項目別の総観光消費額の推移



4.2 北海道における札幌市内での総観光消費額の位置付け

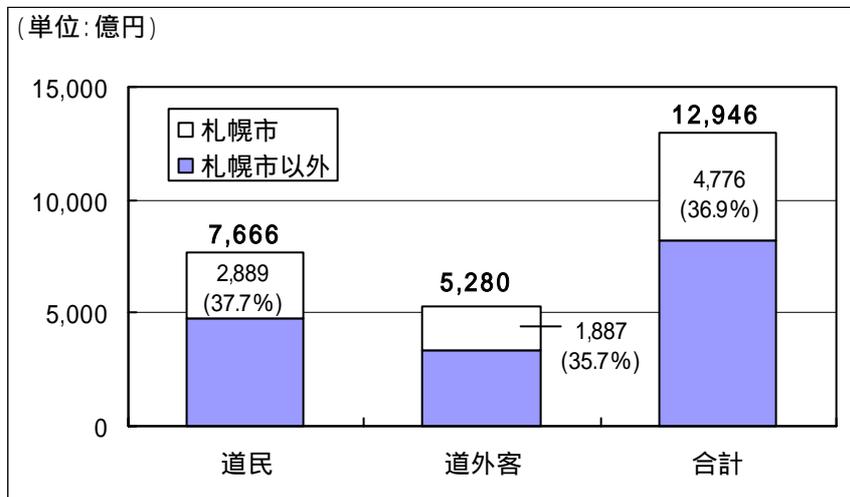
(1) 総観光消費額の位置付け

1年間に北海道全体で消費される観光消費額は12,946億円であり、このうち36.9%に相当する4,776億円が札幌市内で消費されている。

道民、道外客別に札幌市内での観光消費額の割合をみると、道民では37.7%、道外客では35.7%となっている。

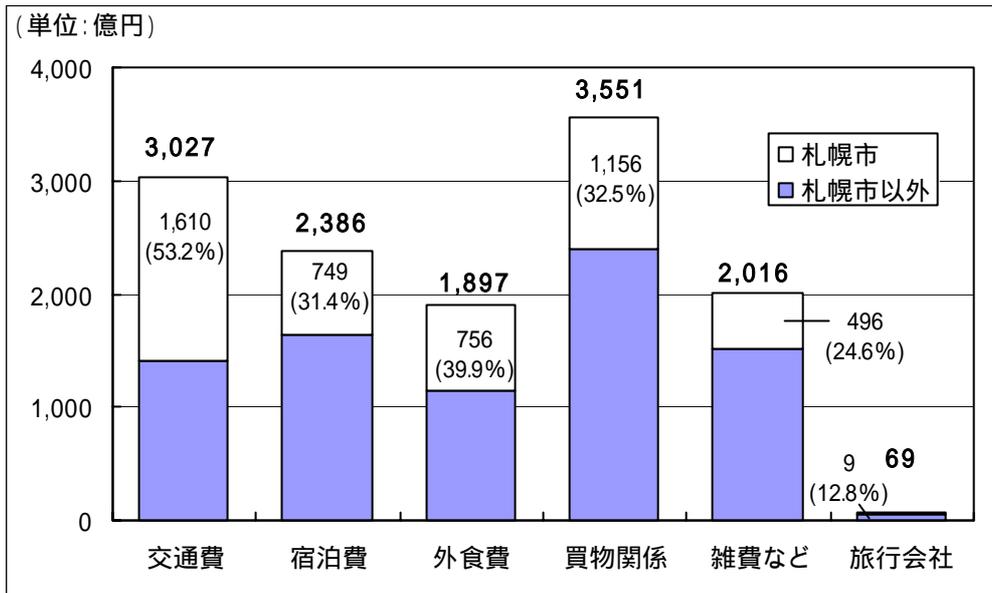
消費項目別に札幌市内での観光消費額の割合をみると、交通費が53.2%と最も高くなっている。以下、外食費が39.9%、買物関係が32.5%、宿泊費が31.4%、雑費などが24.6%などとなっている。

北海道に占める札幌市内での観光消費額の割合



図中の構成比は、観光消費額の前数値をもって算出した値。

消費項目別の北海道に占める札幌市内での観光消費額の割合



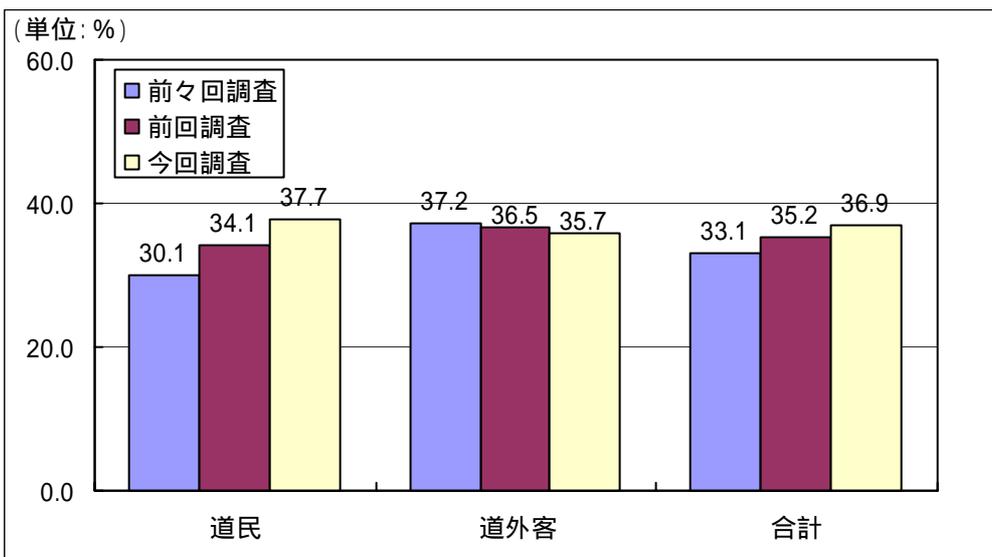
図中の構成比は、観光消費額の実数値をもって算出した値。

(2) 過去の調査との比較

1年間に北海道全体で消費される観光消費額のうち、札幌市内での観光消費額の割合は36.9%であり、前回調査の35.2%から1.7%の上昇となっている。

道民、道外客の別にみると、道外客による観光消費額の割合は低下しているものの、道民による観光消費額の割合が上昇している。

北海道に占める札幌市内での観光消費額の割合の推移



・観光がもたらす経済効果の分析

これまで札幌市民及び市外客（札幌市以外に居住する道民、道外客）の札幌市内における観光の消費内容や規模についてみてきた。

本章では、これらの一次消費が結果として札幌市の産業や経済にどの程度の影響を及ぼしているのかについて計測する。

1．観光関連最終需要額の推計

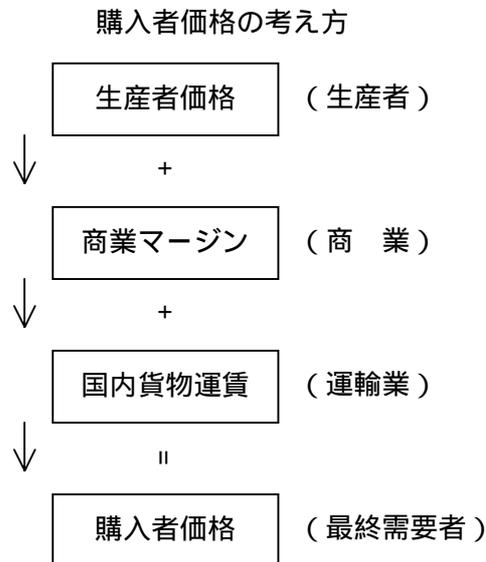
1.1 購入者価格から生産者価格への変換

産業連関分析により各種経済効果を計測するためには、前章までにみてきた消費項目別の消費額を産業分野別の投入額に変換することが必要となる。これは購入者価格から生産者価格への変換を意味している。

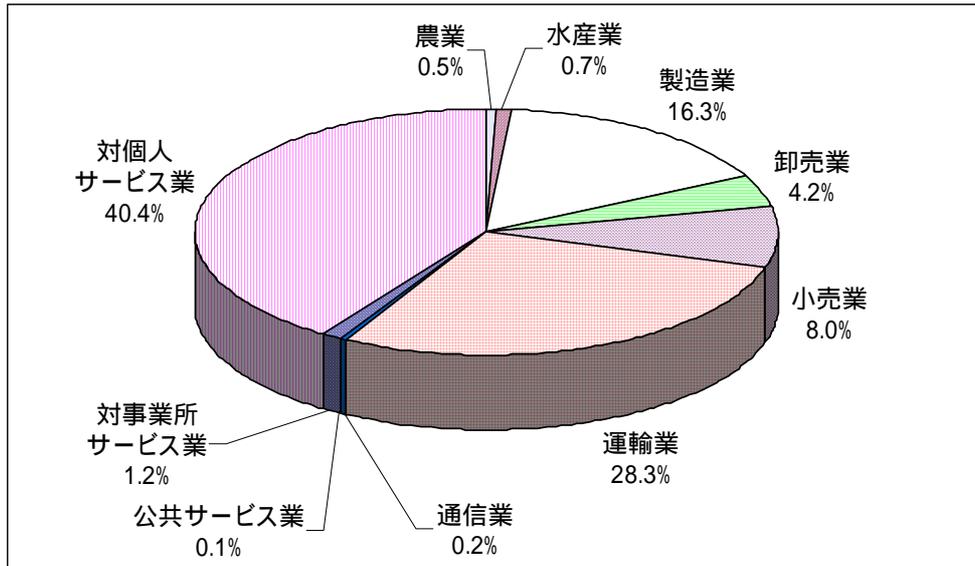
購入者価格と生産者価格との違いは流通経費、すなわち商業マージン及び国内貨物運賃の取扱いにあり、流通経費を含んでいるものが購入者価格、含んでいないものが生産者価格となっている。

このため各種経済効果を求める際には、購入者価格ベースで示されている観光消費額から商業マージン及び国内貨物運賃を差し引いて生産者価格ベースの金額を算出することが必要となる。

一方、差し引かれた商業マージン及び国内貨物運賃はそれぞれ商業部門、運輸部門に加算されることになる。



業種別の観光関連最終需要額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

札幌市における観光関連最終需要額

単位:百万円

業種	観光関連最終需要額				
	総額	構成比 (%)	札幌市民	その他道民	道外客
農業	2,626	0.5	245	1,196	1,186
水産業	3,524	0.7	125	1,217	2,183
製造業	77,945	16.3	21,083	37,843	19,019
卸売業	19,957	4.2	4,090	10,083	5,785
小売業	38,390	8.0	7,277	20,065	11,048
運輸業	134,984	28.3	36,687	22,309	75,988
通信業	772	0.2	37	120	615
公共サービス業	640	0.1	34	540	66
対事業所サービス業	5,696	1.2	344	547	4,805
対個人サービス業	193,066	40.4	52,706	72,366	67,994
合計	477,601	100.0	122,628	166,285	188,688

四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

2. 観光関連消費にともなう経済波及効果の計測

2.1 生産波及効果

(1) 生産波及効果について

生産誘発効果

札幌市民及び市外客（札幌市以外に居住する道民、道外客）の観光行動にともなう一次消費（最終需要額）は、その消費が行われた産業のみに影響を及ぼすわけではない。

例えば、小売業の売上は卸売業を通じて製造業に、また製造業においてもその商品を生産するための原材料やエネルギー需要、更には原材料や商品の輸送を他の産業に依存しており、一つの商品に対する消費は当該産業のみにとどまらず、さまざまな産業に波及している。

こうした産業間の取引により各産業の生産が誘発される効果が「生産誘発効果」であり、生産誘発額で表される。

家計迂回効果

「生産誘発効果」によって誘発された生産の増加は、その当該産業に所属する雇用者の所得の増加につながり、この個人の所得の増加は家計を通じて、更に新たな消費を促すことになる。

この消費の流れは理論的には無限に繰り返されることになり、こうした経路を通して誘発される生産額が「家計迂回効果」として表される。

「家計迂回効果」は家計消費部門も擬制的に産業部門とみなす家計内生モデル¹によって得られる生産波及額²から「生産誘発効果」による生産誘発額を除くことによって算出される。

1：家計内生モデルは、家計消費部門において家計の買い入れた各産業の生産物（財貨・サービス）を家計への投入物として、労働という生産物を産出して各産業へ売り渡すという生産活動を営んでいるとみなしたモデル。

2：家計内生モデルで計測される値は「生産誘発効果」による生産誘発額と「家計迂回効果」の双方を合計した金額であり、ここでは生産波及額と表す。

(2) 観光消費による生産波及効果

札幌市民及び市外客の観光関連最終需要額 4,776 億円によって、札幌市内で 6,403 億円の生産（生産波及額）が誘発されていると推計される。これは観光関連最終需要額の約 1.34 倍に相当している。

このうち産業間取引による誘発額（生産誘発額）は 5,046 億円と推計され、生産波及額の 78.8% を占め、観光関連最終需要額の約 1.06 倍となっている。また家計迂回による生産誘発額は 1,358 億円と推計される。

産業別にみると、対個人サービス業が 2,213 億円と最も生産波及額が多く、波及総額の 34.6% を占めている。次いで運輸業が 1,416 億円（22.1%）、小売業が 704 億円（11.4%）、対事業所サービス業が 388 億円（6.1%）、製造業が 376 億円（5.9%）の順となっている。

各産業の生産波及額について更に詳細にみると、対個人サービス業では「飲食店」「宿泊施設」「娯楽サービス」の順に波及額が大きい。運輸業では「道路輸送」「鉄道輸送」の順に波及額が大きく、対事業所サービス業では「自動車修理」「その他の対事業所サービス」「貸自動車」の順に波及額が大きく、製造業では「めん類、パン類、菓子類」「水産以外の加工食品」「出版・印刷」「酒類」「その他の飲料」で大きくなっている。

生産波及効果について

ある産業に新たな需要が生じたときに行われる生産は、需要が生じた産業だけでなく、原材料等の取引を通じて関連する他の産業にも波及していきます。また、これらの生産活動にともない生じる雇用者所得は、消費支出として新たな需要を生み出し、更に生産を誘発していきます。こうした生産の流れは理論的には無限に繰り返されることとなります。

このように、ある産業に新たな需要が生じた際に、結果として産業全体に誘発された生産がどれくらいになるのかを示したものが「生産波及効果」であり、「産業連関表」から導き出される「逆行列係数」を用いることで求めることができます。

産業連関表について

産業間の取引状況を表形式で表したものです。この表をタテ方向にみることで、各産業が製品を生産するのに要した投入物の費用構成が分かり、ヨコ方向にみることで、各産業が生産した製品の販路構成が分かります。

産業連関表を用いることで、経済構造の現状分析や各種の経済波及効果の測定、経済予測等の分析等が行えます。

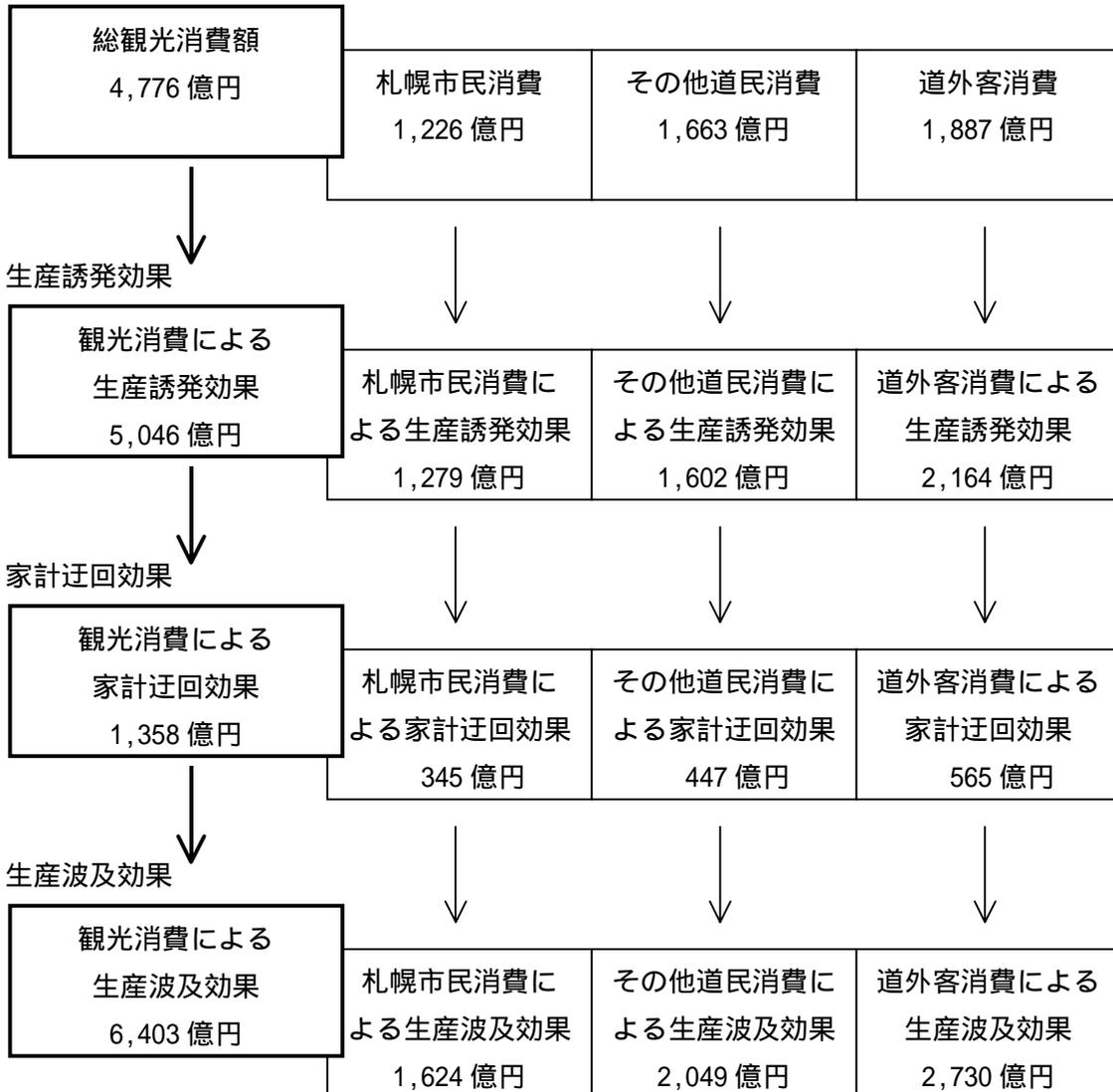
逆行列係数について

ある産業に 1 単位の需要が生じたときに、直接あるいは間接の波及効果により各産業の生産額が最終的にどれくらいになるかを示した係数です。

逆行列係数は、産業連関表のタテ方向の費用構成に着目した投入係数表（ある産業で生産物を 1 単位生産するために必要な各産業からの原材料投入の構成を示した係数）から数学的に求められるものです。

観光消費による生産波及効果

観光消費



注) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

観光消費による産業別生産波及効果

単位:百万円

産 業	計	生産波及効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	603	417	186	0.1%
	100.0%	69.1%	30.9%	
林 業	50	30	19	0.0%
	100.0%	61.1%	38.9%	
漁 業	6	6	1	0.0%
	100.0%	88.7%	11.3%	
鉱 業	14	10	4	0.0%
	100.0%	70.6%	29.4%	
製 造 業	37,597	27,919	9,678	5.9%
	100.0%	74.3%	25.7%	
建 設 業	8,566	6,120	2,446	1.3%
	100.0%	71.4%	28.6%	
電気・ガス・水道業	15,903	11,587	4,315	2.5%
	100.0%	72.9%	27.1%	
卸 売 業	14,949	10,853	4,096	2.3%
	100.0%	72.6%	27.4%	
小 売 業	70,376	47,118	23,258	11.0%
	100.0%	67.0%	33.0%	
金 融 ・ 保 険 業	28,501	20,391	8,111	4.5%
	100.0%	71.5%	28.5%	
不 動 産 業	35,874	7,984	27,890	5.6%
	100.0%	22.3%	77.7%	
運 輸 業	141,582	132,856	8,727	22.1%
	100.0%	93.8%	6.2%	
通 信 業	9,350	5,014	4,335	1.5%
	100.0%	53.6%	46.4%	
公 務	859	163	696	0.1%
	100.0%	18.9%	81.1%	
公 共 サ ー ビ ス 業	15,950	2,892	13,057	2.5%
	100.0%	18.1%	81.9%	
対事業所サービス業	38,841	31,904	6,936	6.1%
	100.0%	82.1%	17.9%	
対個人サービス業	221,304	199,285	22,019	34.6%
	100.0%	90.1%	9.9%	
計	640,324	504,550	135,774	100.0%
	100.0%	78.8%	21.2%	

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「生産波及効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果を意味し、産業間取引により誘発される生産額を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産額を示す。

すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

各産業において観光消費による生産波及額が大きい業種

単位:百万円

産業	業種細分類	総額	札幌市民	その他道民	道外客
農業	農産物	603	113	237	253
林業	林産物	50	10	19	21
漁業	水産物	6	1	2	3
鉱業	非金属鉱物	14	4	4	6
製造業	めん類 パン類 菓子類	11,867	2,199	5,229	4,439
	水産以外の加工食品	7,841	1,649	3,098	3,094
	出版・印刷	6,883	1,942	2,577	2,363
	酒類	3,074	701	1,263	1,110
	その他の飲料	1,679	416	738	525
	水産加工食品	1,492	221	455	816
	家具・装備品	867	231	295	341
建設業	建築	8,566	2,456	2,590	3,520
電気・ガス・水道業	電力	6,222	1,706	1,991	2,525
	ガス・熱供給・水道	6,019	1,431	2,080	2,507
卸売業	卸売	14,949	3,383	6,021	5,545
小売業	小売	70,376	15,169	30,386	24,821
金融・保険業	金融	19,987	5,110	5,997	8,881
不動産業	住宅賃貸	25,678	6,524	8,460	10,694
運輸業	道路旅客輸送	82,123	19,423	9,113	53,587
	鉄道旅客輸送	38,807	11,258	9,147	18,401
	その他の運輸付帯サービス	11,616	4,225	3,164	4,227
通信業	通信	7,715	1,801	2,448	3,466
公務	公務(地方)	644	165	215	265
公共サービス業	医療・保険	5,217	1,194	2,056	1,967
	学校教育・研究	3,699	940	1,219	1,541
	その他の公共サービス	3,476	1,030	1,126	1,320
対事業所サービス業	自動車修理業	12,323	2,889	2,266	7,169
	その他の対事業所サービス	9,446	2,606	3,112	3,727
	貸自動車業	7,890	922	723	6,245
対個人サービス業	飲食店	83,989	21,163	36,516	26,310
	宿泊施設	76,584	8,782	24,607	43,196
	娯楽サービス	44,398	25,350	14,643	4,405

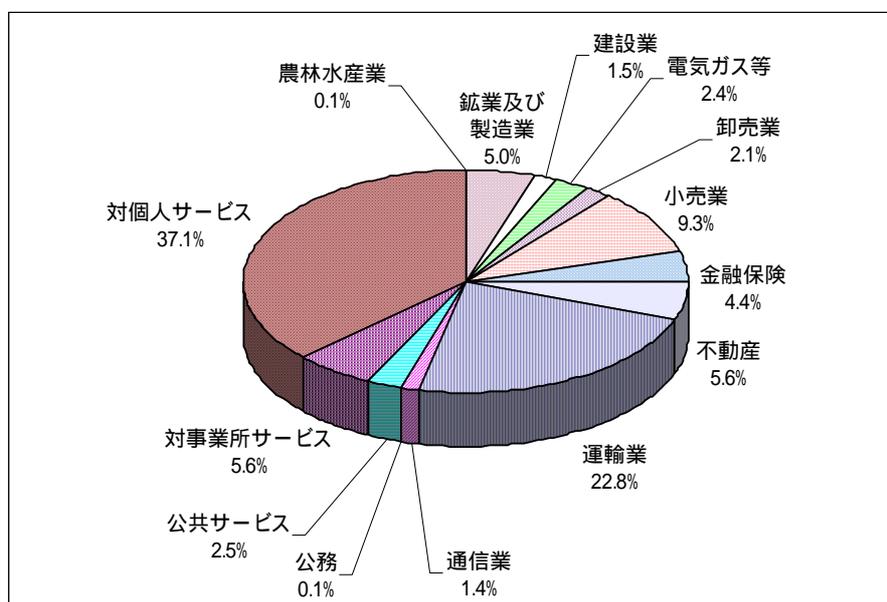
札幌市民の消費による生産波及効果

札幌市民の観光関連最終需要額 1,226 億円によって、札幌市内で 1,624 億円の生産(生産波及額)が誘発されており、このうち産業間取引による生産誘発額が 1,279 億円、家計迂回による生産誘発額が 345 億円と推計される。

生産波及額及び生産誘発額はそれぞれ観光関連最終需要額の約 1.32 倍、約 1.04 倍に相当している。

産業別にみると、対個人サービス業が 602 億円と最も波及効果が高く、生産波及総額の 37.1%を占めている。次いで運輸業が 371 億円(22.8%)、小売業が 152 億円(9.3%)の順となっている。

札幌市民の消費による業種別生産波及額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

札幌市民の観光消費による生産波及効果

単位:百万円

産 業	計	生産波及効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	113	66	47	0.1%
	100.0%	58.1%	41.9%	
林 業	10	5	5	0.0%
	100.0%	51.3%	48.7%	
漁 業	1	0	0	0.0%
	100.0%	70.1%	29.9%	
鉱 業	4	3	1	0.0%
	100.0%	73.9%	26.1%	
製 造 業	8,187	5,728	2,459	5.0%
	100.0%	70.0%	30.0%	
建 設 業	2,456	1,835	622	1.5%
	100.0%	74.7%	25.3%	
電気・ガス・水道業	3,936	2,840	1,096	2.4%
	100.0%	72.1%	27.9%	
卸 売 業	3,383	2,343	1,041	2.1%
	100.0%	69.2%	30.8%	
小 売 業	15,169	9,260	5,909	9.3%
	100.0%	61.0%	39.0%	
金 融 ・ 保 険 業	7,183	5,123	2,061	4.4%
	100.0%	71.3%	28.7%	
不 動 産 業	9,041	1,955	7,086	5.6%
	100.0%	21.6%	78.4%	
運 輸 業	37,074	34,857	2,217	22.8%
	100.0%	94.0%	6.0%	
通 信 業	2,260	1,159	1,101	1.4%
	100.0%	51.3%	48.7%	
公 務	220	43	177	0.1%
	100.0%	19.4%	80.6%	
公 共 サ ー ビ ス 業	4,062	744	3,317	2.5%
	100.0%	18.3%	81.7%	
対事業所サービス業	9,110	7,348	1,762	5.6%
	100.0%	80.7%	19.3%	
対個人サービス業	60,200	54,606	5,594	37.1%
	100.0%	90.7%	9.3%	
計	162,409	127,913	34,496	100.0%
	100.0%	78.8%	21.2%	

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「生産波及効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果を意味し、産業間取引により誘発される生産額を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産額を示す。

すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

札幌市以外に居住する道民の消費による生産波及効果

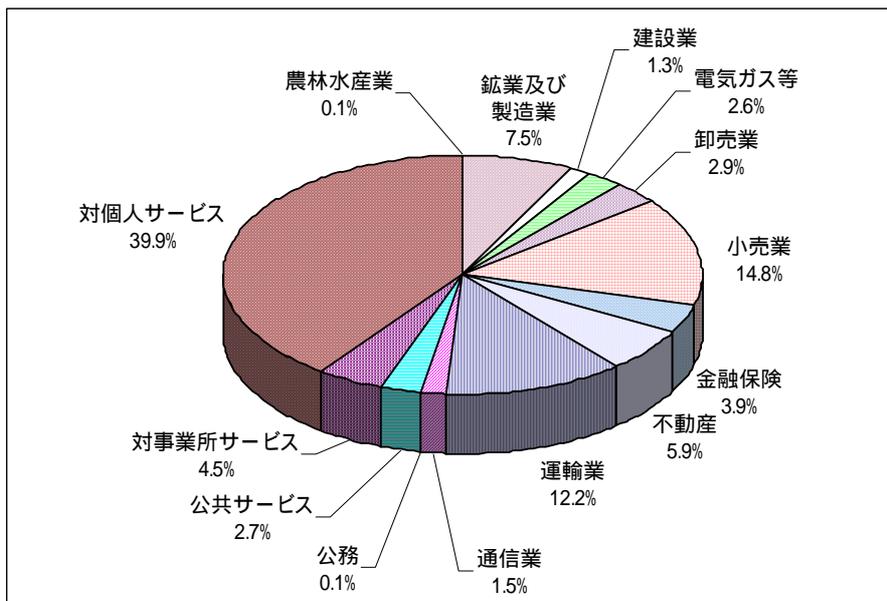
札幌市以外に居住する道民の観光関連最終需要額 1,663 億円によって、札幌市内で 2,049 億円の生産（生産波及額）が誘発されており、このうち産業間取引による生産誘発額が 1,602 億円、家計迂回による生産誘発額が 447 億円と推計される。

生産波及額及び生産誘発額はそれぞれ観光関連最終需要額の約 1.23 倍、約 0.96 倍に相当しており、札幌市民の消費による生産波及効果と比べて、その効果の度合いはやや低くなっている。

産業別にみると、対個人サービス業が 818 億円と最も波及効果が高く、波及総額の 39.9% を占めている。次いで、小売業が 304 億円（14.8%）、運輸業が 250 億円（12.2%）の順となっている。

全体の波及総額に対する構成比を札幌市民の消費によるものと比較すると、札幌市民よりも構成比の大きな産業は製造業、卸売業、小売業、対個人サービス業などであり、逆に低い産業は運輸業、対事業所サービス業などとなっている。

札幌市以外に居住する道民の消費による業種別生産波及額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

札幌市以外に居住する道民の観光消費による生産波及効果

単位:百万円

産 業	計	生産波及効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	237	176	61	0.1%
	100.0%	74.1%	25.9%	
林 業	19	12	6	0.0%
	100.0%	65.7%	34.3%	
漁 業	2	2	0	0.0%
	100.0%	89.4%	10.6%	
鉱 業	4	3	1	0.0%
	100.0%	68.6%	31.4%	
製 造 業	15,306	12,118	3,188	7.5%
	100.0%	79.2%	20.8%	
建 設 業	2,590	1,784	806	1.3%
	100.0%	68.9%	31.1%	
電気・ガス・水道業	5,286	3,864	1,422	2.6%
	100.0%	73.1%	26.9%	
卸 売 業	6,021	4,672	1,349	2.9%
	100.0%	77.6%	22.4%	
小 売 業	30,386	22,723	7,663	14.8%
	100.0%	74.8%	25.2%	
金 融 ・ 保 険 業	8,024	5,352	2,672	3.9%
	100.0%	66.7%	33.3%	
不 動 産 業	12,048	2,859	9,189	5.9%
	100.0%	23.7%	76.3%	
運 輸 業	25,009	22,134	2,875	12.2%
	100.0%	88.5%	11.5%	
通 信 業	3,040	1,612	1,428	1.5%
	100.0%	53.0%	47.0%	
公 務	287	57	229	0.1%
	100.0%	20.0%	80.0%	
公 共 サ ー ビ ス 業	5,572	1,270	4,302	2.7%
	100.0%	22.8%	77.2%	
対事業所サービス業	9,319	7,033	2,285	4.5%
	100.0%	75.5%	24.5%	
対個人サービス業	81,789	74,535	7,255	39.9%
	100.0%	91.1%	8.9%	
計	204,939	160,206	44,733	100.0%
	100.0%	78.2%	21.8%	

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「生産波及効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果を意味し、産業間取引により誘発される生産額を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産額を示す。

すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

道外客の消費による生産波及効果

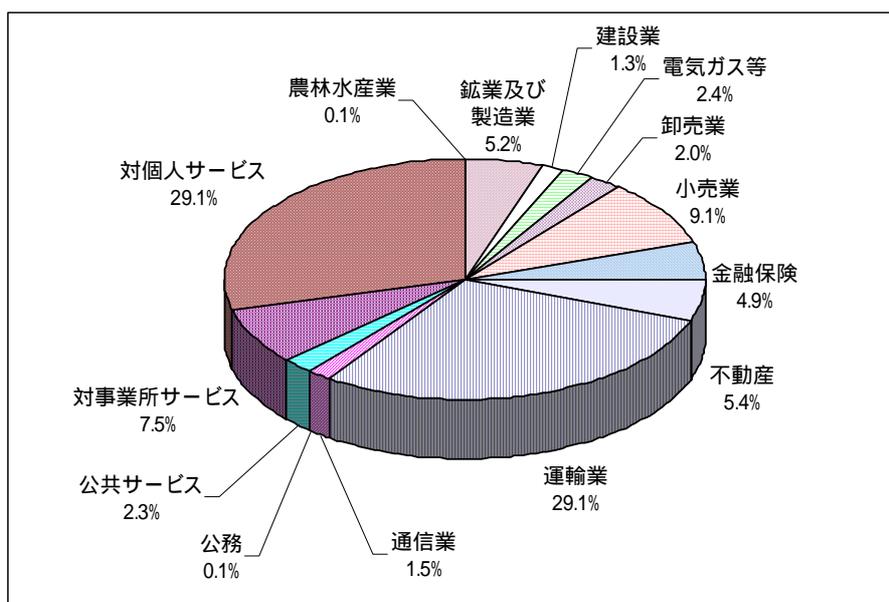
道外客の観光関連最終需要額 1,887 億円によって、札幌市内で 2,730 億円の生産（生産波及額）が誘発されており、このうち産業間取引による生産誘発額が 2,164 億円、家計迂回による生産誘発額が 565 億円と推計される。

生産波及額及び生産誘発額はそれぞれ観光関連最終需要額の約 1.45 倍、約 1.15 倍に相当しており、札幌市民の消費による生産波及効果に比べて、その効果の度合いがやや高くなっている。

産業別にみると、運輸業が 795 億円、対個人サービス業が 793 億円とこれら 2 つの産業の波及効果が高く、ともに波及総額の 29.1% を占めている。次いで、小売業が 248 億円（9.1%）、対事業所サービス業が 204 億円（7.5%）の順となっている。

全体の波及総額に対する構成比を札幌市民の消費によるものと比較すると、札幌市民よりも高い産業は運輸業、対事業所サービス業などであり、逆に低い産業は対個人サービス業などとなっている。

道外客の消費による業種別生産波及額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

道外客の観光消費による生産波及効果

単位:百万円

産 業	計	生産波及効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	253 100.0%	175 69.3%	78 30.7%	0.1%
林 業	21 100.0%	13 61.7%	8 38.3%	0.0%
漁 業	3 100.0%	3 91.5%	0 8.5%	0.0%
鉱 業	6 100.0%	4 69.9%	2 30.1%	0.0%
製 造 業	14,104 100.0%	10,073 71.4%	4,030 28.6%	5.2%
建 設 業	3,520 100.0%	2,501 71.1%	1,019 28.9%	1.3%
電気・ガス・水道業	6,681 100.0%	4,884 73.1%	1,797 26.9%	2.4%
卸 売 業	5,545 100.0%	3,839 69.2%	1,706 30.8%	2.0%
小 売 業	24,821 100.0%	15,135 61.0%	9,686 39.0%	9.1%
金 融 ・ 保 険 業	13,294 100.0%	9,917 74.6%	3,378 25.4%	4.9%
不 動 産 業	14,785 100.0%	3,170 21.4%	11,615 78.6%	5.4%
運 輸 業	79,499 100.0%	75,865 95.4%	3,634 4.6%	29.1%
通 信 業	4,049 100.0%	2,244 55.4%	1,805 44.6%	1.5%
公 務	353 100.0%	63 17.8%	290 82.2%	0.1%
公 共 サ ー ビ ス 業	6,316 100.0%	878 13.9%	5,438 86.1%	2.3%
対事業所サービス業	20,412 100.0%	17,523 85.8%	2,889 14.2%	7.5%
対個人サービス業	79,314 100.0%	70,144 88.4%	9,170 11.6%	29.1%
計	272,976 100.0%	216,430 79.3%	56,545 20.7%	100.0%

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「生産波及効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果を意味し、産業間取引により誘発される生産額を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産額を示す。

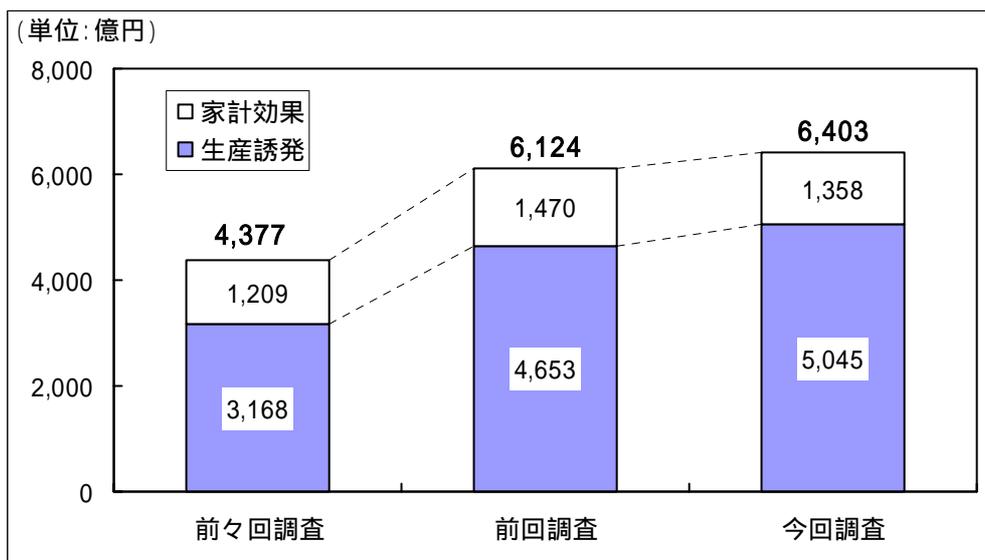
すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

(3) 過去の調査との比較

総観光消費額が前回調査から 490 億円増加したことにもない、生産波及額は前回調査から 279 億円増加している。

生産波及額の内訳について、前回調査と比較すると、生産誘発効果による波及額が 392 億円増加しているものの、家計迂回効果による波及額が 112 億円減少している。

観光消費により道内産業に誘発された生産波及額



注) 四捨五入の関係上、内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

2.2 所得形成効果

(1) 所得形成効果について

生産誘発効果は産業連関表の生産額ベースで推計したものであり、中間財と最終財を合わせたすべての生産額を意味している。

したがって仮に生産波及効果が大きいとしても、中間財の比重が大きな場合は物資等がめまぐるしく出入りした割に利益が上がらないということにもなりかねない。

そのため、ここでは一連の生産活動（投入・産出）によって新たな価値として生じた付加価値に視点をおくこととする。

産業連関表の付加価値部門は家計外消費支出、雇用者所得、営業余剰、資本減耗引当、純間接税（間接税 - 補助金）といった項目で構成されているが、ここでは家計外消費支出を除く付加価値を所得として計測することとする。これは道民経済計算における生産者価格表示の道内総生産に相当するものである。

所得形成効果の計測にあたっては前節で求めた生産波及額に所得率を乗じることにより算出する。ここでいう所得率とは、産業連関表における生産額に対する家計外消費を除く付加価値の割合を示したものである。

札幌市の産業全体の所得率は、平成7年産業連関表によると0.599であるが、この所得率は個々の産業によって大きく異なるため、産業別（93部門）に所得率を求めて、それぞれの産業の所得形成効果を算出した。

(2) 観光消費による所得形成効果

札幌市民及び市外客（札幌市以外に居住する道民、道外客）による観光消費が道内の全産業に与える経済波及効果は6,403億円であると推計された。

これに対応する所得形成効果は3,513億円であると推計され、そのうち産業間取引で誘発された生産に対応する所得が2,628億円、家計消費が誘発した生産に対応する所得が885億円と推計される。

産業別にみると、対個人サービス業が1,119億円と最も所得形成効果が高く、所得総額の31.9%を占めている。次いで、運輸業の610億円（17.4%）、小売業の512億円（14.6%）の順となっている。

各産業の所得形成効果について更に詳細にみると、対個人サービス業では「飲食店」「宿泊施設」「娯楽サービス」の順で形成効果が高く、運輸業では「道路輸送」「鉄道輸送」の順で形成効果が高くなっている。

観光消費による所得形成効果

観光による消費

札幌市内総観光消費額	4,776 億円			
↓	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">札幌市民 1,226 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">その他道民 1,663 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">道外客 1,887 億円</td> </tr> </table>	札幌市民 1,226 億円	その他道民 1,663 億円	道外客 1,887 億円
札幌市民 1,226 億円	その他道民 1,663 億円	道外客 1,887 億円		

産業間取引

生産誘発額 5,046 億円	→	生産誘発による所得形成 2,628 億円				
↓		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">札幌市民 680 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">その他道民 859 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">道外客 1,088 億円</td> </tr> </table>	札幌市民 680 億円	その他道民 859 億円	道外客 1,088 億円	
札幌市民 680 億円	その他道民 859 億円	道外客 1,088 億円				

家計消費

家計迂回額 1,358 億円	→	家計迂回による所得形成 885 億円				
↓		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">札幌市民 225 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">その他道民 291 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">道外客 368 億円</td> </tr> </table>	札幌市民 225 億円	その他道民 291 億円	道外客 368 億円	
札幌市民 225 億円	その他道民 291 億円	道外客 368 億円				

生産波及効果

生産波及効果 6,403 億円	→	生産誘発による所得形成 3,513 億円				
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">札幌市民消費による所得形成 905 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">その他道民消費による所得形成 1,151 億円</td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;">道外客消費による所得形成 1,457 億円</td> </tr> </table>	札幌市民消費による所得形成 905 億円	その他道民消費による所得形成 1,151 億円	道外客消費による所得形成 1,457 億円	
札幌市民消費による所得形成 905 億円	その他道民消費による所得形成 1,151 億円	道外客消費による所得形成 1,457 億円				

注) 四捨五入の関係上、内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

観光消費による産業別所得形成効果

単位:百万円

産 業	計	所得形成効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	335 100.0%	231 69.1%	103 30.9%	0.1%
林 業	34 100.0%	21 61.1%	13 38.9%	0.0%
漁 業	2 100.0%	2 88.7%	0 11.3%	0.0%
鉱 業	7 100.0%	5 70.6%	2 29.4%	0.0%
製 造 業	15,174 100.0%	11,385 75.0%	3,789 25.0%	4.3%
建 設 業	3,712 100.0%	2,652 71.4%	1,060 28.6%	1.1%
電気・ガス・水道業	10,675 100.0%	7,818 73.2%	2,856 26.8%	3.0%
卸 売 業	9,759 100.0%	7,085 72.6%	2,674 27.4%	2.8%
小 売 業	51,160 100.0%	34,252 67.0%	16,908 33.0%	14.6%
金 融 ・ 保 険 業	18,668 100.0%	13,256 71.0%	5,411 29.0%	5.3%
不 動 産 業	29,903 100.0%	6,228 20.8%	23,676 79.2%	8.5%
運 輸 業	61,029 100.0%	56,999 93.4%	4,030 6.6%	17.4%
通 信 業	6,066 100.0%	3,218 53.0%	2,849 47.0%	1.7%
公 務	600 100.0%	113 18.9%	486 81.1%	0.2%
公 共 サ ー ビ ス 業	10,566 100.0%	1,806 17.1%	8,760 82.9%	3.0%
対事業所サービス業	21,681 100.0%	17,888 82.5%	3,793 17.5%	6.2%
対個人サービス業	111,883 100.0%	99,842 89.2%	12,041 10.8%	31.9%
計	351,254 100.0%	262,801 74.8%	88,453 25.2%	100.0%

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「所得形成効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果による所得を意味し、産業間取引により誘発される生産に対応する所得を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産に対応する所得を示す。

すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

観光消費による所得形成効果の大きい業種

単位:百万円

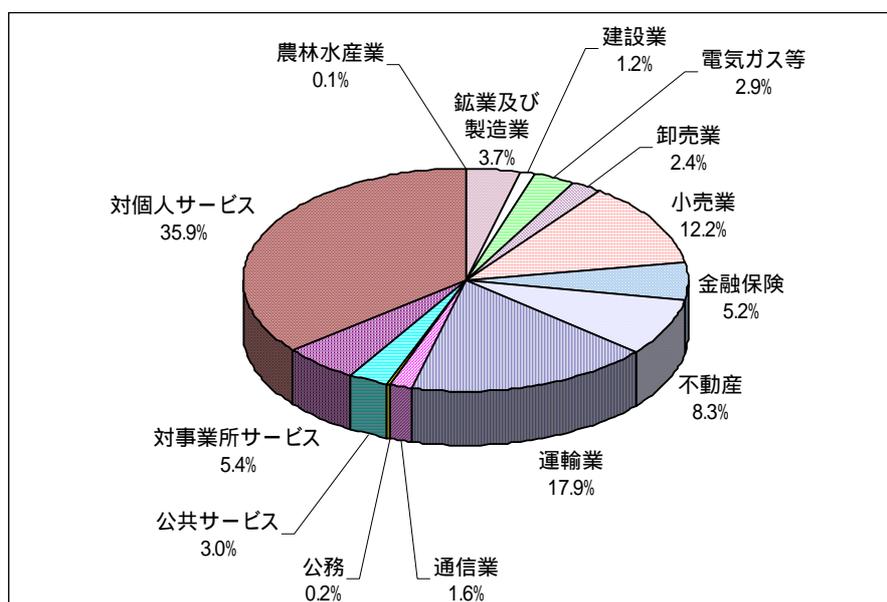
産業	業種細分類	総額	札幌市民消費	道民消費	道外客消費
農業	農産物	335	63	132	140
林業	林産物	34	7	13	14
漁業	水産物	2	0	1	1
鉱業	非金属鉱物	7	2	2	3
製造業	めん類、パン類、菓子類	4,632	858	2,041	1,733
	出版・印刷	3,506	989	1,313	1,204
	水産以外の加工食品	2,279	479	900	900
	酒類	2,083	475	856	752
	その他の飲料	558	138	245	174
	水産加工食品	402	60	123	220
	家具・装備品	331	88	113	130
建設業	建築	3,712	1,065	1,123	1,525
電気・ガス・水道業	電力	4,677	1,283	1,496	1,898
	ガス・熱供給・水道	3,449	820	1,192	1,437
卸売業	卸売	9,759	2,209	3,930	3,619
小売業	小売	51,160	11,027	22,089	18,044
金融・保険業	金融	12,755	3,261	3,827	5,667
不動産業	住宅賃貸	21,951	5,577	7,232	9,142
運輸業	道路旅客輸送	34,984	8,274	3,882	22,828
	鉄道旅客輸送	13,553	3,932	3,194	6,426
	その他の運輸付帯サービス	7,790	2,833	2,122	2,835
通信業	通信	5,338	1,246	1,694	2,398
公務	公務(地方)	473	121	158	194
公共サービス業	学校教育・研究	3,200	813	1,054	1,333
	医療・保険	2,892	662	1,139	1,090
	その他の公共サービス	2,237	663	725	850
対事業所サービス業	その他の対事業所サービス	6,351	1,753	2,092	2,506
	貸自動車業	5,742	671	526	4,545
	自動車修理業	5,567	1,305	1,024	3,238
対個人サービス業	飲食店	37,255	9,387	16,198	11,670
	宿泊施設	37,215	4,267	11,957	20,990
	娯楽サービス	27,740	15,839	9,149	2,752

札幌市民の消費による所得形成効果

札幌市民の観光消費が札幌市内の全産業に与える経済波及効果は 1,624 億円であると推計されたが、これに対応する所得形成効果は 905 億円と推計される。このうち産業間取引によって形成された所得が 680 億円、家計消費によって形成された所得が 225 億円と推計される。

産業別にみると、対個人サービス業が 325 億円と最も所得形成効果が高く、所得形成効果総額の 35.9% を占めている。次いで、運輸業が 162 億円（17.9%）、小売業が 110 億円（12.2%）の順となっている。

札幌市民の消費による業種別所得形成額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

札幌市民の観光消費による産業別所得形成効果

単位:百万円

産 業	計	所得形成効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	63	36	26	0.1%
	100.0%	58.1%	41.9%	
林 業	7	4	3	0.0%
	100.0%	51.3%	48.7%	
漁 業	0	0	0	0.0%
	100.0%	70.1%	29.9%	
鉱 業	2	1	1	0.0%
	100.0%	73.9%	26.1%	
製 造 業	3,385	2,422	963	3.7%
	100.0%	71.6%	28.4%	
建 設 業	1,065	795	269	1.2%
	100.0%	74.7%	25.3%	
電気・ガス・水道業	2,658	1,933	726	2.9%
	100.0%	72.7%	27.3%	
卸 売 業	2,209	1,529	679	2.4%
	100.0%	69.2%	30.8%	
小 売 業	11,027	6,731	4,296	12.2%
	100.0%	61.0%	39.0%	
金 融 ・ 保 険 業	4,701	3,326	1,375	5.2%
	100.0%	70.8%	29.2%	
不 動 産 業	7,540	1,525	6,015	8.3%
	100.0%	20.2%	79.8%	
運 輸 業	16,156	15,132	1,024	17.9%
	100.0%	93.7%	6.3%	
通 信 業	1,451	727	724	1.6%
	100.0%	50.1%	49.9%	
公 務	153	30	124	0.2%
	100.0%	19.3%	80.7%	
公 共 サ ー ビ ス 業	2,703	477	2,226	3.0%
	100.0%	17.6%	82.4%	
対事業所サービス業	4,906	3,942	964	5.4%
	100.0%	80.4%	19.6%	
対個人サービス業	32,475	29,415	3,059	35.9%
	100.0%	90.6%	9.4%	
計	90,499	68,026	22,473	100.0%
	100.0%	75.2%	24.8%	

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「所得形成効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果による所得を意味し、産業間取引により誘発される生産に対応する所得を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産に対応する所得を示す。

すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

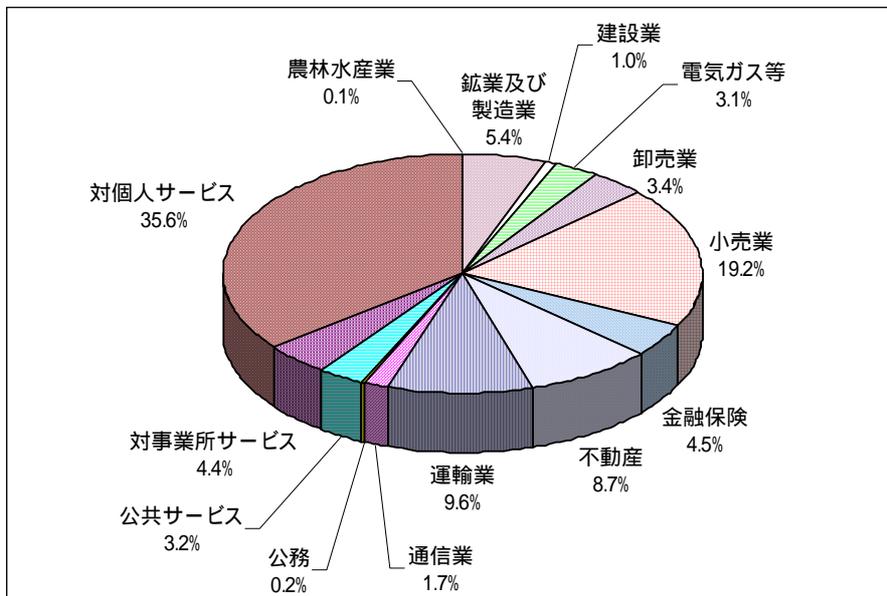
札幌市以外に居住する道民の消費による所得形成効果

札幌市以外に居住する道民の観光消費が道内の全産業に与える経済波及効果は 2,049 億円であると推計されたが、これに対応する所得形成効果は 1,151 億円であると推計される。このうち産業間取引によって形成された所得が 859 億円、家計消費によって形成された所得が 291 億円と推計される。

産業別にみると、対個人サービス業が 409 億円と最も所得形成効果が高く、所得形成効果総額の 35.6% を占めている。次いで、小売業が 221 億円（19.2%）、運輸業が 110 億円（9.6%）の順と推計される。

全体の所得形成効果総額に対する構成比を札幌市民の消費によるものと比較すると、札幌市民よりも構成比の大きな産業は製造業、卸売業、小売業などであり、逆に低い産業は運輸業、対事業所サービス業などとなっている。

札幌市以外に居住する道民の消費による業種別所得形成額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

道外客の観光消費による産業別所得形成効果

単位:百万円

産 業	計	生産波及効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	132	97	34	0.1%
	100.0%	74.1%	25.9%	
林 業	13	8	4	0.0%
	100.0%	65.7%	34.3%	
漁 業	1	1	0	0.0%
	100.0%	89.4%	10.6%	
鉱 業	2	1	1	0.0%
	100.0%	68.6%	31.4%	
製 造 業	6,178	4,929	1,248	5.4%
	100.0%	79.8%	20.2%	
建 設 業	1,123	773	349	1.0%
	100.0%	68.9%	31.1%	
電気・ガス・水道業	3,534	2,593	941	3.1%
	100.0%	73.4%	26.6%	
卸 売 業	3,930	3,050	881	3.4%
	100.0%	77.6%	22.4%	
小 売 業	22,089	16,519	5,571	19.2%
	100.0%	74.8%	25.2%	
金 融 ・ 保 険 業	5,235	3,452	1,783	4.5%
	100.0%	65.9%	34.1%	
不 動 産 業	10,030	2,230	7,800	8.7%
	100.0%	22.2%	77.8%	
運 輸 業	11,047	9,719	1,328	9.6%
	100.0%	88.0%	12.0%	
通 信 業	1,958	1,019	939	1.7%
	100.0%	52.1%	47.9%	
公 務	200	40	160	0.2%
	100.0%	19.9%	80.1%	
公 共 サ ー ビ ス 業	3,654	768	2,886	3.2%
	100.0%	21.0%	79.0%	
対事業所サービス業	5,044	3,795	1,250	4.4%
	100.0%	75.2%	24.8%	
対個人サービス業	40,918	36,950	3,967	35.6%
	100.0%	90.3%	9.7%	
計	115,087	85,944	29,142	100.0%
	100.0%	74.7%	25.3%	

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「所得形成効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果による所得を意味し、産業間取引により誘発される生産に対応する所得を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産に対応する所得を示す。

すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

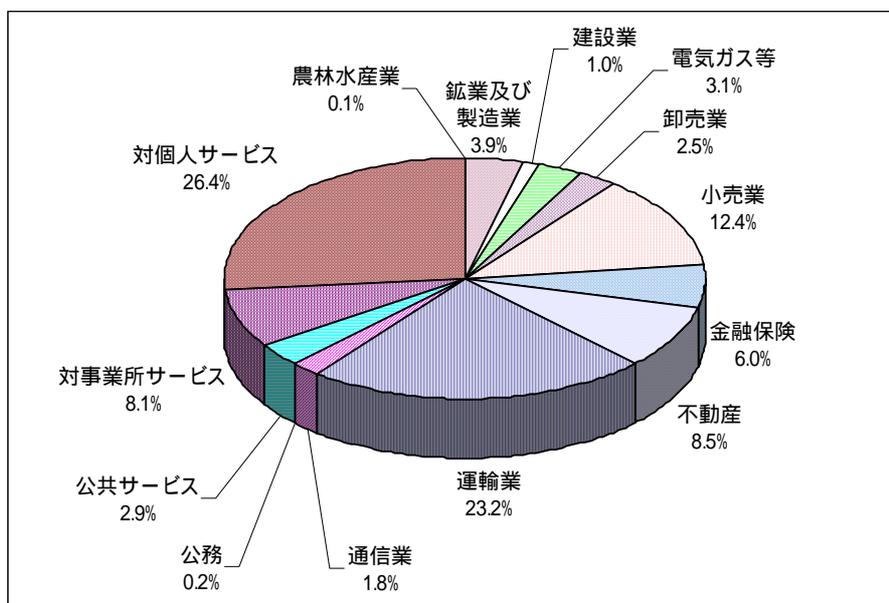
道外客の消費による所得形成効果

道外客の観光消費が札幌市内の全産業に与える経済波及効果は 2,730 億円であると推計されたが、これに対応する所得形成効果は 1,457 億円であると推計される。このうち産業間取引によって形成された所得が 1,088 億円、家計消費によって形成された所得が 368 億円と推計される。

産業別にみると、対個人サービス業が 385 億円と最も所得形成効果が高く、所得形成効果総額の 26.4% を占めている。次いで、運輸業が 338 億円（23.2%）、小売業が 180 億円（12.4%）の順と推計される。

全体の所得形成効果総額に対する構成比を札幌市民の消費によるものと比較すると、札幌市民よりも構成比の大きな産業は運輸業、対事業所サービス業などであり、逆に低い産業は対個人サービス業などとなっている。

道外客の消費による業種別所得形成額の構成



四捨五入の関係上、構成比の内訳の合計は必ずしも 100 とはならない。

道外客の観光消費による産業別所得形成効果

単位:百万円

産 業	計	所得形成効果		構成比
		生産誘発	家計効果	
農 業	140	97	43	0.1%
	100.0%	69.3%	30.7%	
林 業	14	9	6	0.0%
	100.0%	61.7%	38.3%	
漁 業	1	1	0	0.0%
	100.0%	91.5%	8.5%	
鉱 業	3	2	1	0.0%
	100.0%	69.9%	30.1%	
製 造 業	5,612	4,034	1,578	3.9%
	100.0%	71.9%	28.1%	
建 設 業	1,525	1,084	442	1.0%
	100.0%	71.1%	28.9%	
電気・ガス・水道業	4,482	3,293	1,190	3.1%
	100.0%	73.5%	26.5%	
卸 売 業	3,619	2,506	1,113	2.5%
	100.0%	69.2%	30.8%	
小 売 業	18,044	11,002	7,041	12.4%
	100.0%	61.0%	39.0%	
金 融 ・ 保 険 業	8,732	6,479	2,254	6.0%
	100.0%	74.2%	25.8%	
不 動 産 業	12,332	2,472	9,860	8.5%
	100.0%	20.0%	80.0%	
運 輸 業	33,826	32,148	1,678	23.2%
	100.0%	95.0%	5.0%	
通 信 業	2,658	1,472	1,186	1.8%
	100.0%	55.4%	44.6%	
公 務	246	44	203	0.2%
	100.0%	17.7%	82.3%	
公 共 サ ー ビ ス 業	4,209	561	3,648	2.9%
	100.0%	13.3%	86.7%	
対事業所サービス業	11,731	10,151	1,580	8.1%
	100.0%	86.5%	13.5%	
対個人サービス業	38,491	33,476	5,015	26.4%
	100.0%	87.0%	13.0%	
計	145,667	108,830	36,837	100.0%
	100.0%	74.7%	25.3%	

注1) 四捨五入の関係上、合計値は必ずしも一致しない。

2) 「所得形成効果」は家計内生化モデルによる推計値。

3) 「生産誘発」は生産誘発効果による所得を意味し、産業間取引により誘発される生産に対応する所得を示す。

4) 「家計効果」は生産増による所得の増加分が消費として投入されることによって誘発される生産に対応する所得を示す。

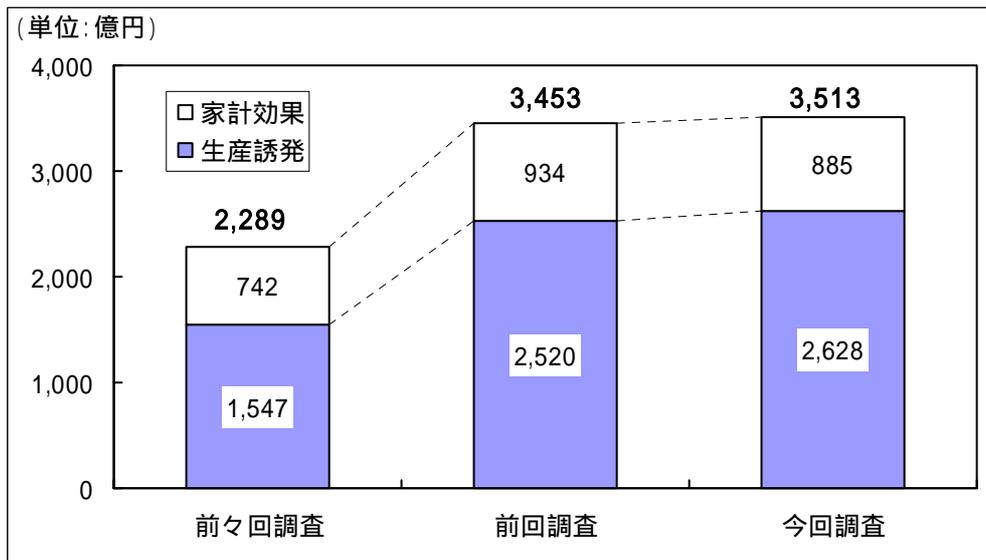
すなわち 「家計効果」 = 「生産波及効果」 - 「生産誘発効果」

(3) 過去の調査との比較

生産波及額は前回調査から 279 億円の増加となっていたが、これに対応する所得形成効果は前回調査から 60 億円の増加となっている。

所得形成効果の内訳について、前回調査と比較すると、生産誘発効果に対応する所得形成効果が 108 億円増加しているものの、家計迂回効果に対応する所得形成効果が 49 億円減少している。

観光消費により道内産業に誘発された所得形成効果



注) 四捨五入の関係上、内訳の計は必ずしも総額に一致しない。

2.3 就業機会（就業者数）の計測

（1）就業機会（就業者数）の計測について

これまで道内外の観光客の観光消費による経済波及効果について、生産波及効果及び所得形成効果からみてきたが、いずれもその単位は金額であった。

一般的にこうした金額では効果が具体的にイメージされにくいため、ここでは経済効果をより具体化させるという意味から、その経済効果がどれだけの人の就業機会に相当するかを推計してみる。

産業連関分析の場合、こうした就業機会（就業者数）の計測を行うことがしばしばあるが、いずれも“みなし”の場合が多い。それは生産額や所得が増加したということが、そのまま就業機会の増加の直接要因とはならないからである。

例えば生産額の増加を考えると、中間投入の占める割合が高ければ付加価値が少なく、また生産額の増加は設備拡充や在庫増などの影響もあり、必ずしも労働力に規定されるわけでもない。所得の増加についても従業員の残業やアルバイト人員の増加となって現れているのが現状である。いずれにしても就業要因は複雑であり、その計測には自ずと限界が生じるわけである。

ここで計測する就業機会（就業者数）についても以上のような理由から、あくまでも現実的な数値ではなく、“みなし”としてのものである。

産業連関表により就業者数を求める方法としては、生産額（全国の産業連関表に添付されている労働力投入係数も生産額ベースである）、総生産、純生産、雇用者所得等を指標とするものがあるが、ここでは、純生産を指標とする方法をとる。すなわち観光客の消費により形成された純生産を札幌市における就業者1人当たりの純生産で除することにより就業者数を求めることとする。

ここでいう純生産とは市民経済計算の市内純生産のことで、産業連関表では雇用者所得と営業余剰を合わせたものに相当する。また就業者1人当たりの純生産の算出に当たっては調査年（平成16年度）に該当する業種別純生産が現時点（平成18年5月）で未公表であることから、平成15年度市民経済計算年報（札幌市）で示される要素費用表示の道内純生産を用いた。また就業者数については平成12年国勢調査報告時の札幌市の就業者数を用いた。

(2) 観光消費によって形成された就業機会(就業者数)

札幌市内外の観光客の観光消費により形成された純生産は札幌市全体で 2,713 億円であり、このうち札幌市民により 689 億円が、札幌市以外に居住する道民により 894 億円が、道外客により 1,130 億円が形成されたと推計される。

産業別にみると、サービス業が 1,132 億円と最も多く、次いで商業が 517 億円、運輸・通信業が 498 億円の順となっている。

この結果、観光客の需要に応じるための財・サービスの生産活動に就業している人の数は 39,390 人と計測される。

産業別にみると、就業者数の多いものからサービス業の 18,789 人、商業の 8,584 人、運輸・通信業の 7,305 人、鉱業及び製造業の 2,143 人の順となっている。

観光消費によって形成された就業機会

単位:百万円、人

産業	純生産				就業者数			
	計	札幌市民消費	道民消費	道外客消費	計	札幌市民消費	道民消費	道外客消費
農林水産業	329	62	128	138	203	38	79	86
鉱業及び製造業	11,009	2,467	4,463	4,079	2,143	480	869	794
建設業	3,224	924	975	1,325	625	179	189	257
電気・ガス・水道業	7,105	1,757	2,346	3,002	295	73	97	125
商業	51,717	11,239	22,083	18,396	8,584	1,866	3,665	3,053
金融・保険業	16,870	4,249	4,735	7,885	973	245	273	455
不動産業	17,488	4,404	5,885	7,200	413	104	139	170
運輸・通信業	49,753	12,684	8,808	28,262	7,305	1,862	1,293	4,150
サービス業	113,238	30,997	39,773	42,469	18,789	5,143	6,599	7,047
公務	578	148	193	237	60	15	20	25
計	271,312	68,931	89,389	112,992	39,390	10,005	13,223	16,162

注) 四捨五入の関係上、内訳の合計値は必ずしも総額に一致しない。

(3) 過去の調査との比較

生産波及額が前回調査から 279 億円増加したものの、純生産では 47 億円の減少となっている。

この結果、観光客の需要に応じるために各産業に従事していると計測された就業者数は前回調査から 1,739 人の減少となっている。

観光消費により形成された就業機会の推移

